

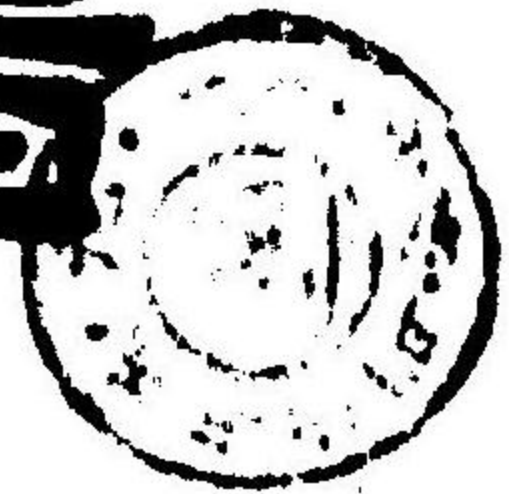
理學士山上萬次郎著

日本之部

最新中學地理教科書



大日本圖書株式會社



緒言

本書は特に中學校の地理教科用として編述せる余が最近の著作なり。其の教材の分量及び配置は勿論例證の適切、敘述の簡潔、著者の意を用ひし所なり。然れども本書の活用によりて、高等普通教育上教授の効果を收むるは、一にこれを實地教育家の技倆に待つ。若し夫れ本書教授上の注意に就ては、余は別に一書を編し、特にこれを當局の諸士に頒つべし。

明治三十五年九月

著者 識

凡例

- 一、本書は余が本年一月編述せる最近地理學教科書に大訂正を施せしものにして、特に中學校の教科用として編述せしものなり。
- 二、地圖其の他の挿圖は農商務省地質調査所出版の圖書に據れるもの最も多し、今一々爰に掲げず。
- 三、人種に關するものは、東京帝國大學理科大學人類學教室所藏の原圖に據る。但し同教室主任坪井先生の許諾に基き、島居龍藏君の選擇により、大野雲外君の揮毫に係る、爰に記して感謝の意を表す。
- 四、統計に關するものは日本帝國統計年鑑により、同書所載最近三年又は二年の平均を掲ぐ。

最近中學地理教科書 日本之部 目次

緒論

- 一、水陸の區分……………一
- 二、地球儀及び地圖……………二
- 三、兩極赤道三帶……………三
- 四、經緯度……………四

上篇 地文地理

第一章 位置及び輪廓

- 一、邦土の位置……………七
- 二、我が國の四隣……………七
- 三、邦土の輪廓……………八
- 四、邦土の面積……………九
- 五、海岸線……………九
- 六、海峽島半島及び岬……………一〇

第二章 地勢

七地勢及び山系

八火山及び地震

第三章 水系

九河湖

第四章 氣候

一〇氣温

一一雨霞

一二風

第五章 近海

一三海面及び海底

一四潮汐

一五海流

第六章 天産

一六植物

中篇 地方誌

第一章 本州東部

第一節 關東八州

一東京府

二埼玉縣

三神奈川縣

四千葉縣

五茨城縣

六栃木縣

七群馬縣

第二節 奥羽

八福島縣

九宮城縣

一七動物

一八礦物

一九

二〇

二一

二二

二三

二四

二五

二六

二七

二八

二九

三〇

三一

一〇.岩手縣	四四
一一.青森縣	四五
一二.秋田縣	四七
一三.山形縣	四八
第三節 新潟縣	五〇
一四.新潟縣	五〇
第四節 甲信地方	五二
一五.長野縣	五二
一六.山梨縣	五五
第二章 本州西部	五六
第一節 東海地方	五六
一七.靜岡縣	五六
一八.愛知縣	六〇
一九.岐阜縣	六一
二〇.三重縣	六三

第二節 近畿地方	六五
二一.滋賀縣	六五
二二.京都府	六六
二三.奈良縣	七〇
二四.大阪府	七二
二五.兵庫縣	七四
第三節 和歌山縣	七六
二六.和歌山縣	七六
第四節 北陸地方	七八
二七.福井縣	七八
二八.石川縣	七九
二九.富山縣	八〇
第五節 中國地方	八二
三〇.岡山縣	八二
三一.廣島縣	八四

三三山口縣	八六
三三島根縣	八八
三四島取縣	九〇
第三章 四國	九二
三五德島縣	九二
三六高知縣	九三
三七愛媛縣	九五
三八香川縣	九七
第四章 九州	九九
三九大分縣	九九
四〇宮崎縣	一〇〇
四一鹿兒島縣	一〇一
四二熊本縣	一〇四
四三長崎縣	一〇六
四四佐賀縣	一〇九

四五福岡縣	一一〇
第五章 北海道	一一三
第一節 地文地理	一一三
四六地勢	一一三
四七水誌	一一四
四八氣候	一一四
第二節 人文地理	一一五
四九人民	一一五
五〇政治	一一六
五一產業	一一六
五二交通	一一七
第三節 地方誌	一一九
五三北州	一一九
五四千島	一二四
第六章 南區	一二四

第一節 沖繩縣	一三四
五五 總論	一三四
五六 特設	一三七
第二節 臺灣	一三八
五七 地文地理	一三八
五八 人文地理	一三一
五九 地方誌	一三六
下篇 人文地理	一四一
第一章 住民	一四一
一 種族	一四一
二 四族	一四一
三 人口	一四二
四 教育	一四七
五 宗教	一四九
第二章 政治	一五二

第一節 統治	一五二
六 國體及び政體	一五二
七 帝國議會	一五二
八 行政部	一五三
九 裁判所	一五五
一〇 行政區劃	一五七
第二節 兵制	一五七
一一 兵役の種類	一五七
一二 陸軍	一五八
一三 海軍	一六〇
第三節 財政	一六一
一四 歳入及び歳出	一六一
一五 公債	一六三
第四節 外交	一六四
一六 我が國の條約國	一六四

第三章 産業……………	一六五
第一節 山林業……………	一六五
一七、山林の効用及び保護……………	一六五
第二節 牧畜業……………	一六六
一八、我が國の牛馬……………	一六六
第三節 水産業……………	一六八
一九、我が國の水産……………	一六八
第四節 農業……………	一七〇
二〇、我が國の農産……………	一七〇
第五節 鑛業……………	一七二
二一、我が國の鑛産……………	一七二
第六節 工業……………	一七三
二二、我が國の工業……………	一七三
第七節 商業……………	一七六
二三、我が國の商業……………	一七六

二四、外國貿易……………	一七八
第四章 交通……………	一八三
二五、陸路……………	一八三
二六、水路……………	一八七
二七、郵便電信電話……………	一八九

最新中學地理教科書 日本之部 目次 終

最新中學地理教科書 日本之部 挿圖畫目録

陸半球 水半球	二	二重橋及び楠公銅像	二六
三帯	四	東京市及び附近	二七
我が國の位置	六	伊能先生記念碑	二八
全土輪廓の變換	八	波浮港	二九
各部輪廓の變換	九	小笠原島の景	三〇
面積及び海岸線の比較	一〇	麥産額	三一
對馬海岸の一部	一一	横濱港及び附近	三二
大山系及び大火山脈	一二	横須賀港及び附近	三三
雨量	一九	銚子港及び附近	三五
駿河灣	二二	地引網	三六
等温線及び海流	二三	筑波山及び湖候所	三七
榕樹	二四	日光東照宮陽明門	三八

足尾銅山	三九	生絲産額	五四
榛名山燧燭岩	四〇	長野山梨二縣の地勢	五五
面積比較	四一	清水港及び附近	五七
破裂後の霧梯山	四二	富士山附近	五九
松島	四三	名古屋城	六〇
面積比較	四四	三河灣	六一
大船渡港	四五	長良川の鵜飼	六二
岩木山	四六	木曾川の下流附近	六三
大湊	四七	二見ノ浦	六四
秋田市及び附近	四八	志摩の海岸	六五
最上川の河口	四九	大津市及び附近	六六
米産額	五〇	京都市及び附近	六八
新潟市及び附近	五一	宮津及び附近	六九
東山石油坑の一部	五二	天ノ橋立	七〇
面積比較	五三	大佛	七一

大阪市及び附近	七二
近畿の鐵道網	七三
神戸港及び附近	七四
酒産額	七五
出本港	七七
絹織物産額	七八
敦賀港及び附近	七九
七尾灣	八〇
庄川の釣橋	八一
岡山市及び附近	八二
後樂園	八三
廣島灣	八四
嚴島神社	八五
錦帯橋	八七
下ノ關海峡及び附近	八八

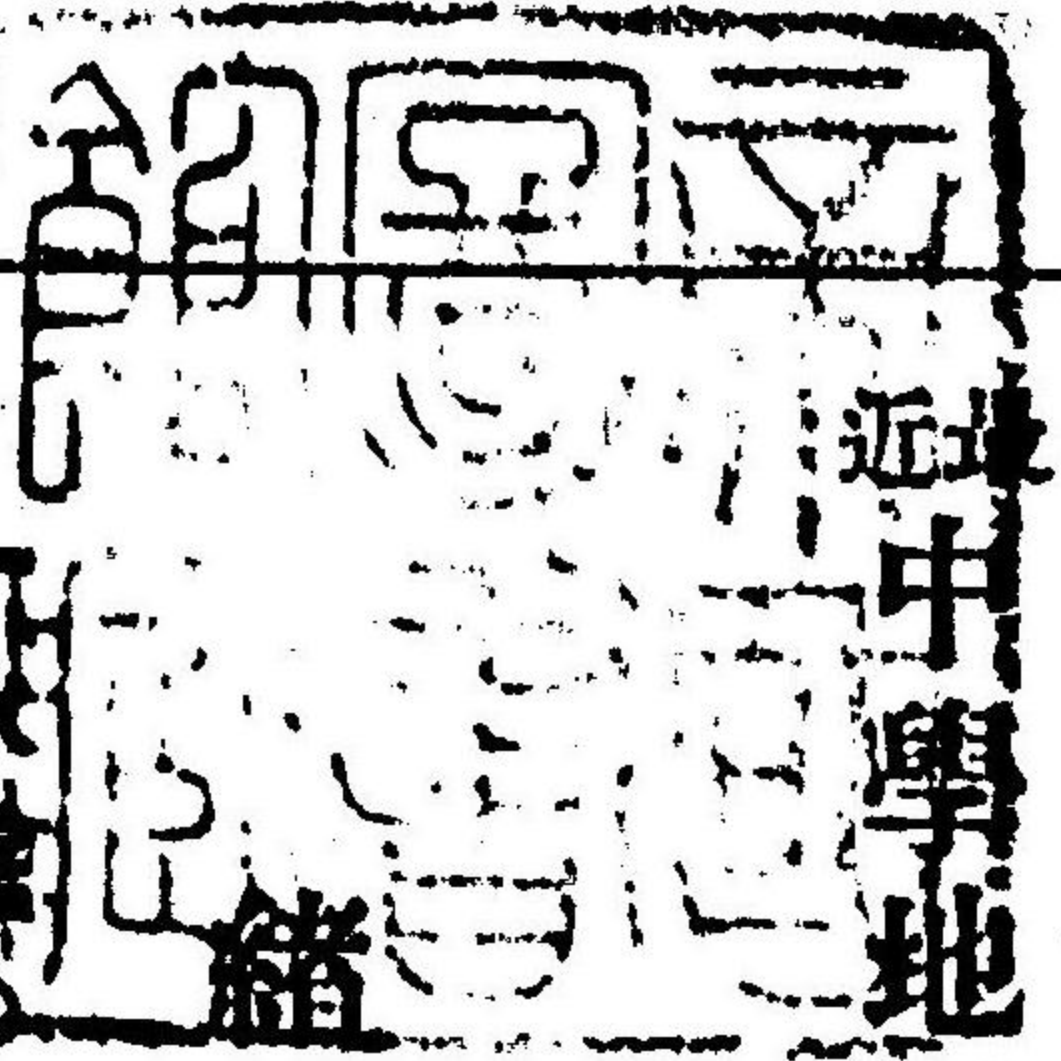
斐伊川の三角洲	八九
出雲大社	九〇
壇瀨	九二
養蠶産額	九二
高知市及び附近	九三
捕鯨(舊式)	九四
松山市及び附近	九五
別子及び附近	九六
製鹽産額	九七
大分縣温泉の分布	九九
霧島山御鉢噴火口	一〇一
山川港及び附近	一〇三
鹿兒島縣管轄區域	一〇三
熊本城	一〇五
阿蘇山の地形	一〇六

長崎縣管轄區域	一〇六
長崎港及び附近	一〇七
佐世保港及び附近	一〇八
佐賀縣南岸地面の干出	一〇九
博多灣	一一〇
太宰府神社	一一一
筑豊炭田	一一二
大川の長さ比較	一一三
天鹽川の河口	一一四
アイヌ人	一一五
水産物價額地方別	一二七
石狩川	一二八
室蘭港及び附近	一二九
函館港及び附近	一三〇
根室港及び附近	一三三

琉球人	一二五
沖繩島地	一二六
名山の高さ比較	一二八
臺灣東岸の絶壁	一二九
臺灣の漢種族	一三一
臺灣の蕃人	一三二
水牛 竹筏	一三四
蕃地旅行 轎 獨輪車	一三五
臺北城門	一三六
臺北及び附近	一三七
臺南及び附近	一三八
打狗及び附近	一三九
澎湖港	一四〇
人口の増加	一四二
人口の密度(地方別)	一四三

主要都會の分布	一四	製茶産額	一七一
日本人の分布	一四五	三池炭山の一部	一七二
東京府第一中學校	一四八	石炭産額	一七三
伊勢神宮	一四九	綿織絲産額	一七四
京都東本願寺	一五〇	印刷局	一七五
東京ニコライ教堂	一五一	日本銀行	一七七
帝國議會(貴族院議場)	一五三	主要輸出入品價額	一七九
行政區劃の面積比較	一五六	主要輸出入國及び物品	一八〇
師管區及び海軍區	一六一	開港場及び其の主要輸出入品	一八二
歳出入額比較	一六二	大井川運漕渡 觀不知子不知 木曾川鐵橋	一八四
地方債	一六三	葛橋 靱龍	一八五
北州の冬季材木運搬	一六六	東京附近の鐵道網	一八六
牛馬現在數	一六七	アプト式の鐵道線路	一八七
水産物産額種類別	一六九	燈臺 浮標 電話	一九〇
製茶	一七〇		

最近中學地理教科書日本之部附圖書目録終



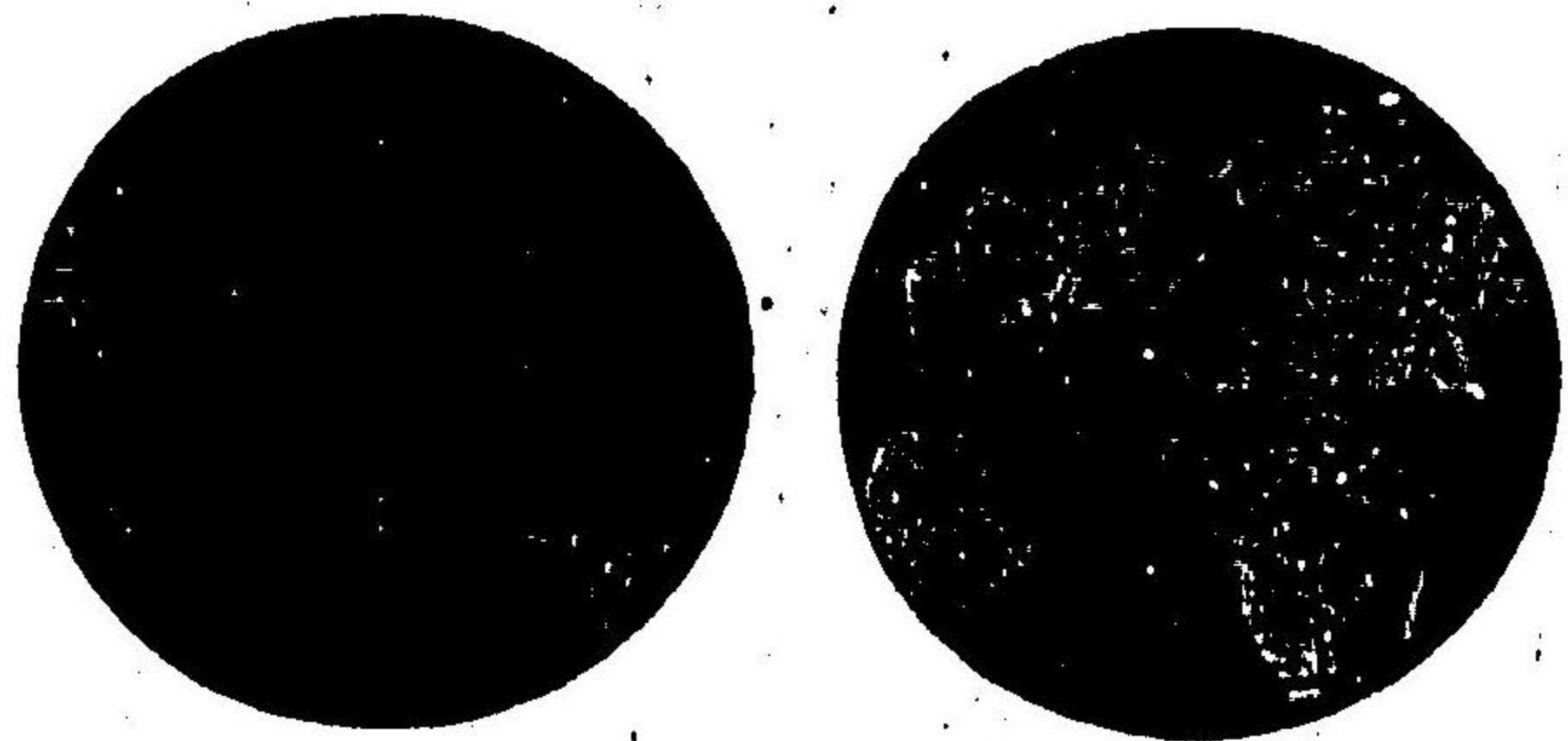
最近中學地理教科書 日本之部

理學士 山上萬次郎著

緒論

水陸の區分。地球の表面は陸と水とに分れ、其の面積の比は凡そ一と三との如し。水は互に連れども、陸の突出によりて、四個の大洋に區分せらる。太平洋・印度洋・大西洋南大洋これなり。

陸は相接せずして、大小の部分に分れ、其の大なるものを大洲と云ふ、小なるものを島と云ふ。アジア・ヨーロッパ・アフリカ・オーストラリアの四大洲は東半球にあり、北アメリカ



陸半球 水半球

南アメリカの二大洲は西半球にあり。水陸の分布を見るに、陸は北半球に多く、南半球に少く、又東半球に多く、西半球に少し。而して地球を一種の兩半球に分ち、以て一半球には陸を最も多く含ませしめ、他半球には水を最も多く含ませしめ、陸半球及び水半球これなり。

二、地球儀及び地圖。地球の形と

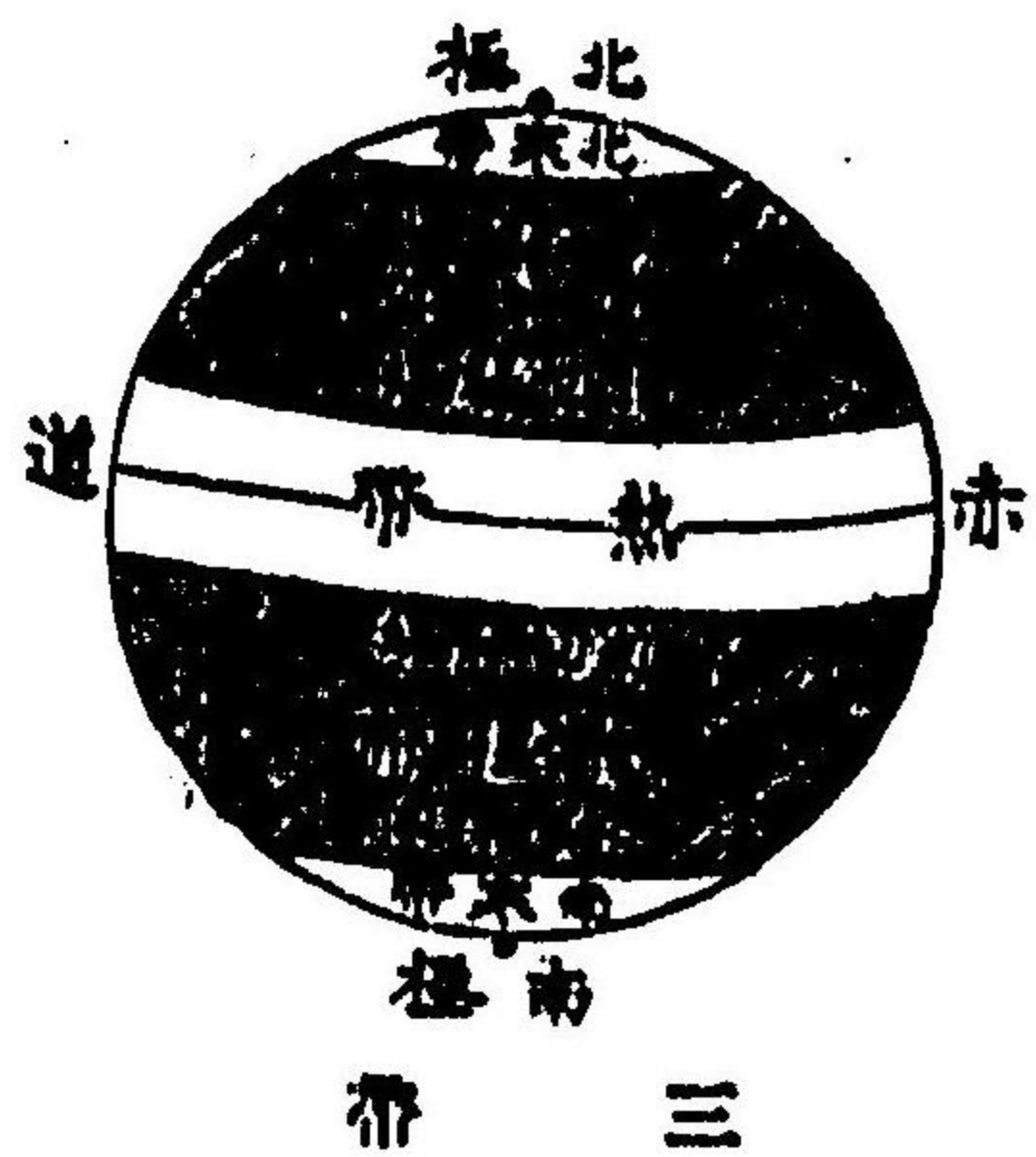
其の表面の有様とを、小なる模型にて作りたるものを地球儀と云ひ、通常其の上の方を北にし、下の方を南にす。地面の有様を平面に示せるものを地圖と云ひ、これ亦た通常上の方を北にし、下の方を南にす。地球の

全體を一目に示すには、地球儀の方便にして、一部分を細かに示すには、地圖の方便あり。

三、兩極赤道三帶。地球の形は殆んど球の如し。地

球は其の直径の一を軸とし、一日の間に一回轉をなす。此の軸を地軸と云ひ、地軸の兩端を北極及び南極と云ひ、兩極の間にありて、これを距ること相等しき一線を赤道と云ふ。赤道の南北各凡そ二十三度半の所に、平行の横線を假りに設け、これを南回歸線及び北回歸線と云ひ、兩極より各凡そ二十三度半を距つる圈を假りに設け、これを南極圈及び北極圈と云ふ。

兩回歸線の間を熱帶、各極圈内を寒帶、各回歸線と各極圈との間を溫帶と云ふ。



により、南緯・北緯を分ち、各九十度に至る。

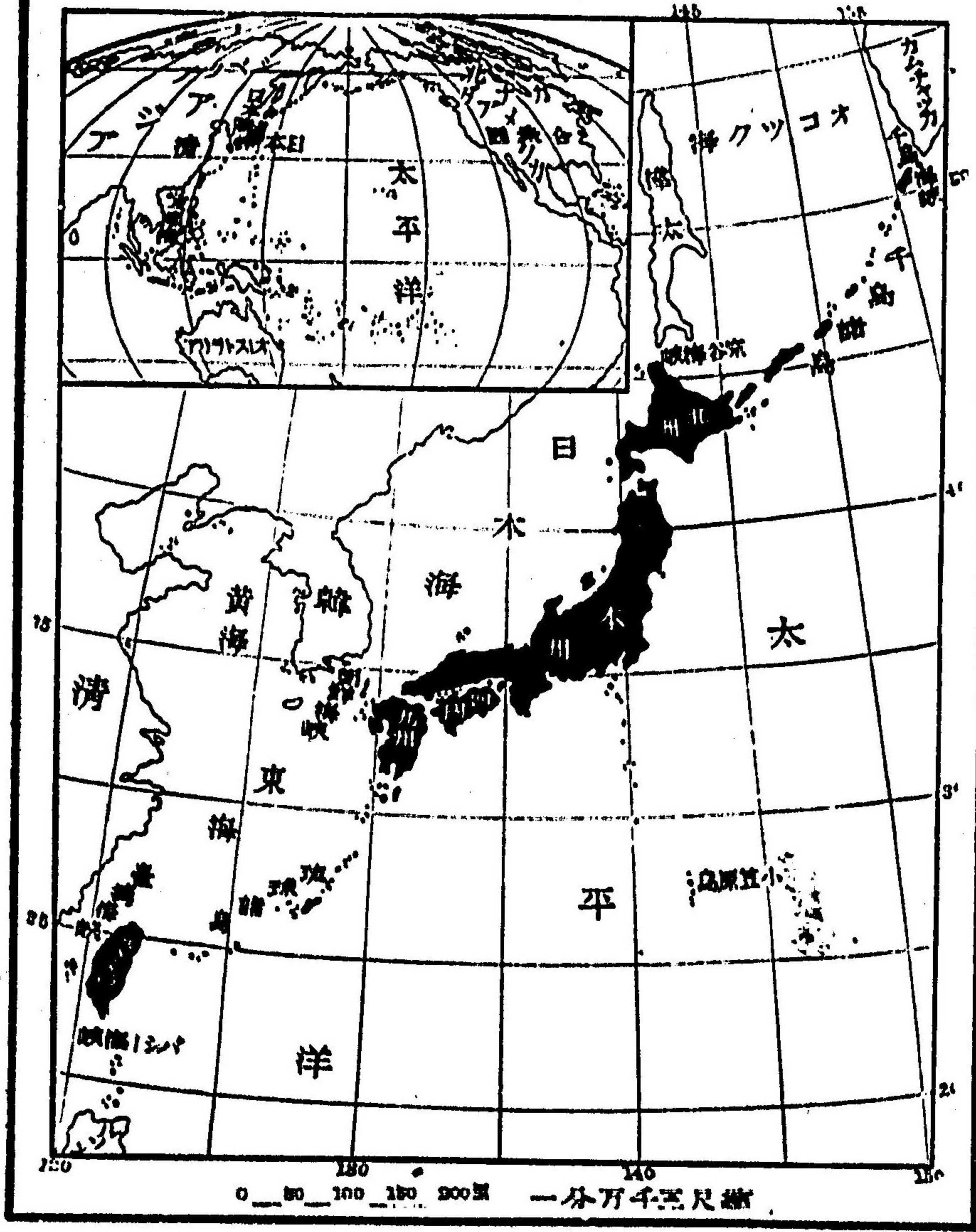
縦の線はこれを經線又は子午線と稱し、赤道に直角に引く。本初子午線よりこれまでの距離を經度と稱し、本初子午線を零度とし、これを本として、其の東西により、東經西經を分ち、各百八十度に至る。

四、經緯度。

地表上の位置は、

通常假りに縦横の線を設けて、これを示す。横の線はこれを緯線と稱し、赤道に平行に引く。赤道よりこれまでの距離を緯度と稱し、赤道を零度とし、これを本として、其の南北

我が國の位置



上篇 地文地理

第一章 位置及び輪廓

一、邦土の位置。太平洋の北西、アジアの東方、大小無数の島嶼斜めに長く連りて、一聯の花彩の如く、廣狹幾多の海灣其の間に含まれて、一列の防波堤に似たるは、これ我が大日本帝國の邦土に非ずや。稱して東洋の花彩列島と云ひ、東亞の防波堤と云へるは當れりと云ふべし。

二、我が國の四隣。我が國は海國なり、四面皆繞ぐらずに海洋を以てす。試に地圖を披て其の四隣を見よ、南東は一面太平洋に沿ひて、遠くアメリカ洲に對し、北西は東海

我が國は三
箇の帯形よ
り成り、千
北緯は千
島、南緯は
九州、琉球
臺灣、中緯
は北緯、本
州、四國と
合す。



全土の輪廓の略圖

日本海・オエック海等を隔て、近くアジアの諸國に對し、何づれの國、何づれの領地も、我が國と地續きのもの更らにこれなし、これ我が國防上甚だ利益あることなりとす。

三、邦土の輪廓。我が

國の形は狹長なること世界第一にして、チリと並稱して世界の最長國なり。大體の輪廓は恰も畫ける一個の天女に似たり。各部の輪廓を見るに、本州は龍の如く、四國は蝙蝠の如く、九州は猿の舞ふが如く、北州は鳥の翼の如く、臺灣



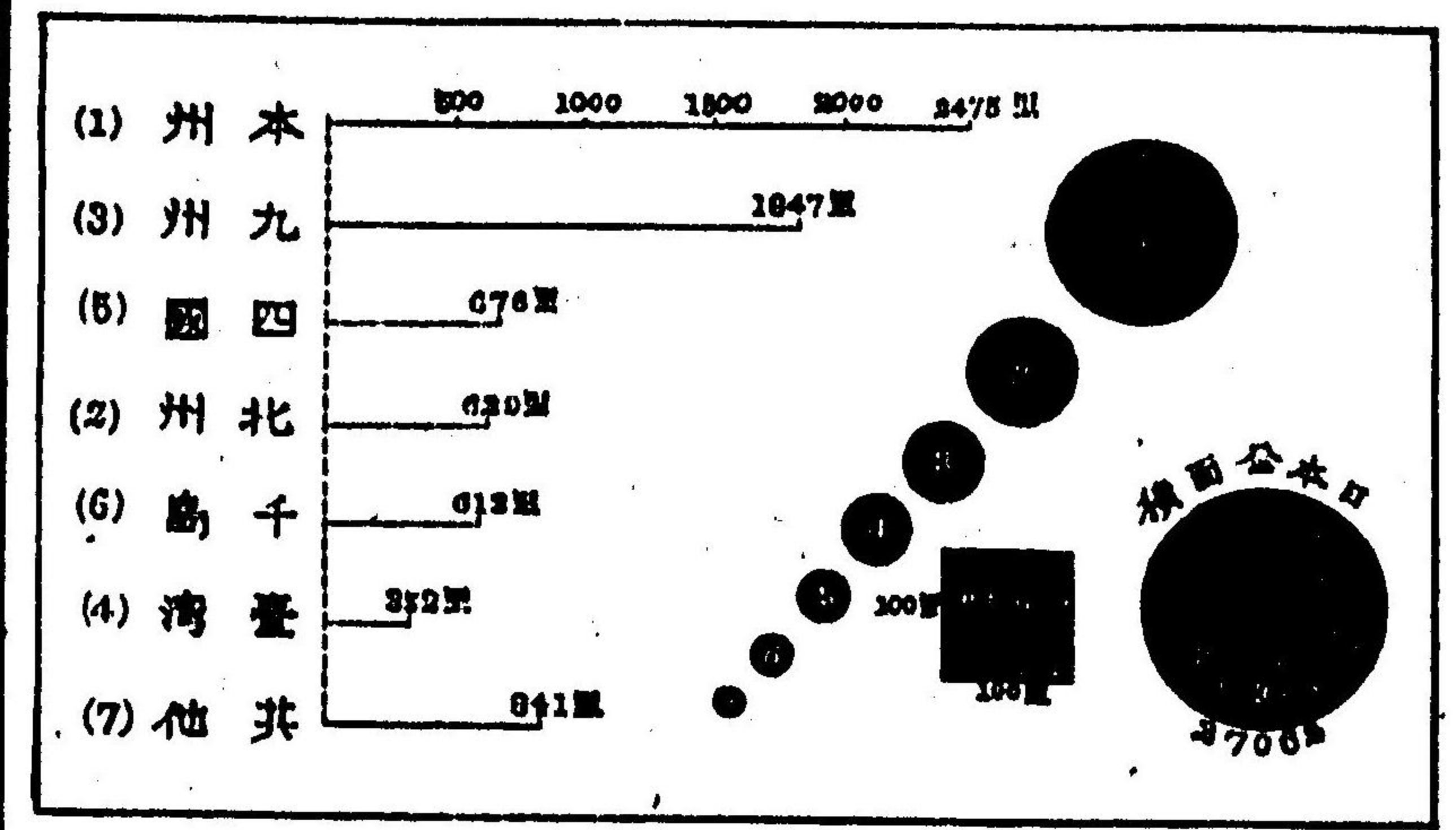
各部の輪廓の略圖

は櫻の葉の如し。

四、邦土の面積。我が國は決

して小國に非ず、其の本國のみに就て云ふときは、イギリスは我が國より著しく小にして、ドイツ及びフランスの如きも、我が國と大差なし。

我が國五大島の面積は、本州最も大にして、凡そ全土の半を占め、北州は本州の三分の一、九州及び臺灣は各北州の半ばに當り、四國最も小にして九州の半ばに當る。
五、海岸線。 海岸線の全長は七千四百里に餘り、面積に比して頗ぶる長きこと、世界に其の比少し。而して本州



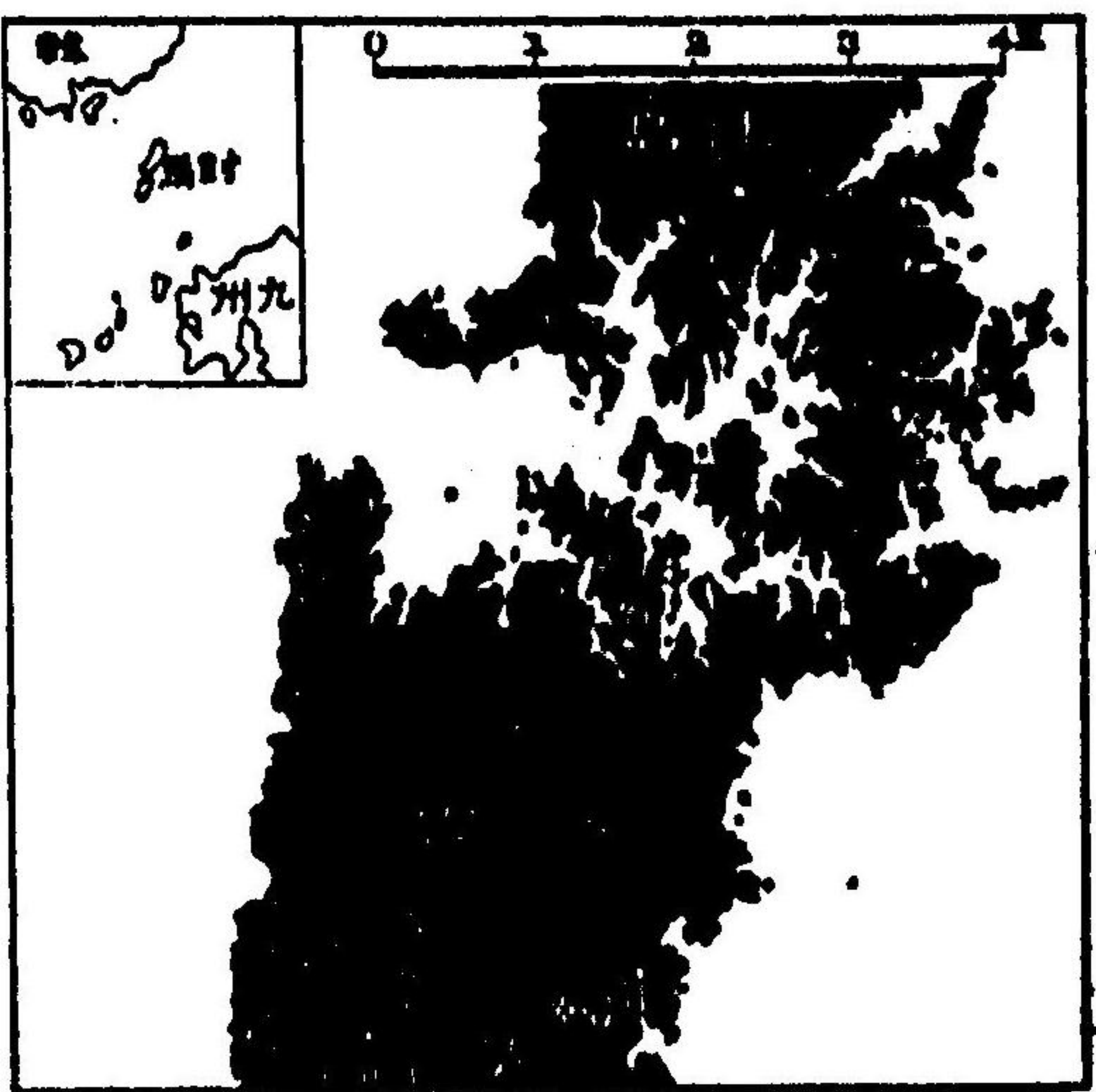
面積及び海岸線の比較

四國・九州は北州及び臺灣に比して頗る屈曲に富み、特に九州の西岸及び瀬戸内海の沿岸を第一とす、又本州の太平洋沿岸は、日本海沿岸に比して著しく長し。海岸線の長き國は文化の進歩速かなり。

六、灣海峽島半島及び岬。著名なる灣は太平洋の側に多く、日本海の側に少し、而して我が國に天然の良港多からざるは惜むべし。海峽も亦た灣とは

要塞の設け
ある所以

測候所、燈台、
平望の設け
ある所以



對馬海岸の一部

係甚だ多し。び島と同じく、海岸線の長短に關し、氣象、國防、交通、水産上關

同じく太平洋の側に多し、海峽は國防上特に大切なりとす。

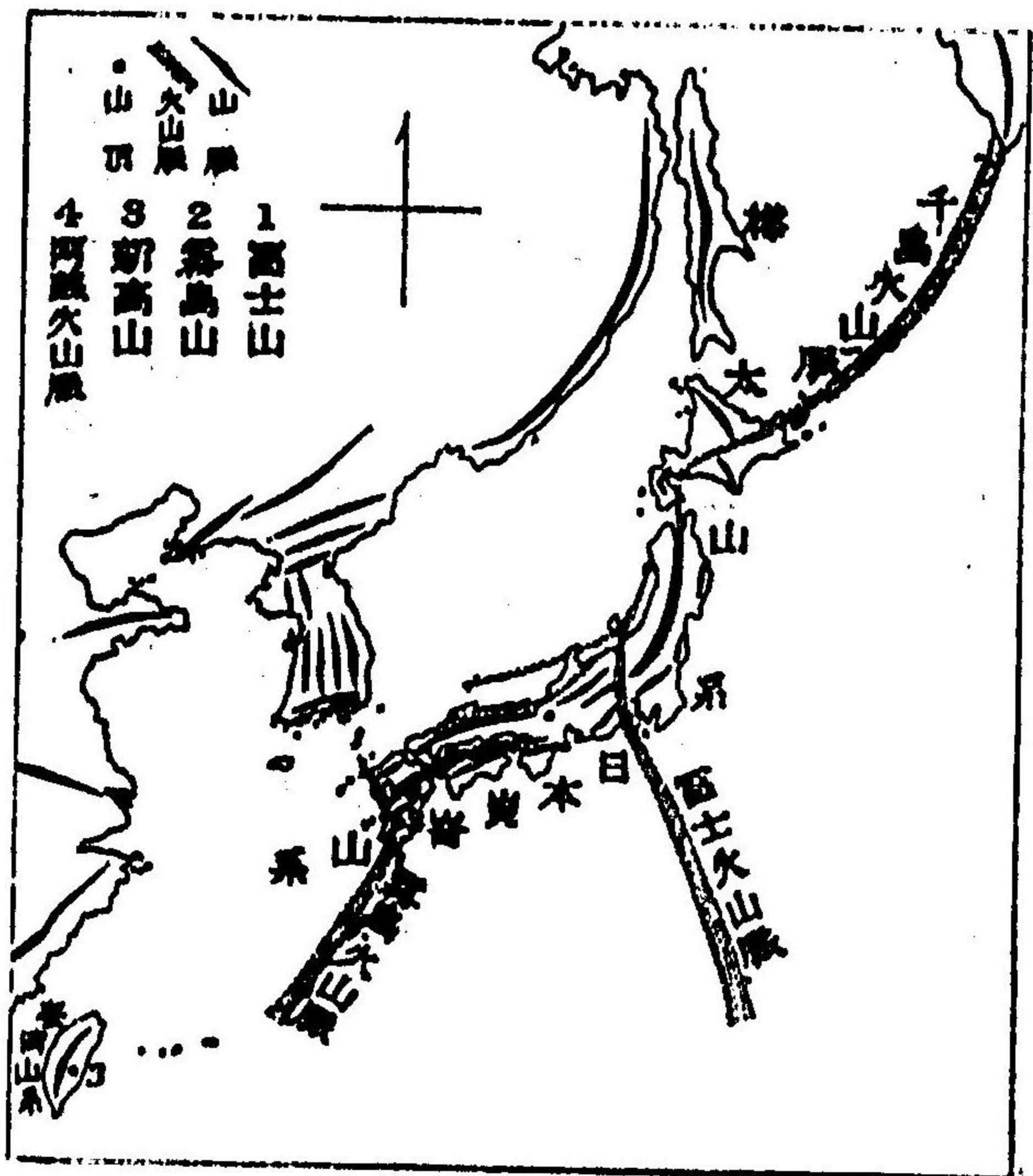
我が國は五大島と無數の小島とより成る、五大島及び主要なる屬島に就ては、中篇を見よ。

半島及び岬の性質は灣及

第二章 地勢

七、地勢及び山系。

我が國の地體は、アジアの東邊



大山系及び火山

し、其の二は樺太と其の脈を通じ、殆んど南北に連るものにして、これを樺太山系と稱す。此の二大山系の相會する所

を圍める大山系及び、大火山脈によりて成る、其の大山系に二つあり、其の一は支那崑崙山系の餘派を受け、畧率南西より北東に連るものにして、これを日本崑崙山系と稱す。

は幅員最も廣く、地勢最も高し。

此の外三個の大火山脈あり、一は兩山系の接合地に於て、本州の中央を南北に横斷する富士火山脈、二は九州に現はる、霧島火山脈、三は北海道に現はる、千島火山脈、これなり。此の外數多の火山脈は本州の地形に並走す、阿蘇火山脈は其の一例なり。

富士火山脈を以て我が國を二分するときは、以北を北日本と稱し、以南を南日本と稱す、今其の主なる差異の點を左に記さん。

北日本

- 一、平野多く、河流大なり。
- 二、概ね氣温低く、雨量少し。

南日本

- 一、平野少く、河流小なり。
- 二、概ね氣温高く、雨量多し。

三、親潮は東岸を洗ふ。 三、黒潮は南岸を洗ふ。
弓形を成せる本邦の凸面は太平洋に向ひ、凹面は日本海に向ふ。凸なる側を表日本、又外面と云ひ、凹なる側を裏日本、又内面と云ふ、今其の主なる差異の點を左に記さん。

表 日本

裏 日本

- 一、海岸線長し。
- 二、潮沙昇降の差多し。
- 三、土地隆起する所多し。
- 四、夏季雨量多し。
- 五、火山少く、地層整然たり。

- 一、海岸線短し。
- 二、潮沙昇降の差少し。
- 三、土地陥没する所多し。
- 四、冬季雨量多し。
- 五、火山多く、地層錯雜す。

臺灣山系。臺灣には臺灣山系あり、其の最高點新高山は富士山よりも高し。而して東側には甚だ峻しき岸あれども、西側には平地頗ぶる多く、砂濱相連る。

明治二十四年十月の尾尾年地震は近なりき。

八、火山及び地震。

我が國は有名なる火山國なり、火山の數は殆んど二百に達し、其中活火山のみ五十を超ゆ。蓋し我が國に於ける名山は、大抵火山なり。噴氣孔及び温泉の數も隨て頗ぶる多し。

我が國は有名なる地震國なり、大地震も少からず、地震の種類には地・震・最・も・多・し。

斯くの如く我が國は火山及び地震に富み、隨て人情風俗等の上に及ぼせる其の影響は決して少からず。

第三章 水系

九、河川。

我が國の形は狭長にして、山は急峻なり、故に河川は皆急流にして、大陸の諸大河に比し、運輸航通の利

水源を養ひ拒ぐに設け、土砂をため、保安の爲め、保あり、けあり、なる大、治水工、内務省、轄なり。

に乏し。且つ時々大雨俄かに降り、河川一時に出水し、水害の憂甚だ頻繁なり。

然れども風景の美、水産の富、水力の利、灌漑の用、其の利一にして足らず、且つ沿岸の平地は地味多く肥沃にして、下流の三角洲は人口約ね稠密なり、我が國河川の用豈小なりとせんや。

我が國の河系を六個の斜面區域に大別し、これに屬する一二の例を下に記す。

- (一) オホツク海斜面區域(常呂川) (二) 太平洋斜面區域(利根川)
 - (三) 東海斜面區域(筑後川) (四) 日本海斜面區域(石狩川、信濃川)
 - (五) 瀬戸内海斜面區域(淀川) (六) 臺灣海峡斜面區域(淡水河)
- 以上の中(二)及び(四)に稍大なる河あるは、これ雨多きと、面積の廣きと、大なる平野あるとによるなり。

北陸道の、海、火山、火口、湖、野

積の廣きと、大なる平野あるとによるなり。

我が國は大河に乏しきが如く、湖にも面積の大なるものなし、然れども其の數と種類とに富み、其の利用も亦た少からず、就中琵琶湖の疏水は水力利用の好例を示せるものなり。

第四章 氣候

一〇、氣溫。我が國の南端は少しく熱帯に入れども、北端は遠く寒帯より離れ、國の大部は北温帯中に位し、且つ四面環海の地なれば、氣候も亦た温和にして、滿洲、韓國等の比に非ず。

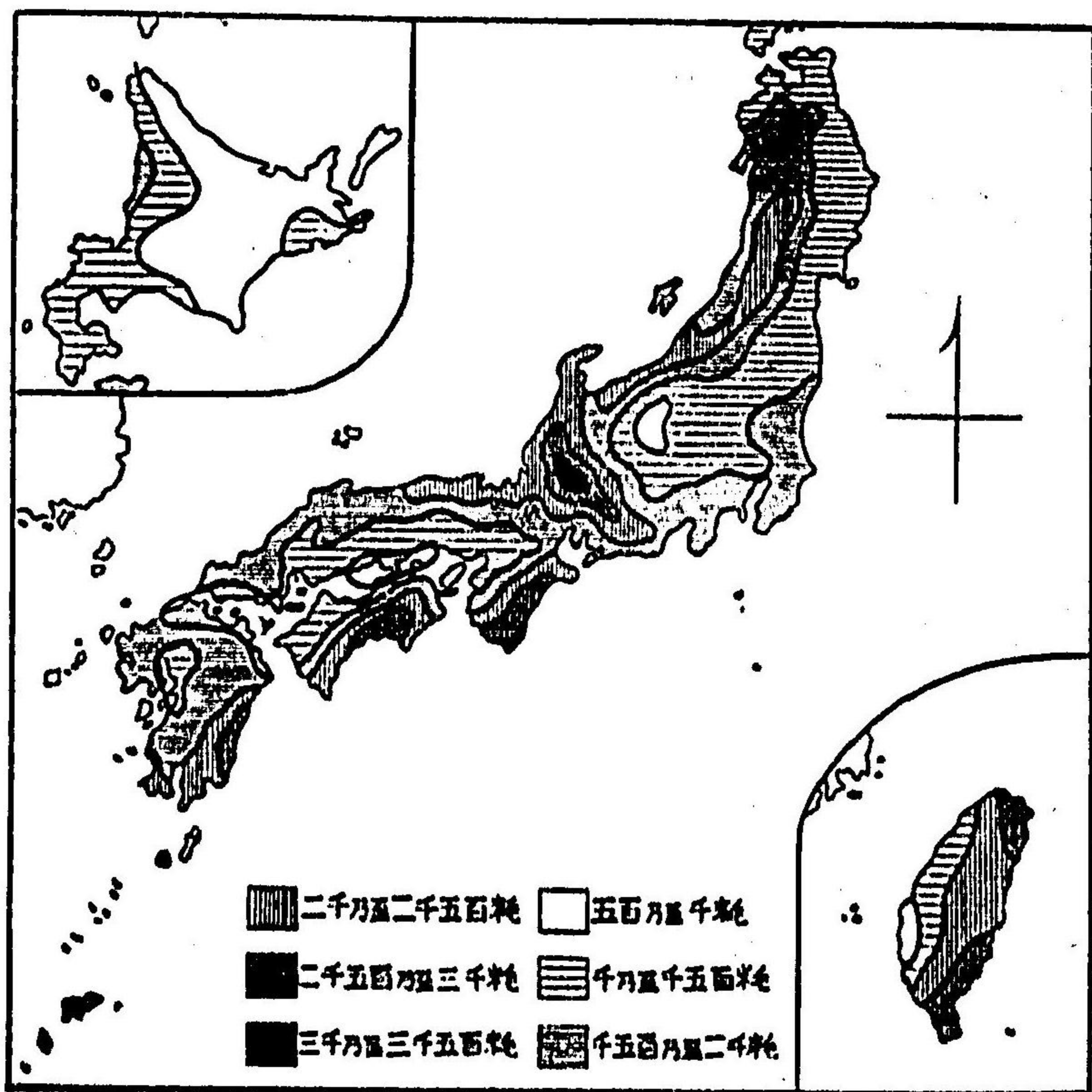
我が國各部の氣候は一樣ならず、地勢の變化に富み、海流

臺灣の低地には殆んど雪を見ず。

の形響を受け、且つ緯度殆んど三十度に亘るを以て、氣温も亦た所により大差あり。冬季最寒の地は北州の内部にして、零下四十一度に降りしことありき。平均最熱の地は臺灣の南部なれども、内地に於ても、夏季は時々非常なる高温に達し、熊本市に於ては三十八度に昇りしことありき。

一一、雨雪。我が國は四面海にて囲まれ、高き山其の中に聳ゆるを以て、雨雪の量甚だ多し。其の中最も多きは臺灣の東部、九州の南東部、四國の南部、和歌山縣の南岸、岐阜縣の北部、及び石川縣の沿岸等にして、最も少きは瀬戸内海、長野縣、奥羽及び北海道なり。深雪を以て名高きは新潟縣の高田にして、雨少き瀬戸内海には製鹽業盛んなり。

雨量



季節に就て云ふときは、六月頃梅雨多く、九月頃大雨頻りに降る。又表日本は夏季に、裏日本は冬季に雨量多し。

一二、風。我が國に吹

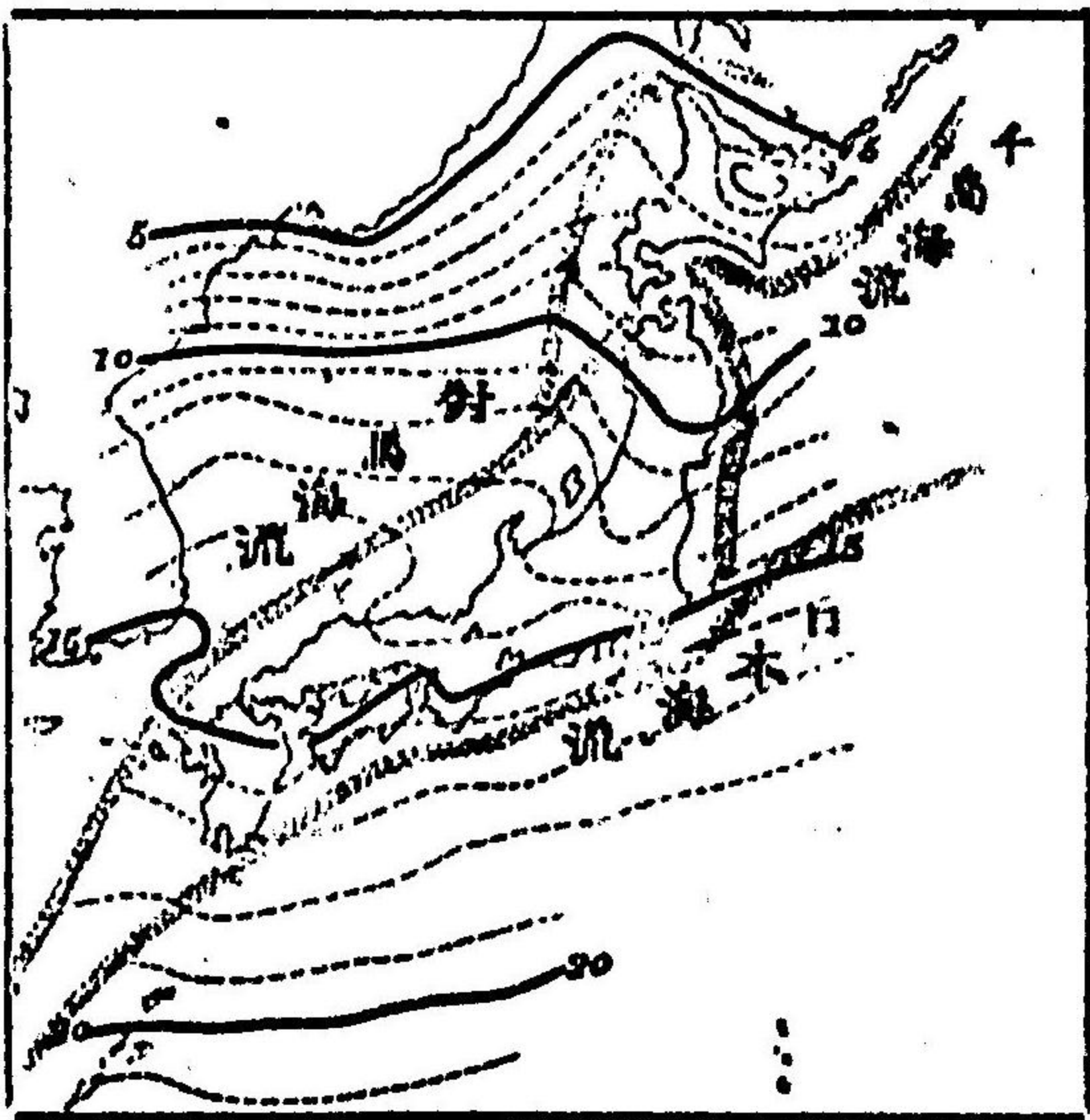
然れども又近海の中甚だ深き所あり、千島の東方々スカ
ロラ海床は二萬八千餘尺に達し、駿河灣の最も深き點は六
千尺を超え、又潮流急なる鳴門海峡は、海底深く刻まれて、六
百尺に達する所あり。

一四 潮汐。 我が國の沿岸は、表日本と裏日本とに於て、
潮汐の昇降に大差あり、太平洋の側に於ては、平均七八尺に
達すれども、日本海の側は、平均一二尺に過ぎず。 瀬戸内海
の海峡は、急激なる潮流を生じ、鳴門海峡に於ては、汽船すら
潮時を擇ばざれば、進行に苦しむことあり、海水昇降の差
と潮流の緩急とは、船舶の航進及び碇泊に大なる關係ある
ものなれば、特に注意すべし。

一五 海流。

海流は海中を流るゝ一條の河の如きもの

有明之海に於ては、十八尺に達す。佐渡に於ては、一尺なり。



等温線及海洋流

にして、潮流とは全く生
因及び性質を異にす。
本邦近海の海流中、特に
我が國に重要な關係
あるものは、黒潮・日本海
流の暖流及び親潮・千島
海流の寒流なり。

黒潮の流るゝ所は、鱈

其の他の水産物多く、雨量に富み、所によりては氣温を上昇
せしむ。 親潮の流るゝ所は、昆布其の他の水産物に富み、雨
量少く、氣温を下降せしむ。 奥羽の東側は親潮、西側は黒潮
の支流(對馬海流)流過して、氣温に影響し、北海道近海は海流

の衝突によりて深霧を生ず。

第六章 天産

銀杏は石に於ては化石と出づ。

一六植物。我が國は雨多く地肥え高山嶺え海洋繞ぐり其の地域南北に長くして温熱兩帶に跨れるが故に植物の天産甚だ豊かにして且つ珍奇なるもの少からず。臺灣



樹 格

琉球には氣根を生ずる榕樹あり。本州には松柏檜の美林あり高山には白檜あり其の頂上には偃松あり千島に於ては平地にこれを見る。

一七動物

我が國は動物の種類に富み且つ珍奇なるもの多く巨大なる山椒魚あり象の如きも化石としては所々より出づ。臺灣には水牛あり琉球にはハブあり狼は四國に多く熊は北州に多し而して北州近海の水産動物に富めることは世界に類ひ少し。

一八礦物

我が國は地質の變化多く礦物の種類に富み硫黄石炭銅アンチモニーの四種は盛んに外國に輸出せらる。鐵礦にも亦た乏しからず唯金銀及び寶石の多からざるは惜むべし。

銅は世界第三アンチモニーは世界第一硫黄は世界第二石炭は東洋第一の産額を有す近時北州の一部に豊富なる砂金地の發見ありき。

中篇 地方誌

第一章 本州東部

第一節 關東八州



二重橋及公銅像

一、東京府。本府は武蔵の一部、伊豆七島及び小笠原島を管す、武蔵の部分は隅田川・多摩二川の流域に屬し、農産少からず。

東京市は關東平原の一部にあり、東部に隅田川を帶び、南は品川灣に面す、東西凡そ二里、南北凡そ三里あり。宮城は市の中央に位し、繞ぐら

すに溝渠を以てし、二重橋高く正門の内外に懸り、楠公の銅像は門外の廣場に立てり。

東京市は本邦政治學藝の中心にして、諸官省・帝國議會

東京市及附近



- 1 宮城
- 2 近衛團司令部
- 3 日本銀行
- 4 九段増國神社
- 5 日比谷公園
- 6 帝國議會議事堂
- 7 第一師團司令部
- 8 芝 増上寺
- 9 高輪泉涌寺
- 10 東京帝國大學
- 11 上野公園
- 12 淺草 淺草寺
- 13 龜井川 天鏡宮
- 14 深川公園

事堂・日本銀行・東京帝國大學・近衛及び第一師團司令部等皆こゝにあり、行政上、十五區に分れ、地勢上山、手及び下町

の二大部に分る、山、手は高燥なる臺地にして、貴紳の邸多く、下町は卑濕なる低地にして、商工の業盛んなり。

此の地はもと江戸と稱し、徳川氏幕府をこゝに開き、明治

祭神殉國士。

淺草海苔は東京市の南大森附近に産す。



伊能先生紀念碑

草寺、芝の増上寺、上野、淺草、芝、日比谷の諸公園等、名勝の地頗ぶる多し、又芝公園には地理學大家伊能忠教先生の碑あり。此の地は地勢の利を占め、關東八州は勿論、遠く奥羽の物貨も多くこゝに集散す。舊時より錦繪、淺草海苔等の名産ありしが、近來綿絲、洋紙、セメント、マナチ等の工業盛んに起り、富豪の多きこと本邦第一にして、實業上の一大中心となれり。

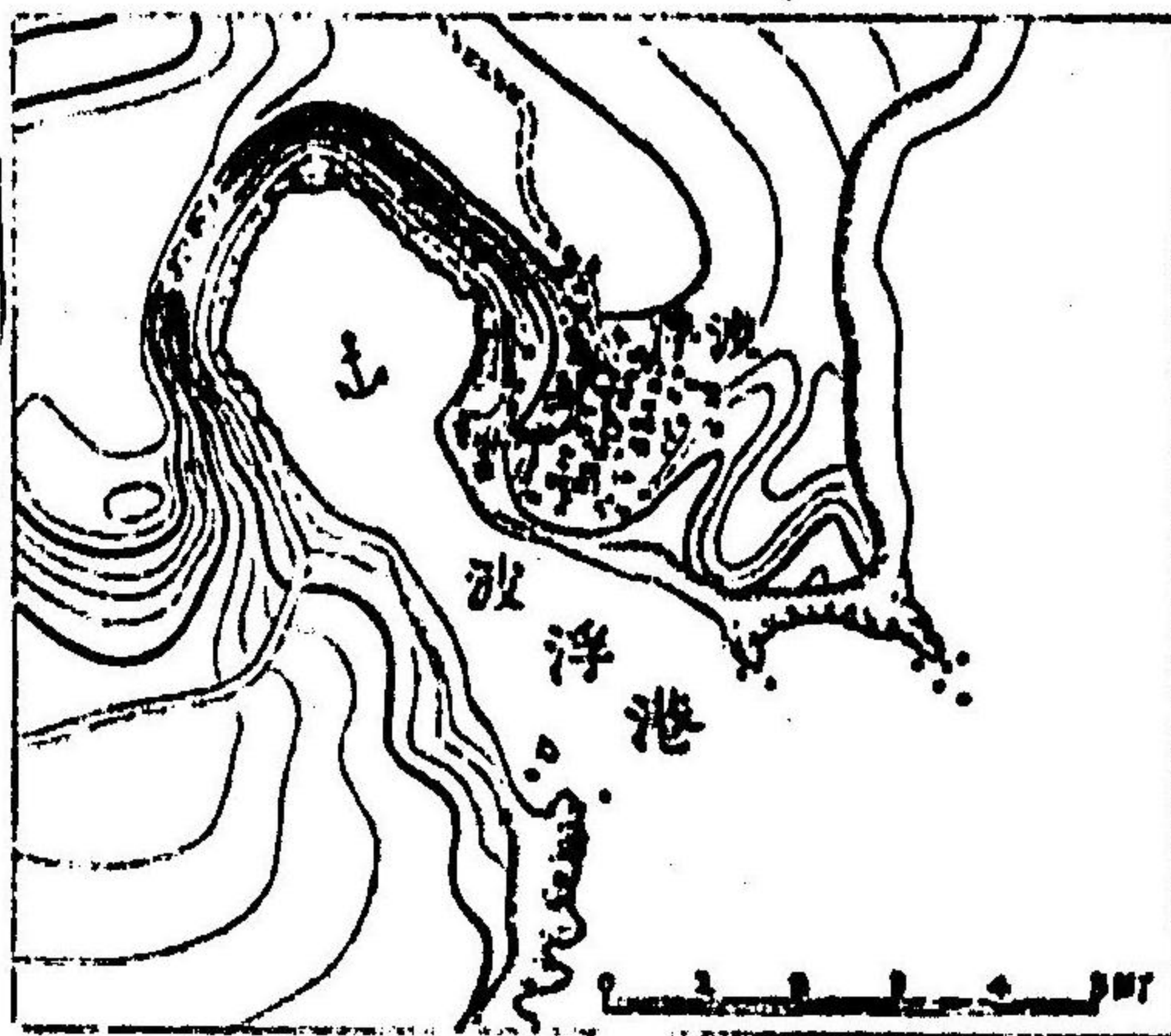
元年詔により東京と改め、次て車駕東臨し給ひしより、今日は遂に我が國第一の都會となれり。

市内には高輪の泉岳寺、九段の靖國神社、淺草の淺

全長八千餘尺。

大島八丈、小笠原島には島廳を置く。

伊豆七島及小笠原島は富士火山の脈中に位す。



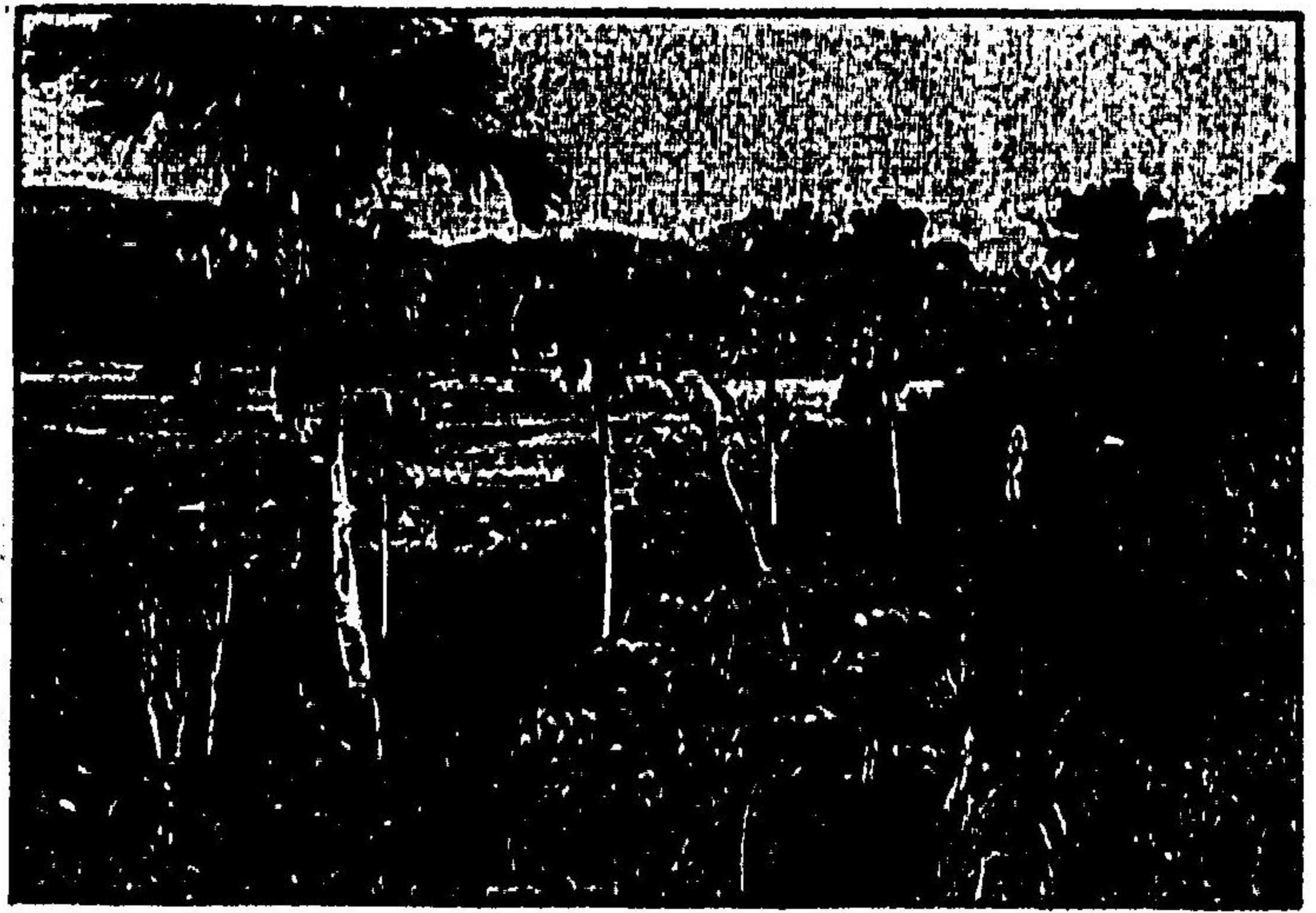
波浮港

東京市の西に八王子あり。組織物の産多し、官設鐵道はこれより小佛峠の大隧道を過ぎ、神奈川縣の一部を経て、山梨縣に入る。

伊豆七島は伊豆の南方に

あり、大島、新島、八丈島等より成る。大島の三原山は活火山にして、波浮港は噴火口の跡なり、八丈島は八丈絹を産す。

小笠原島は八丈島の南に當り、東京を距ること五百餘哩、父母兄弟島等より成る。此の島は凡そ三百年前、小笠原貞頼の發見せし所にして、維新前移住せし外國人歸化して、我



小笠原島の景 (農事試験場より二見港を望む)

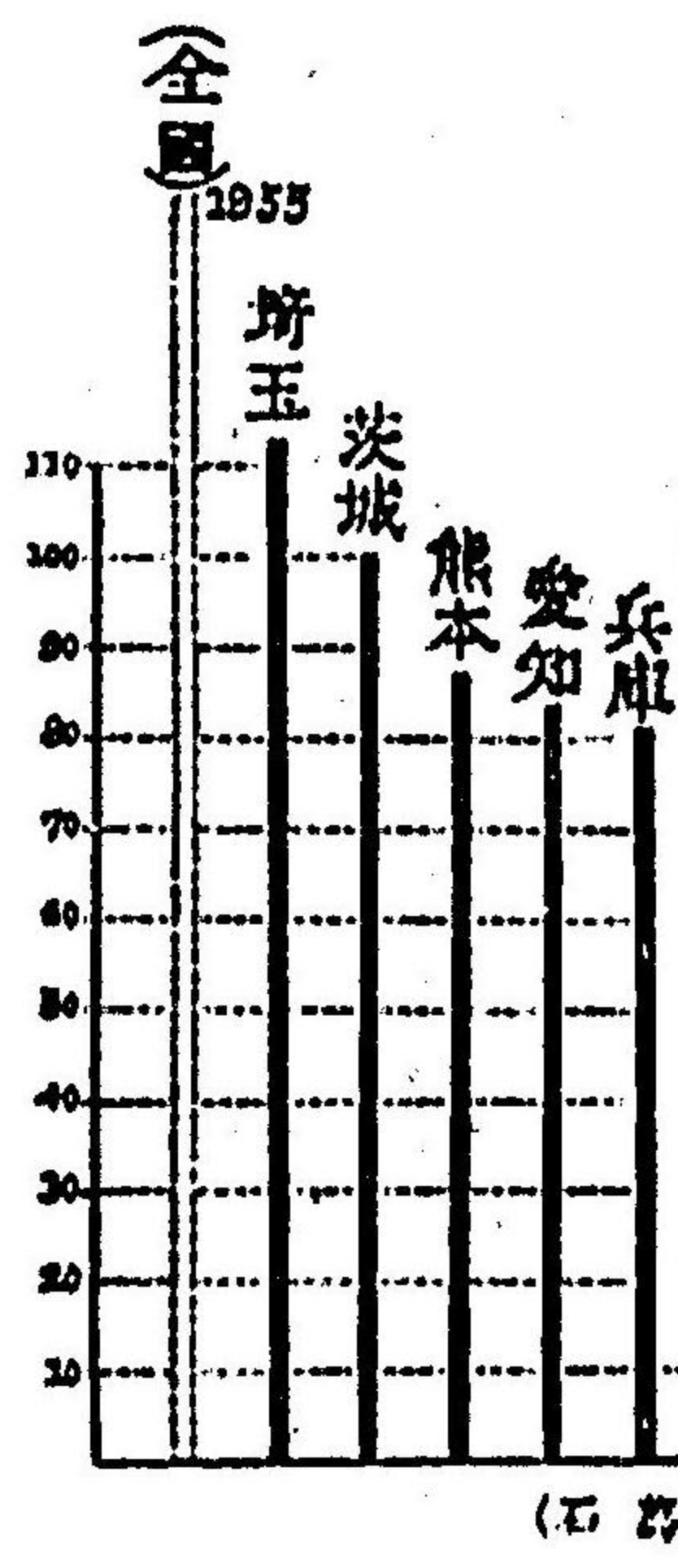
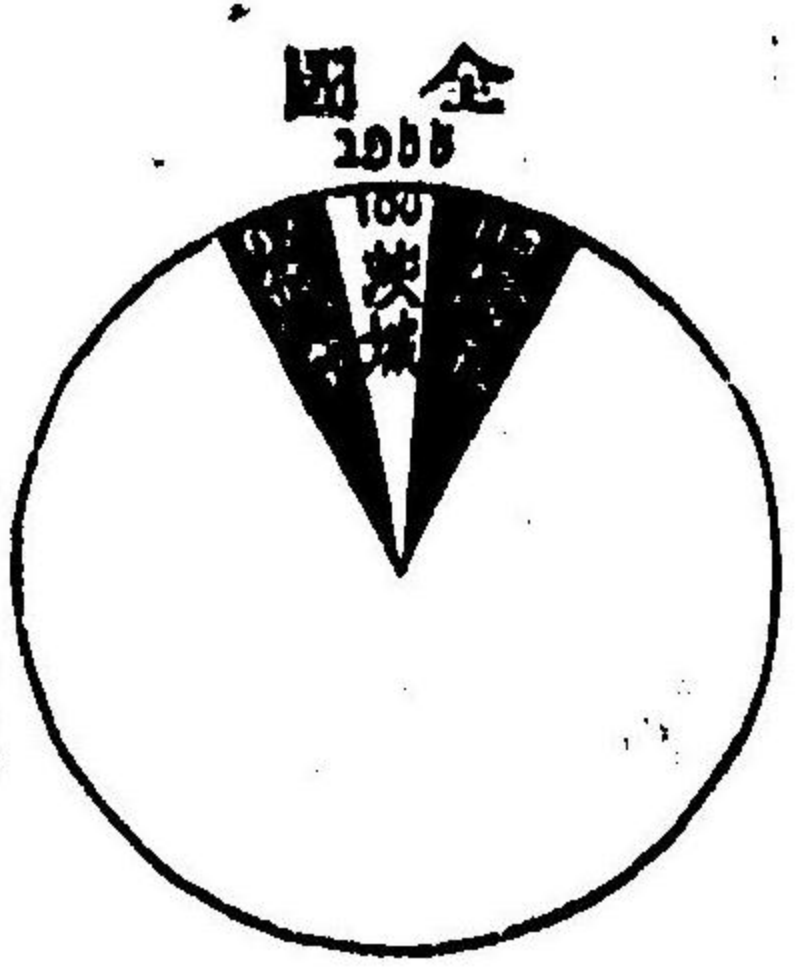
我が國第一なり。

が臣民となれるもの少からず。其の地は熱帯に近けれども、海風暑氣を和らぐ。物産には椰子、鳳梨等の植物、信天翁、大蝙蝠、蠍、等動物あり。

二、埼玉縣。本縣は武藏の大部を管す、西部は山多けれども、其の他は平地にして、荒川これを貫流す。農産多くして、麥の産額は

大宮公園。

浦和は縣廳の所在地にして、熊谷は縣下第一の商業地なり。大宮は鐵道の分岐點に當り、日本鐵道株式會社の大工場あり。川越は川越平



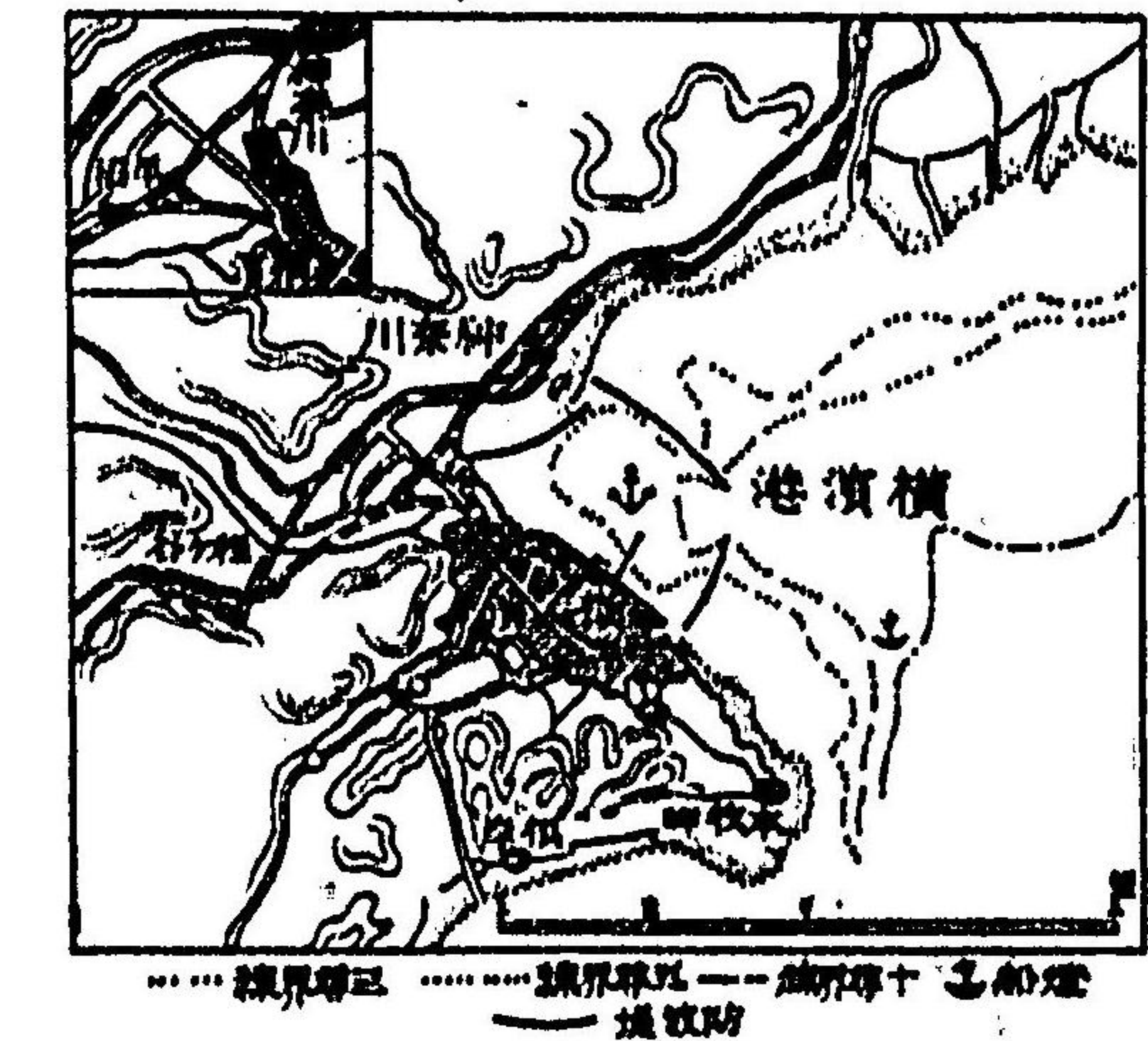
は相模の全部及び武藏の一部を管す、平地多くして、農産に富み、北には關東山脈相連る。

産 出 産

西部の秩父地方は石灰、木材、絹の産多く、大宮(那)は其の中心にして、武甲山の麓に位す。

三、神奈川縣。本縣

横濱市は縣廳の所在地にして、東京市の咽喉なり。本港岬南東に突出し、後ろに丘陵を負ひ、防波堤ありて港を抱く。



横濱港及附近

當り、其の東に有名なる平間寺あり。

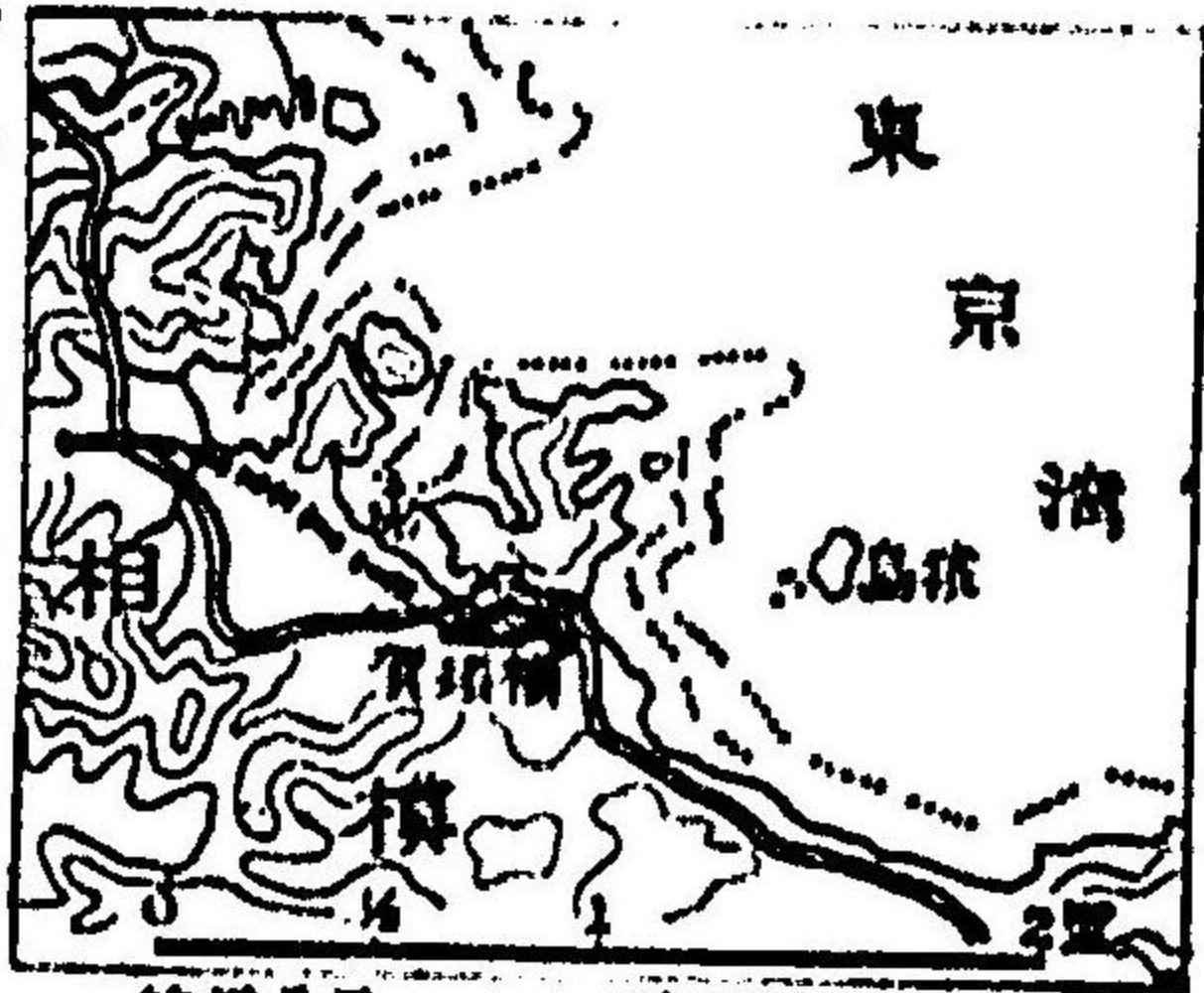
官設鐵道の東海道線は、大船に於て分岐し、支線は鎌倉を

川崎大師。

鎌倉宮祭神
鎌倉親王。

金澤文庫
址、金澤八

經て横須賀に至る。鎌倉は源氏幕府の舊地にして、大佛八幡宮、頼朝の墓、鎌倉宮の土窟等、名跡甚だ多し。横須賀は軍



横濱港及附近

里濱は、米艦來航の紀念地なり。三浦半島の近海は珍奇なる海産物に富み、三崎の近傍に東京帝國大學の臨海實驗所あり。

鎌倉の西方に當れる江島は風景の美を以て名あり、鎌倉

附近より大磯に至るまでの沿岸は、松樹林を成し、砂濱多くして、海水浴に適す。厚木は相模の中央に位する名邑にして、秦野は葉烟草の産を以て名あり、其の北に聳ゆる大井山は夏季白衣の登山者多し。

官設鐵道は大船より馬入川を渡り、國府津に至り、酒匂川の河谷に沿ひ、十八個の隧道を穿ち、足柄山の麓を過ぎ、箱根山の北西を迂回す。小田原は國府津の南西に位する名邑なり。

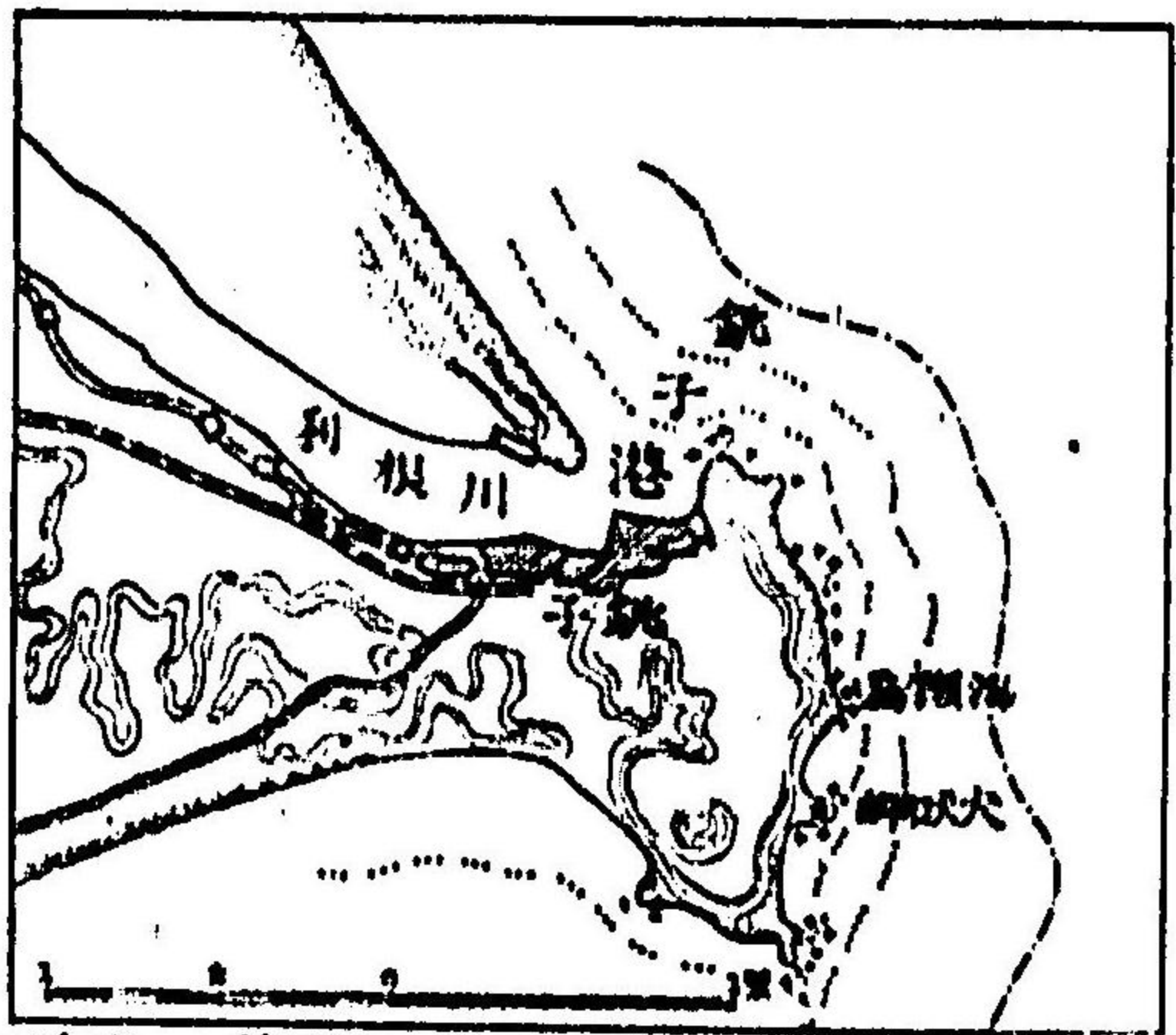
箱根山は休火山にして、温泉に富み、噴氣孔も少からず、山上の蘆湖には、逆さ富士の美景あり、湖畔に關所の址を存す。
四、千葉縣。 本縣は安房上總二國及び下總の大部を管す、南部の房總半島は丘陵多く、北部の平地は農産及び畜産

小金ヶ原
習志野。

印旛沼。
手賀沼。

香取神宮祭
神奈川主命祭
小御門神社
寶祭

に富み、漁業の盛んなること北州を除き、我が國第一と稱せらる。



銚子港及び附近

千葉は縣廳の所在地にして、醫學專門學校あり、佐倉は步兵聯隊の衛戍地にして、附近より佐倉炭を出す、成田は不動堂を以て名高く、佐原は酒の産多く、伊能忠敬先生はこゝに出づ。佐原の近傍に香取神宮あり、又成田と佐原との間、小御門村に小御門神社あり。

本縣の西境を限ぎれるは江戸川にして、沿岸は産業に富

坂東太郎。

犬吠岬以北の沿岸は黒潮の流を遠かり水産物を異にする。



地引網

み野田の醤油、流山の味淋は世に名高く、又國府臺には野戦砲兵第二旅團司令部あり。

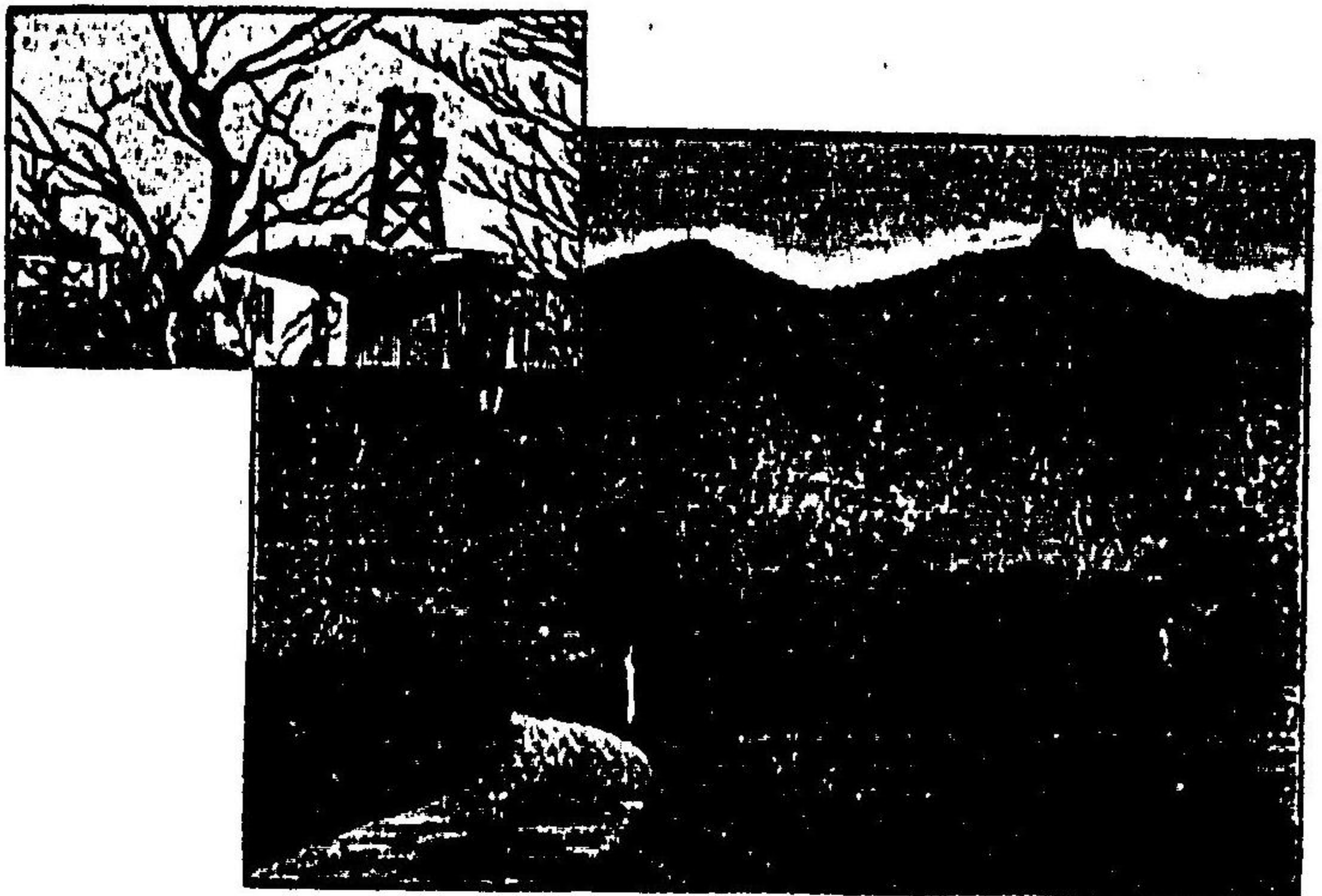
本縣の北境を限ぎれるは利根川にして、河口の銚子は同河水運の起點なり、犬吠岬邊は暗礁多く、附近に海獺島あり。

犬吠岬以南、大東崎に至るまでは、九十九里濱にして、鱧網を以て名あり、小湊は誕生寺を以て著らはれ、布良の附近は鬼瀨の暗礁を以て名高く、館山北條は安房の名邑にして、鋸山は山頂鋸の齒の如く、富津の附近には海堡の設けあり、木更津港は遠淺にして、碇泊に便ならず。

五、茨城縣。

本縣は常陸全國及び下總の一部を管す、平地多く、鐵道及び河湖ありて、

祭神德川光圀
齋昭
近時山階宮
殿山上に宮
下所を設
立し給ふ。



筑波山及び茨湖候所

交通の便に富み、農産、水産の利多く、麥の産額は埼玉縣に次ぐ。其の他北部の烟草、北東部の石炭何づれも有名なり。
水戸市は縣廳の所在地にして、那珂川の南岸にあり、水戸家の舊城下にして、弘道館、常磐公園及び常磐神社あり。土浦は霞浦に臨み、水運の要

祭神 武甕槌神

點を占む。筑波山は其の北西に當り、平野の中に屹立す。結城は結城紬を産し、鹿島には鹿島神宮、縣の北東境には勿來關址あり。

六、栃木縣

本縣は下野全國を管す、南東部は平地にして、鬼怒川、那珂川等の流域に屬し、北西部は山多し。銅及び



日光東照宮陽明門

又組織物に名高し。宇都宮市は縣廳の所在地にして、日光に通ずる要點なり。日光の東照宮は結構の壯麗天下に比なく、山水の美は箱根と並稱せられ、男體山

日光を見ざれば結構を云ふなから祭神 德川家康

祭神 廣原秀郷 足利和



足尾銅山

霧降、泚瀨、嚴瀨、中禪寺湖等の勝景あり、南西の足尾は銅の産額我が國第一なり。鹿沼は麻の取引多く、栃木は生絲材木の賣買盛んなり、田沼の唐澤山神社、足利の足利學校遺跡何づれも有名にして、真岡は木綿の産に富み、小山は鐵道交通の要點に當り、温泉に名高き鹽原は高原山の麓に位し、那須野原は那須岳の麓にあり。

七、群馬縣。本縣は上野全國を管す、養蠶業最も盛んなれども、米産は多からず。

西境には碓氷峠あり、鐵道は「アプト」式を用ひ、二十六個の隧道によりて此の險坂を通ず。然れども南東部は平地にして、鐵道の便に富む。



岩燭燦山名松

前橋市は縣廳の所在地にして、生絲絹織物の取引多く、桐生・伊勢崎は機業盛んなり、高崎市は歩兵聯隊の衛戍地にして、富岡は製絲場、伊香保及び草津は温泉を以て名高く、妙義・榛名・赤城の三山は景色に富み、上野

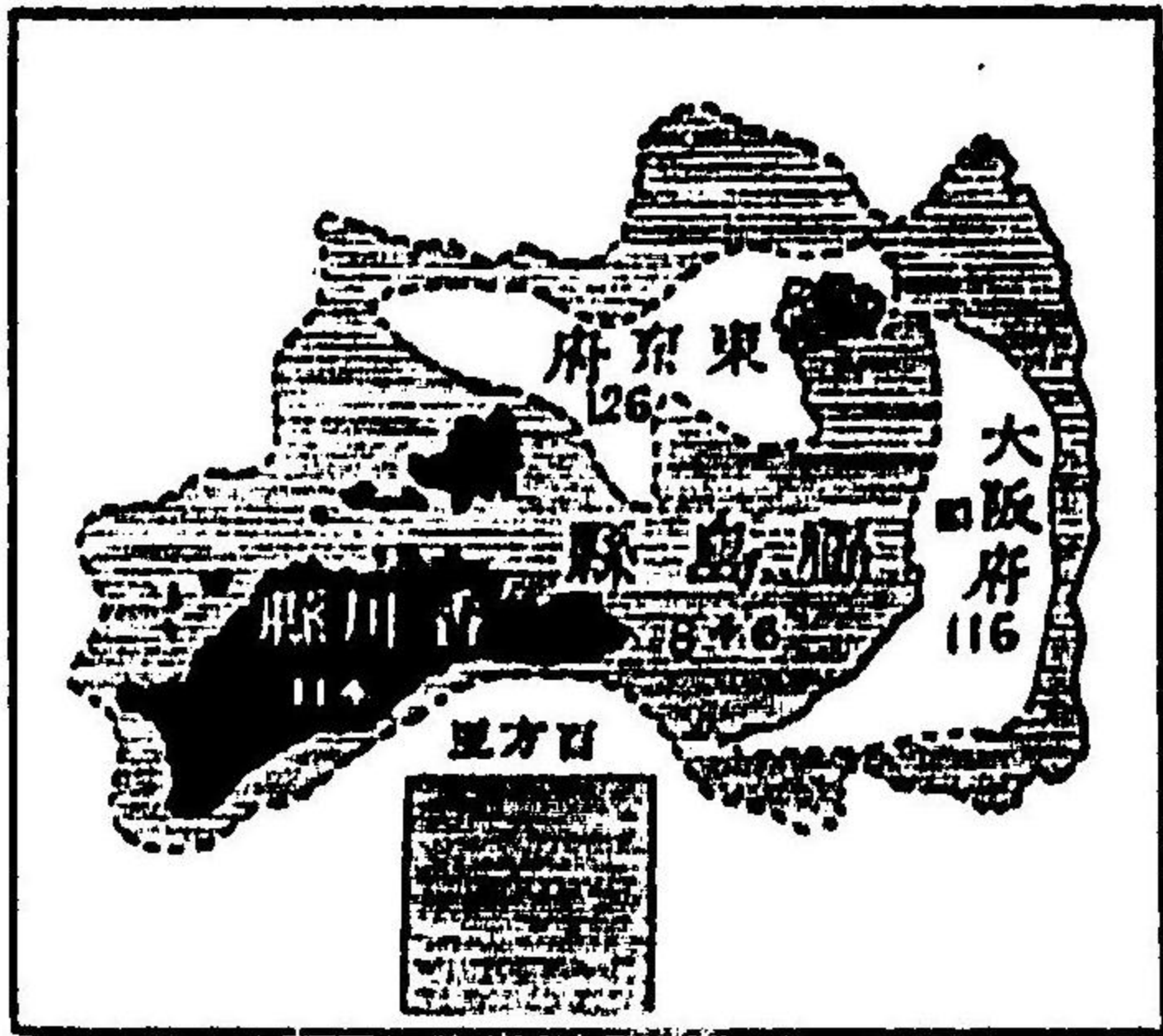
伊勢崎銘仙

の三山と稱せらる。

第二節 奥羽

八、福島縣。

本縣は岩代全國及び磐城の大部を管し、面積廣大なり。阿武隈・阿賀二川の流域及び東部の海岸は平地頗ぶる多く、養蠶・牧畜・石炭採掘の業盛んなり。



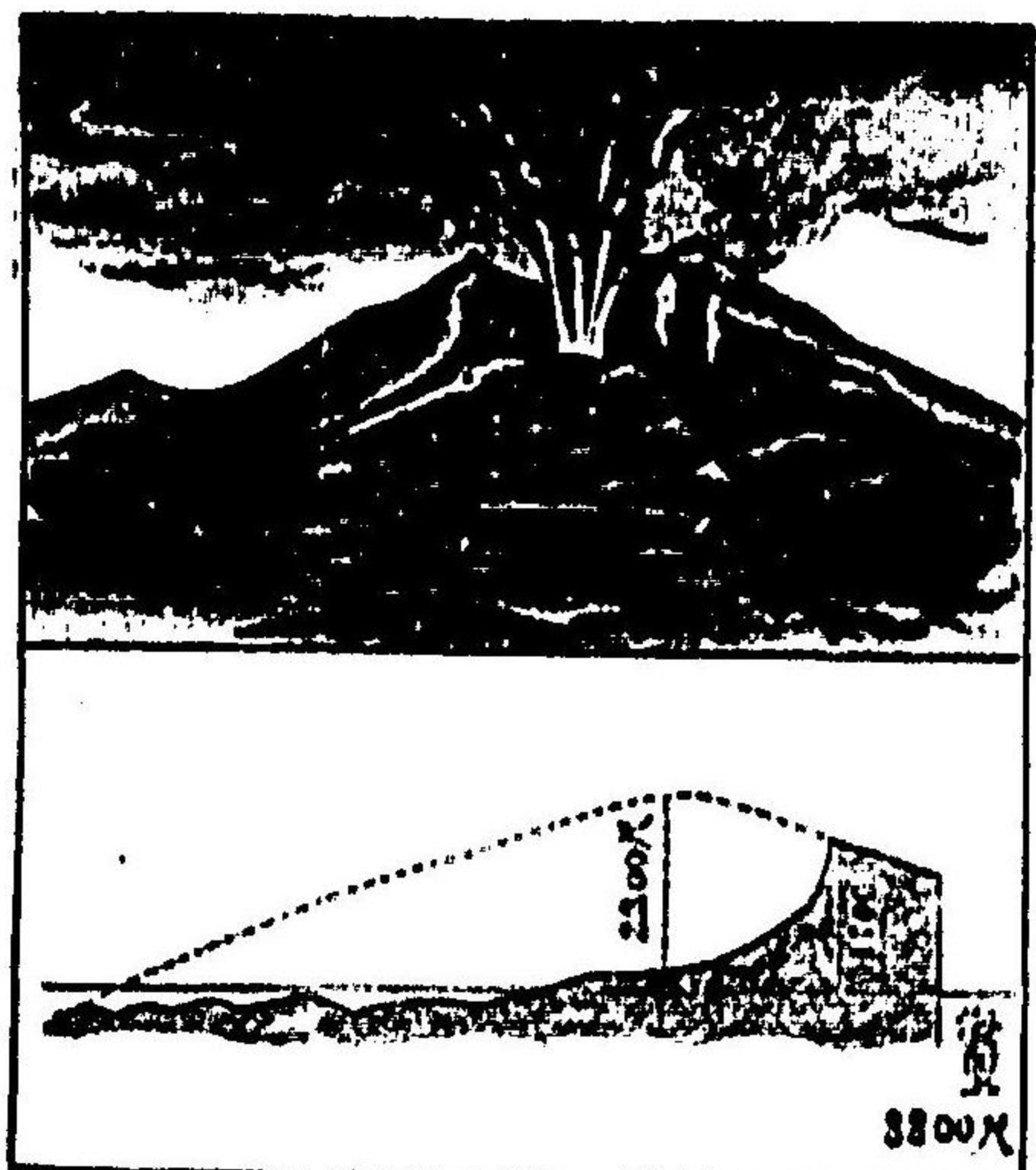
面積比較

福島は縣廳の所在地にして、製絲業盛大なり、官設鐵道はこれより山形縣に入る。福島は北に半田・銀山・西に吾妻山あり、南東の川俣は絹織物の産多く、東方の靈山は靈山神社を以て名高し、南に二本松あり、紬を名産とす。

吾妻山は明治六年
治し十六年
破し
三浦宗理の次男
三浦宗理の次男
三浦宗理の次男
三浦宗理の次男
三浦宗理の次男

祭神北畠親房等

磐梯山は明治二十一年破裂せり。



破裂後の磐梯山

岩越鐵道は郡山より起り、會津富士の稱ある磐梯山の南、猪苗代湖の北岸を経て、若松市に至る。若松市は會津平の要點に位し、松平氏の舊城下にして、戊辰の役に名高し。此の地方より會津燒會

津塗及び蠟燭を出す。

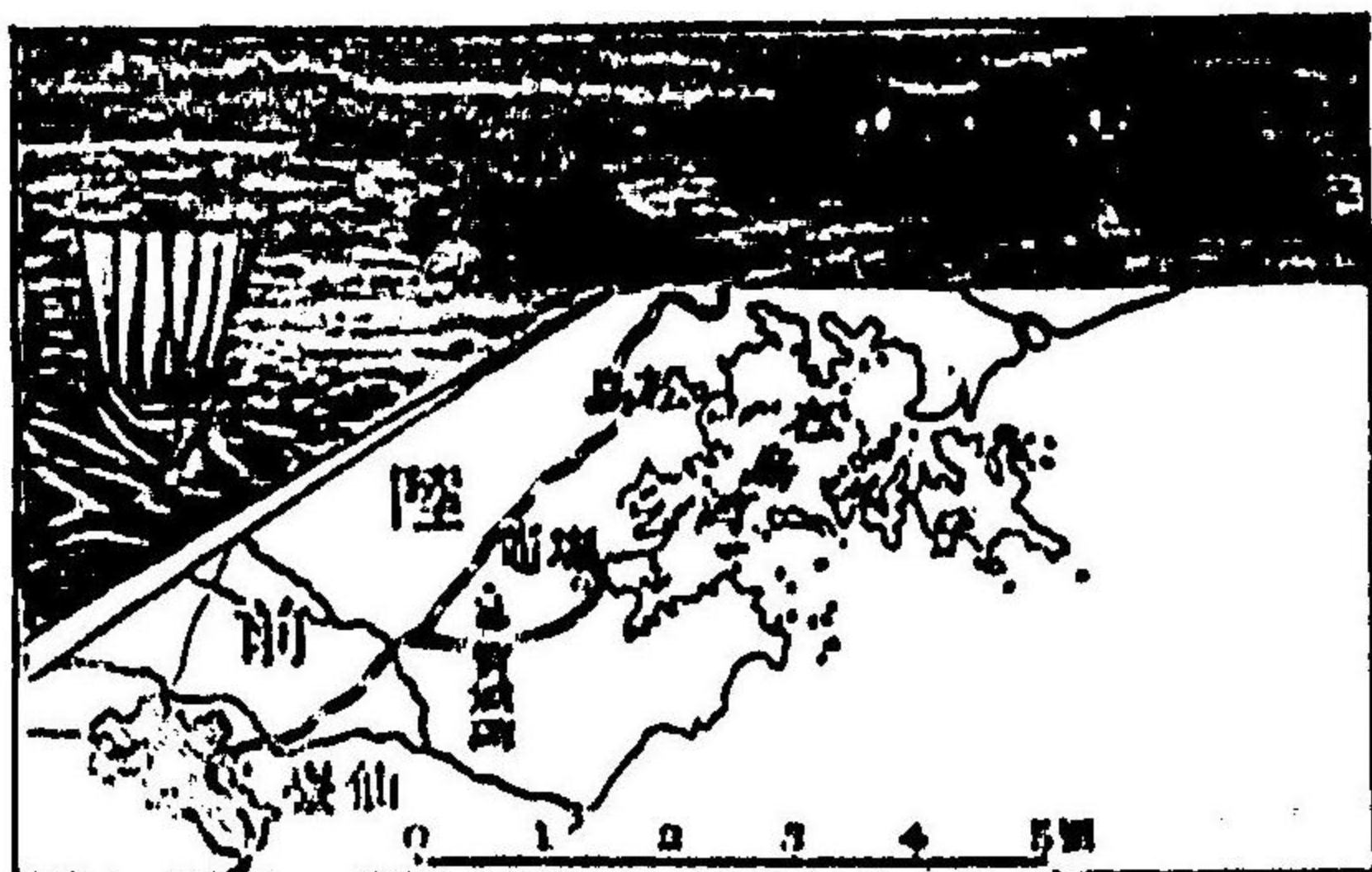
郡山の北東三春は馬を名産とし、南西白河の附近は、古の關址を存す。本縣の東方海岸は、日本鐵道海岸線の通過する所にして、平及び中村の名邑はこれに沿ふ。平の附近は石炭に富み、中村は相馬燒を出す。

三春駒。

九宮城縣

本縣は磐城の一部、陸前の大部を管す、西境は山多けれども、北上阿武隈二川の流域には平野相連り、米産多し。縣の北東部は北上山脈の一部に屬し、地勢山多し。仙臺市は縣廳の所在地なり、奥羽第一の都會、伊達氏の舊

多賀城碑。



松島

城下にして、控訴院第二高等學校、醫學專門學校、第二師團司令部あり、仙臺平及び埋木細工を名産とす。鹽釜は松島灣の一隅に位し、灣内の松島は日本三景の一なり。松島灣の外海を石巻灣と云ふ、牡鹿半島其の東方を限ぎる。石巻港は北上川の河口にあり、水運の要點を占め、

米の積出盛んなり、東方秋・濱は横濱・函館間の航路に當り、金山は牡鹿半島の南端に近し。
 縣の北西鍛冶谷・澤は軍馬の育成盛んにして、附近の鬼首は間歇泉に名高く、細倉は銀鉛の産額多し。

一〇、岩手縣

本縣は陸中の大部、陸奥及び陸前の一部を管し、面積廣大なり。

北上川國中を貫流し、原野多く、牧畜盛んなれども、米・麥の産は多からず。盛岡市は縣廳の所在地、南部地方の中心にして、鐵瓶・林檎を名産とす、北西に聳ゆる岩手山は南部富士の

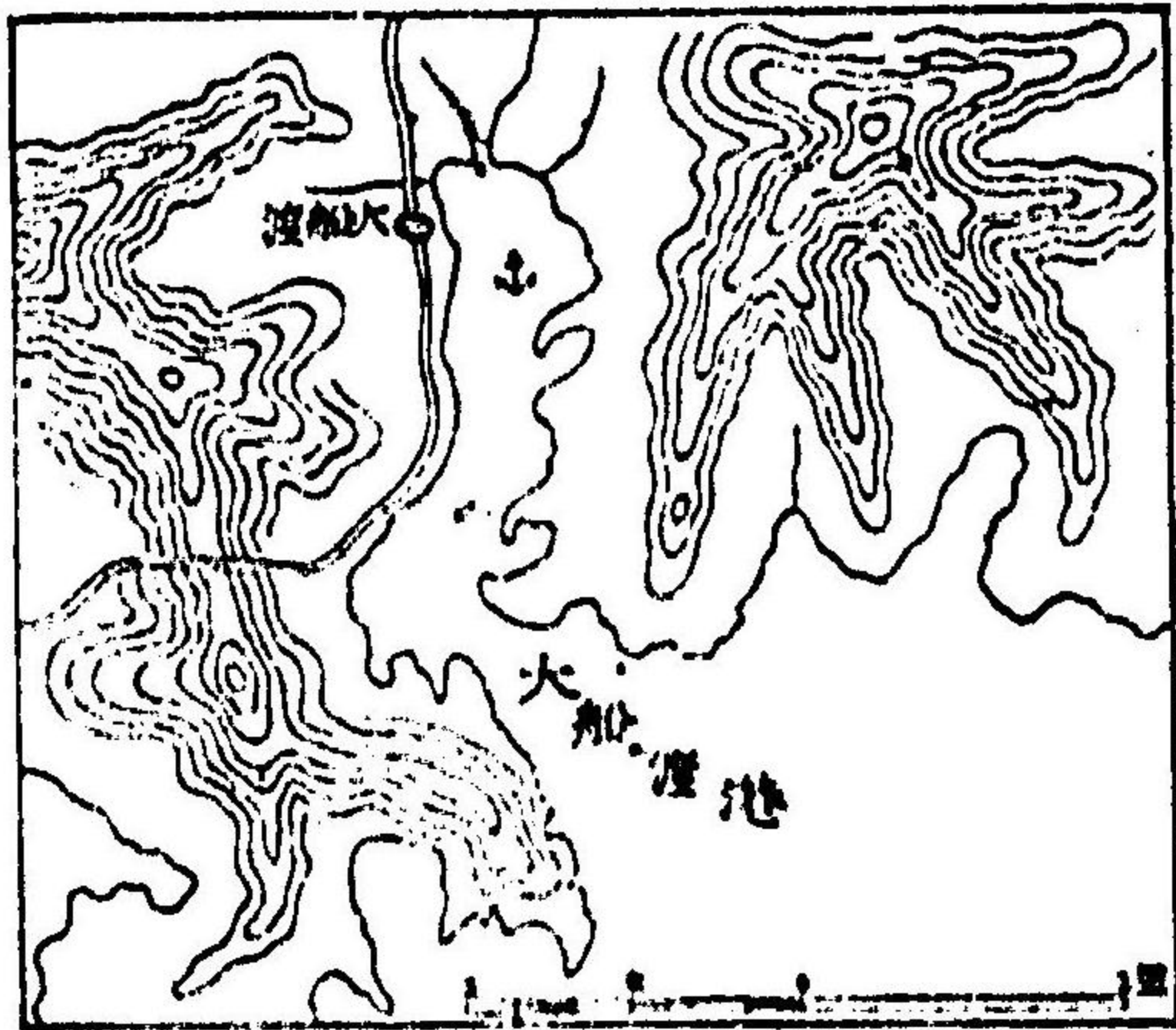


面積比較

種の産額は我が國第一なり。

南部縮、南部駒、

明治二十九年夏大津浪ありき。



大船渡港

名あり。黒澤尻は秋田縣に通ずる要點にして、西方に仙人鐵山、南方の水澤に緯度觀測所あり、衣川の柵址、一關の名邑は皆北上川の沿岸にあり。
 本縣の東部は北上山脈連亘し、以東は外南部の名あり、其の沿岸は屈曲に富み、宮古・釜石・大船渡等の良港あり、釜石附近の鐵山は我が國第一なり。

一一、青森縣

本縣は陸奥の大部を管す、三面海を受け、中に陸奥灣を抱き、水産の利多し。北州に對する津輕海峽の中央は海底深く、百尋を超え、寒暖二流の會合する所にし



岩木山

東に位し、十和田湖其の南方に當る。

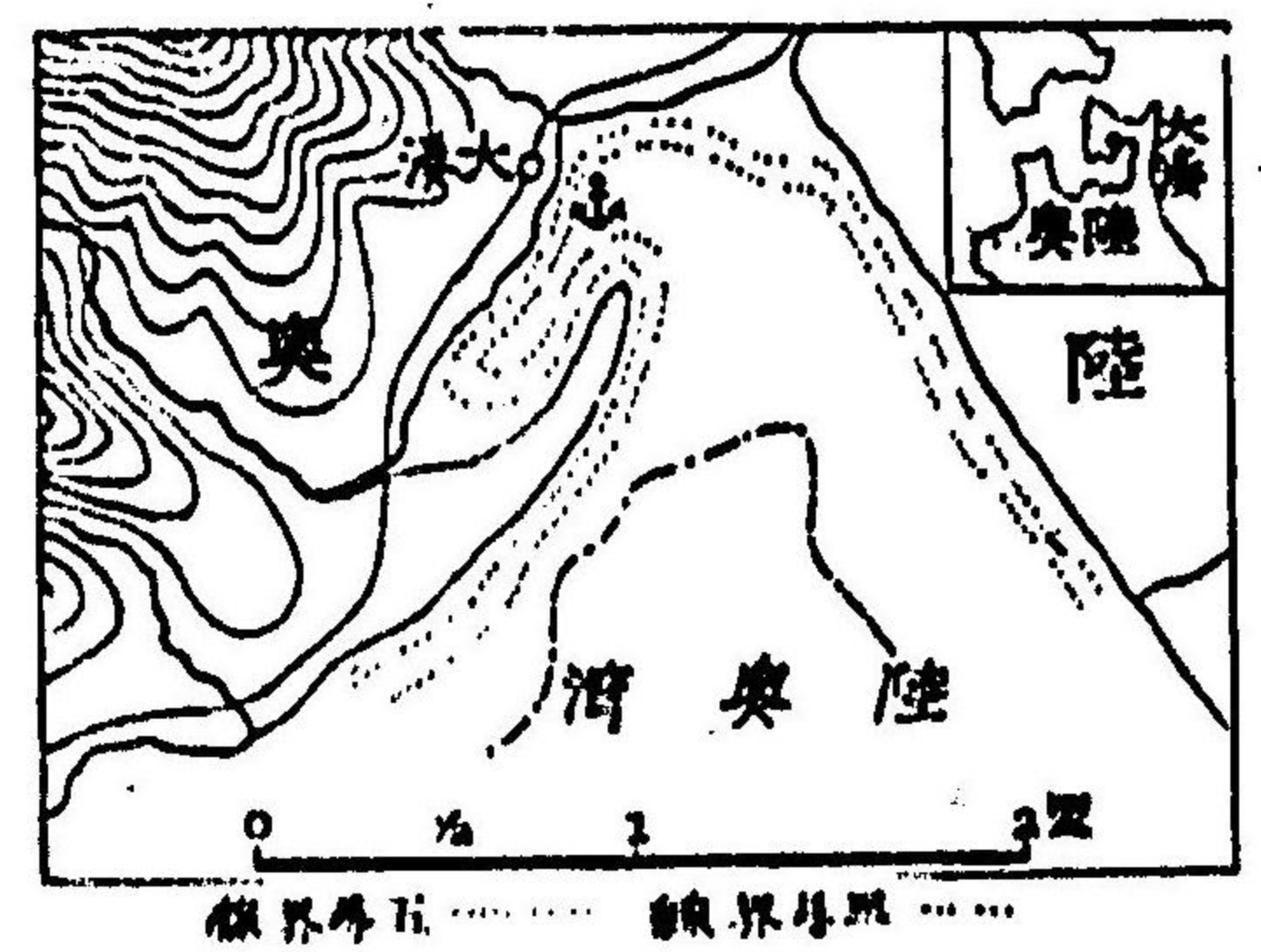
弘前市は津輕地方の中心、第八師團司令部の所在地にして、北西に聳ゆる岩木山は津輕富士の別稱あり、岩木川其の東方を流れて十三瀉に注ぐ、湖南に泥炭地多し。大湊は下北半島の南岸にあり、近時海軍軍港となり、水雷團の設けあり。

て、生物分布上の境界線をなす。

青森市は縣廳の所在地なり、市街は青森灣に臨み、北州に通ずる要點にして、歩兵第五聯隊の衛戍地なり、八甲田山はこれより南

り。恐山は其の北西に位し、硫黃の産多し。野邊地の南方、

三本木四近は牧畜盛んなり、鐵道は野邊地より小河原沼の南西を経て、馬淵川を渡り、八戸に達す、此の地は東方に鮫港を控へ、南方に脱龍窟の奇觀あり。

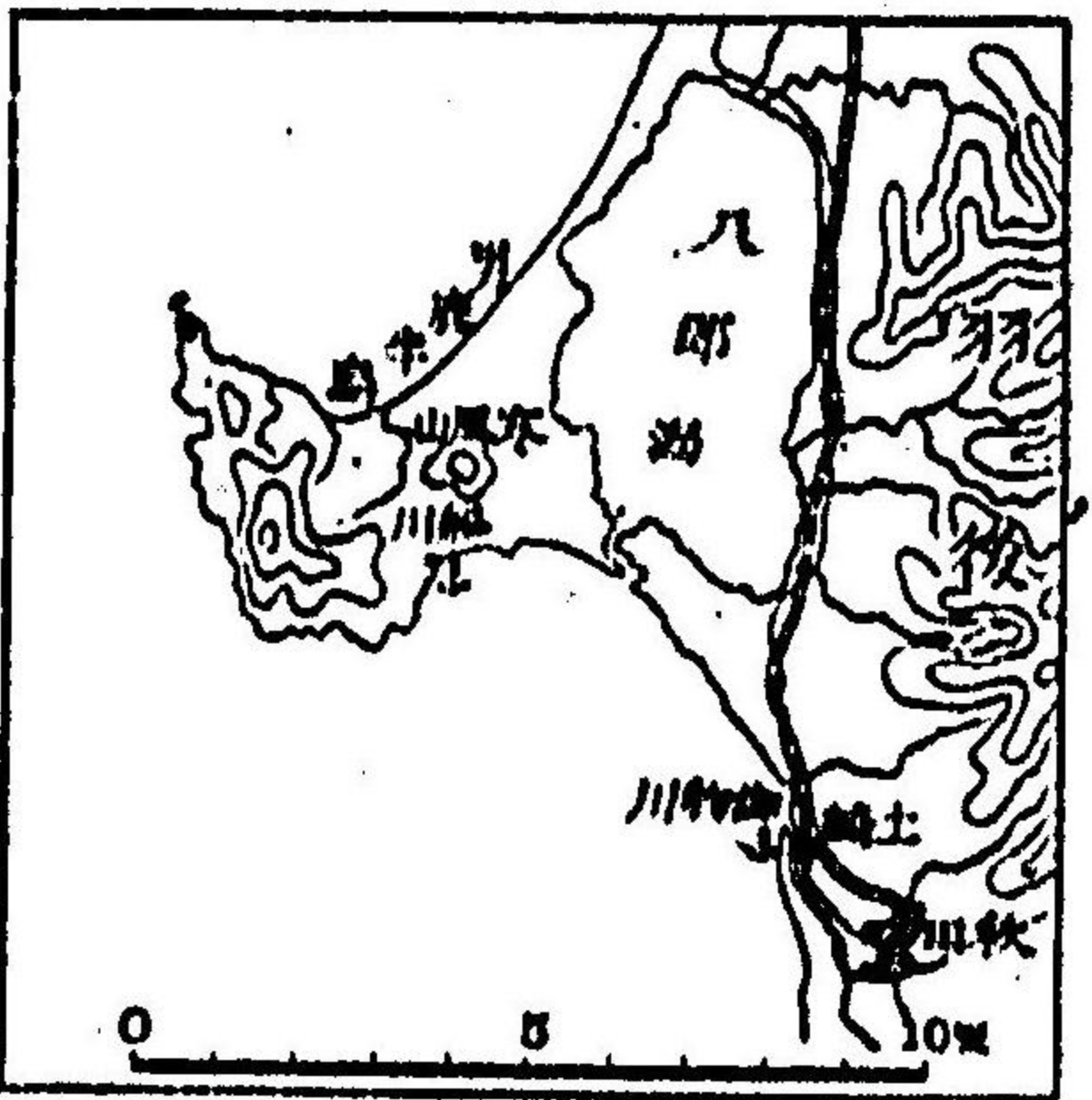


一二、秋田縣。本縣は羽後の大湊部陸中の一部を管す、東部及び南部は山多けれども、御物能代二川流域の平地は米産甚だ多し。銀の産額

我が國第一にして、銅も亦た多し。

秋田市は縣廳の所在地なり、佐竹氏の舊城下、歩兵第十六旅團司令部の所在地にして、秋田畝織及び秋田蒜の産あり、

能代塗。



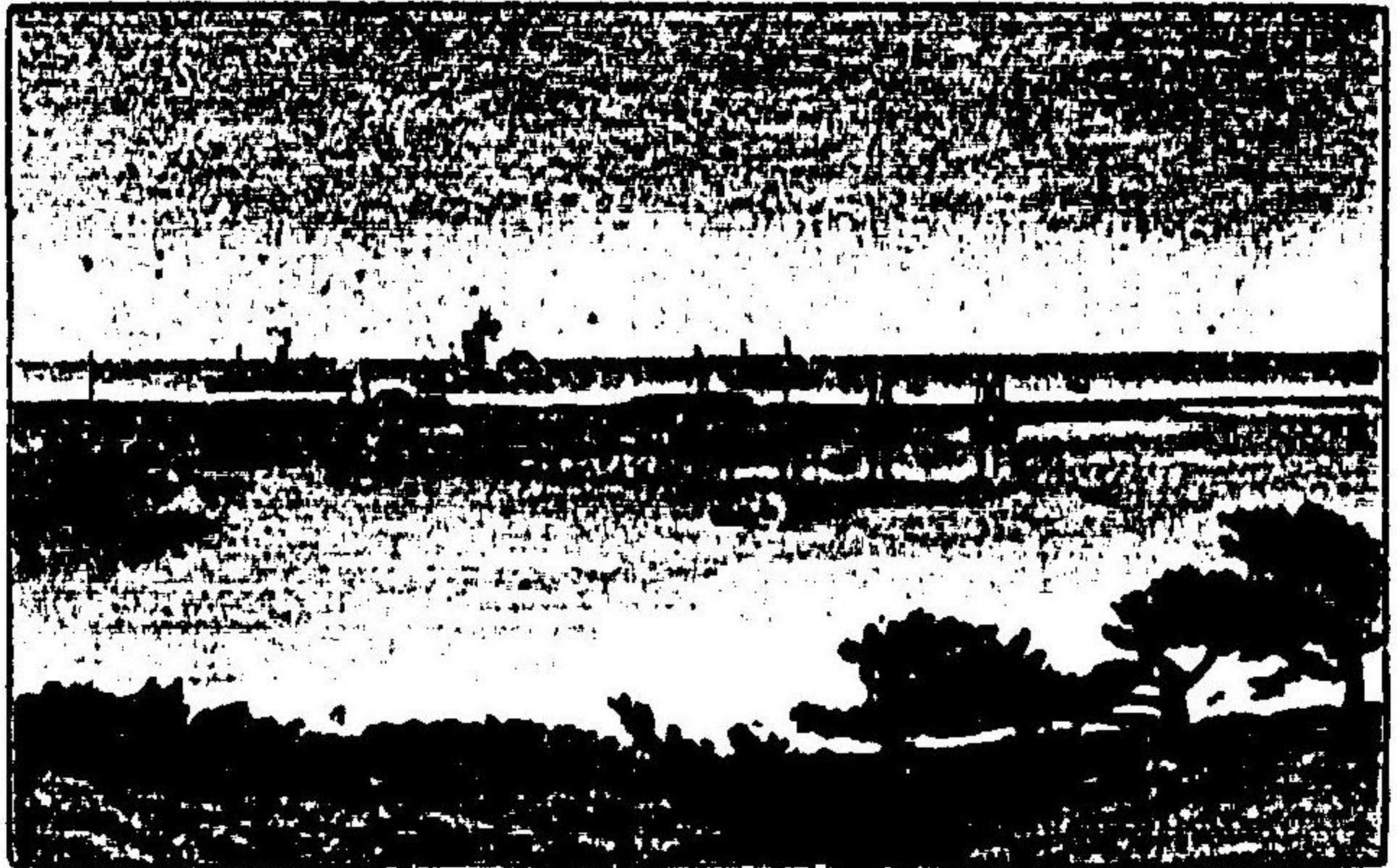
秋田・山形・羽前及び附近

佳なり。能代は能代川の河口にあり、米の積出盛んなり。

本縣は小坂尾去澤阿仁荒川院内等の鑛山に富む、鳥海山は出羽富士の別稱ありて、高く南西境に聳え、山上に鳥海あり。

一三、山形縣。本縣は羽前全國及び羽後の一部を管す、東及び南境には藏王音妻飯豐の諸山高く峙ち、中部の平地

祭神上杉謙
僧。



最上川の河口

羽黒山湯殿山切山は羽前の三山にして、最上川は日本三急流の一なり。

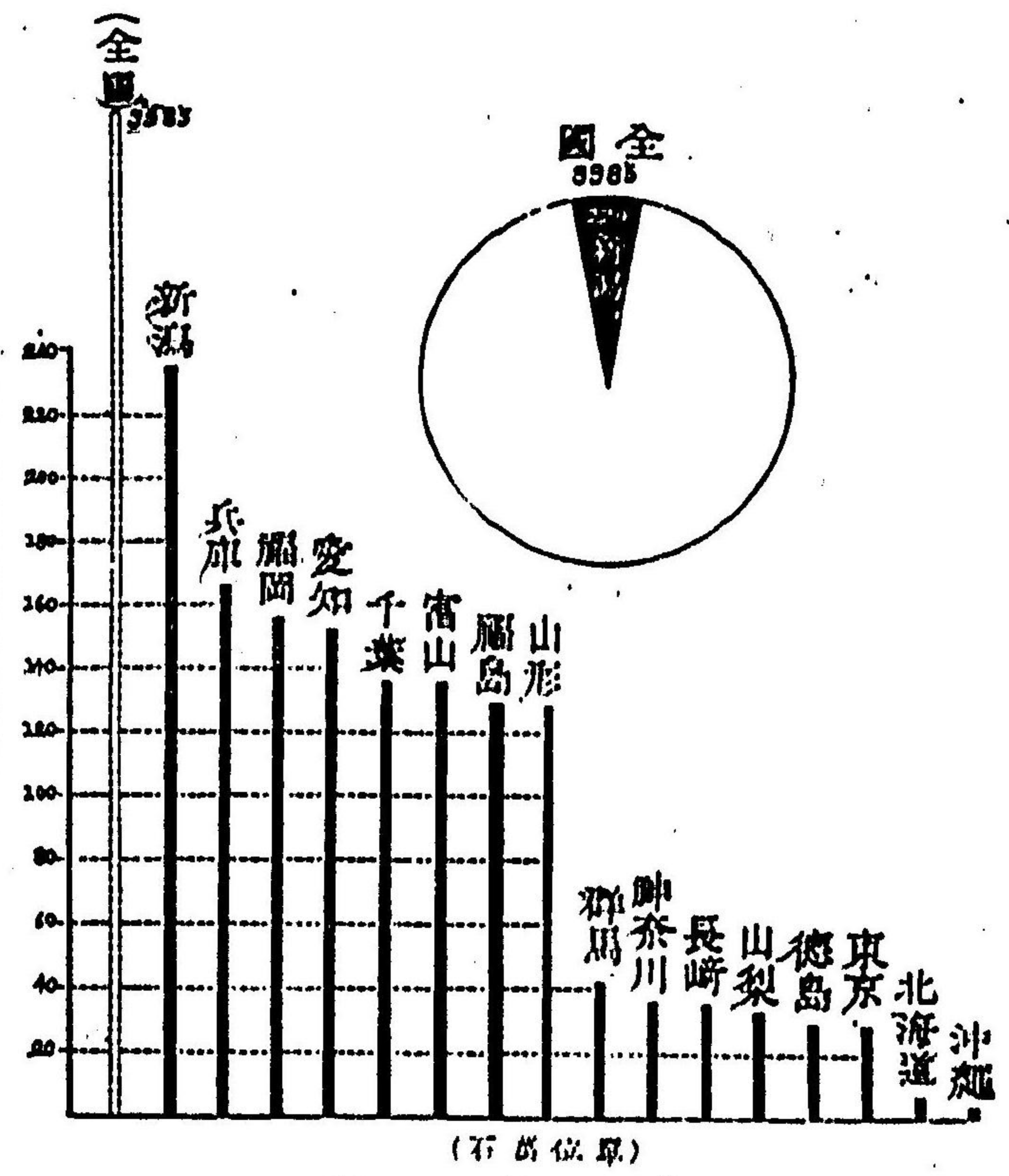
は最上川の流域にして、米産に富む。山形市は縣廳の所在地にして、もと最上と稱せり、歩兵聯隊こゝに衛戍す、山寺の奇景はこれより北東方に當る。

米澤市は養蠶織物の業盛んにして、上杉神社あり。新庄は秋田市に通ずる要點にして、綾織の産あり。

酒田は最上川の河口に位し、米の積出多く、鶴岡は庄内地方の中心なり。

第三節 新潟縣

には清水越三國越東境には八十里越六十里越の險あり。

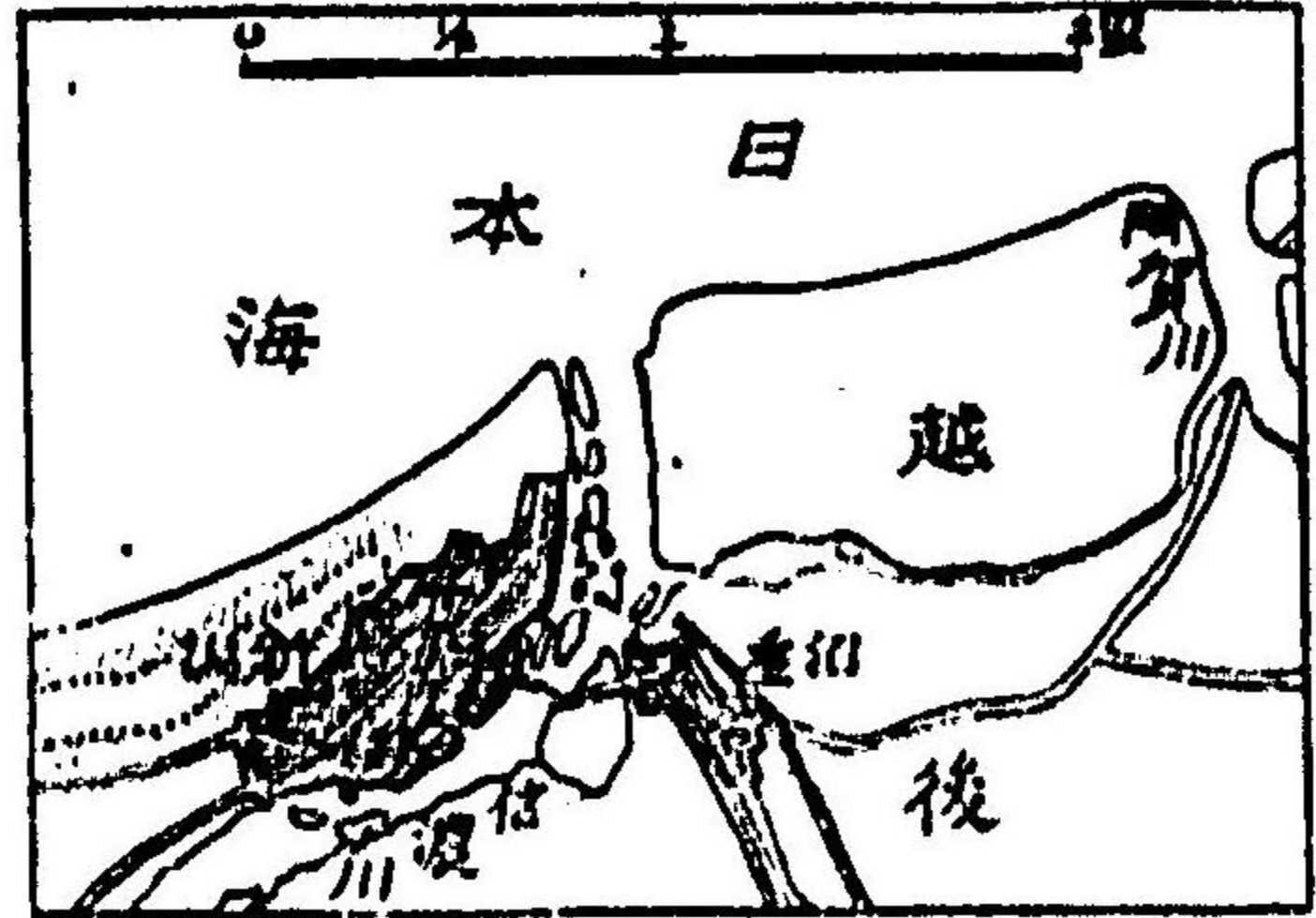


一四、新潟縣。本縣は越後佐波二國を管す、縣境は山多く、南西部には焼山、妙高山の火山、西境には蓮華山の高山、親不知子不知の險、南境

飲料水不良なり。

然れども信濃阿賀諸大河の流域は平野廣くして、米産の高、二百萬石を超え、石油の産山は近來著しく増加して、内外人の注意する所となれり。

新潟市は縣廳の所在地なり、市街は信濃川の河口に位し、開港場なれども、河口水淺く、波荒きを以て、貿易盛んならず。



近附及び市新潟

新・發・田は新潟市の東方にあり、歩兵第十五旅團司令部の所在地なり、村上は縣の北部にあり、八雲塗を産す、赤谷は鐵鑛、五泉は五泉平、枋尾は枋尾紬を産し、村松は歩兵聯隊の衛戍地なり、長岡は本縣中部の都會にして、信濃川汽船航路の極點に位す、附近は石油の

東山石油地
西山石油

「此の下に
高田あり」
の區あり

無名異燒。



東山石油坑の一

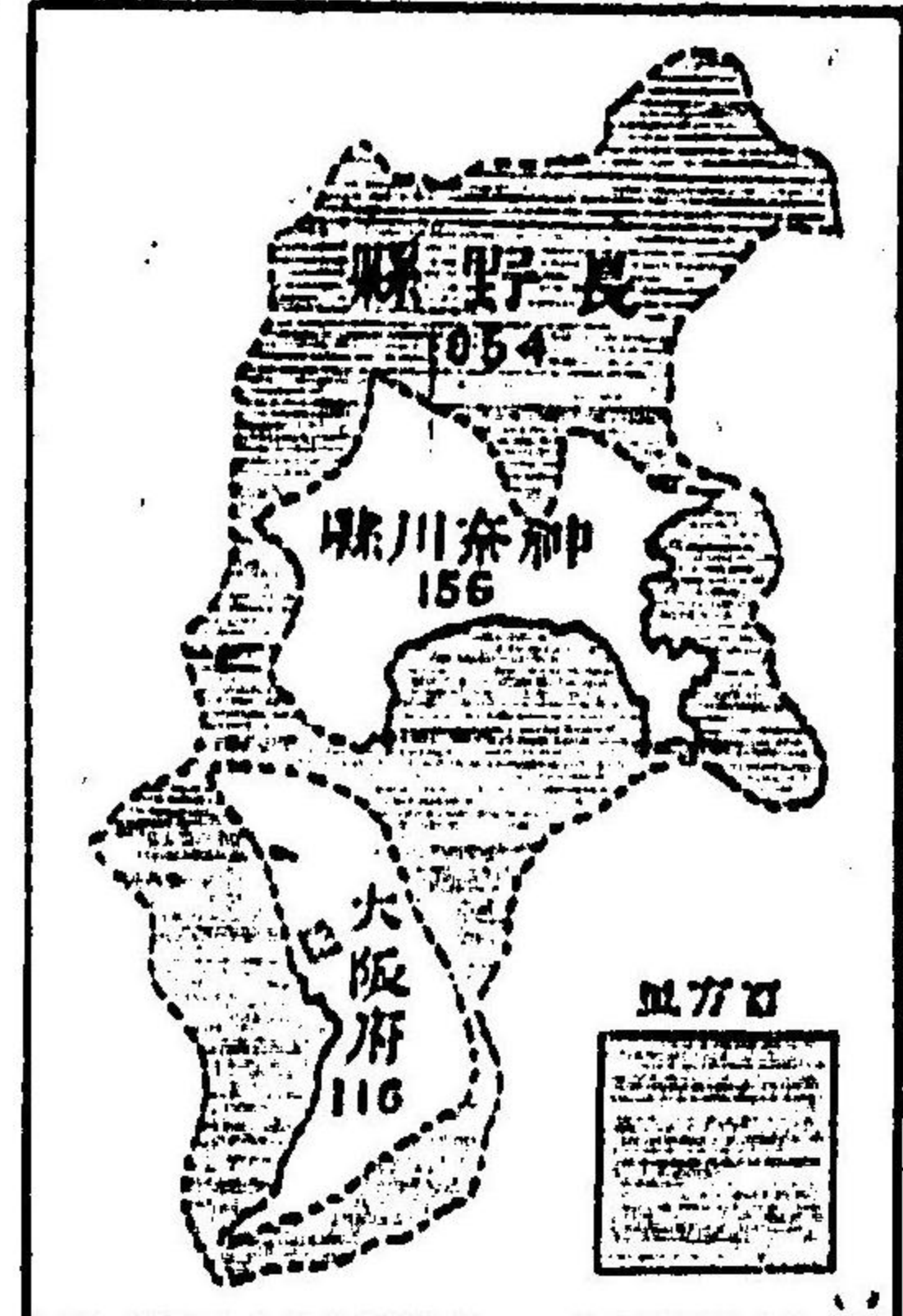
産最も多く、其の南方小千谷は縮十日町は透綾の名産あり。直江津は交通の要點に當り、南方の高田は冬季の深雪を以て名高し。
佐渡は形法馬の如く、中央狭き所東側に夷の開港場あり、相川の鑛山は金銀の産夥しく、眞野は順徳天皇の舊跡を存す。

第四節 甲信地方

一五、長野縣。 本縣は信

更科蕎麥
及び蠶繭
紙の産額
我が國第一なり

濃全國を管す面積大にして十國と境を接し、農産少からず、蠶業頗ぶる盛んなり。地勢一般に高く、雨量甚だ少し、河流はこゝに發して皆他縣に入る。山河の地勢に基き、地方に細別あること、特に注意すべし。

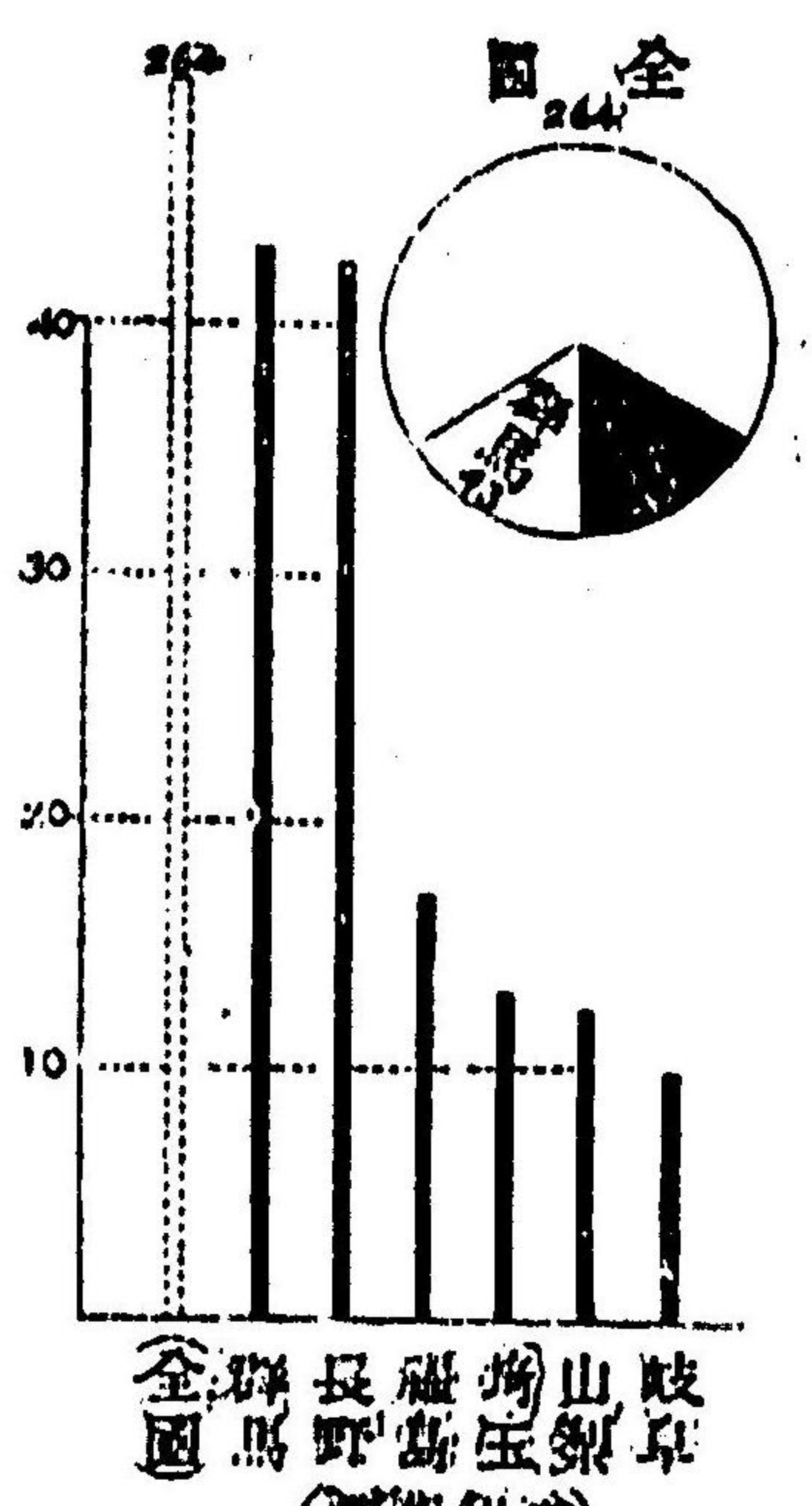


面積比較

長野市は縣廳の所在地にして、有名なる普光寺あり、長野市の繁華は重もにこれによる、四近の平地を普光寺平と稱し、川中島其の中にありて、犀川及び千

松本の位置
海面上凡そ
二千三百
尺。

曲川の合流點に位す。松本は犀川の右岸にあり、本縣第二の都會にして、四近の平地を松本平と云ふ、妹捨山の名所上



田の穀粟地は、千曲川の流域にあり、上流の平地を佐久平と云ふ、鐵道は上田より淺間山の麓に沿ひ、碓氷峠の嶮を

過ぎ、群馬縣に入る、碓氷峠は土地高燥にして、最も避暑に適す。これより南西に進み、和田峠を過ぐれば、諏訪湖に達す。四近の平地を諏訪平と云ふ、上諏訪は其の中心にして、養蠶の業盛んなり。諏訪湖は冬季氷結し、人馬湖上を往來す、天龍川は源をこゝに發し、其の河谷を伊那谷と稱す、飯田は其の中心にして、静岡・愛知二縣に通ずる要點なり。伊那谷の

寝覚床。

赤石山。
御嶽。
大天井岳。

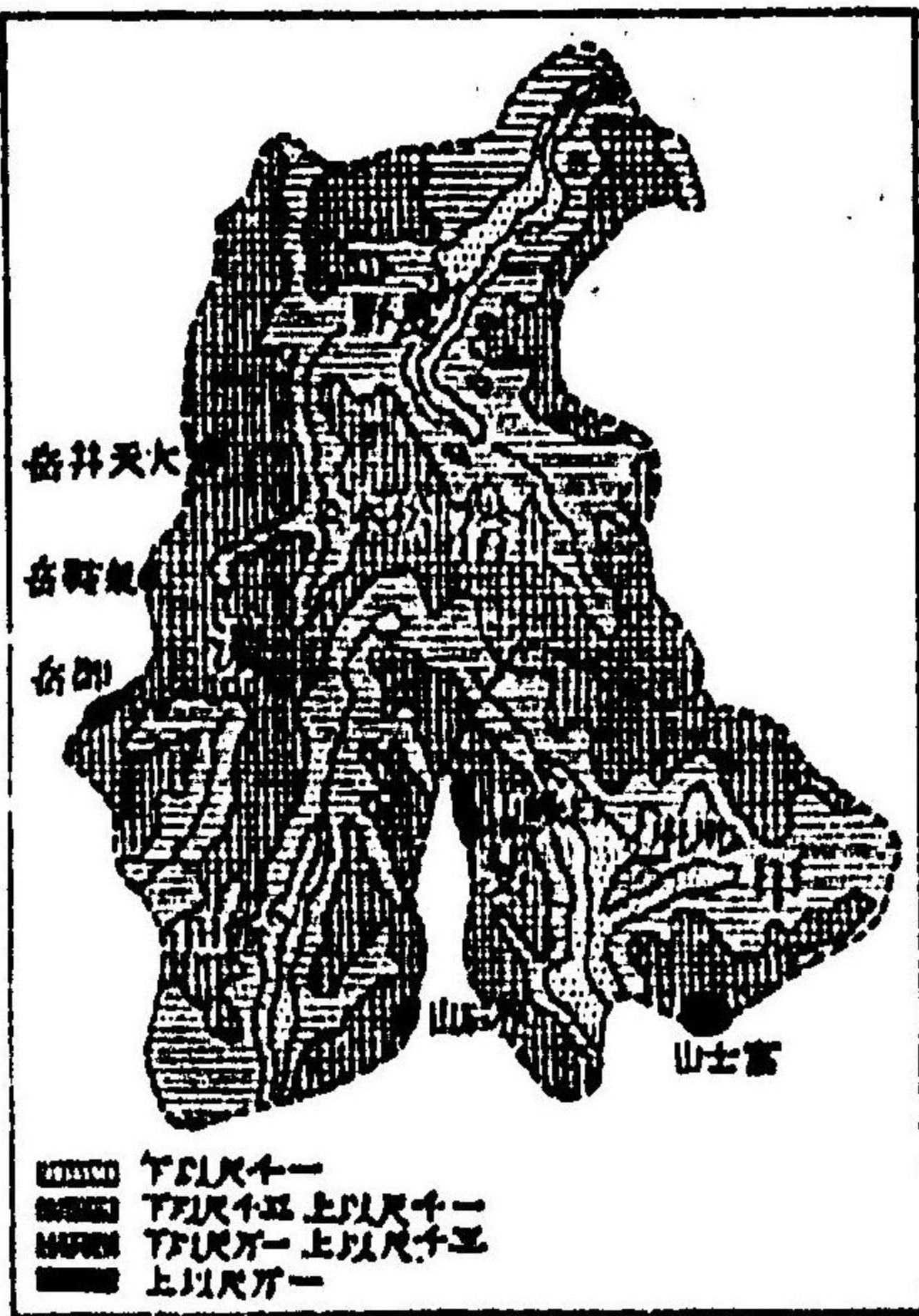
八ヶ嶽、鳳山、富士山。

日本三急流の一。

西方は一帶の山脈これを限ぎり、惠那山駒岳其の中に聳ゆ、此の山脈の西方は木曾川の河谷にして、木曾谷と稱し、河岸は勝景に富み、良材を産し、木曾五木の名世に高し、(檜・花・柏・羅漢・柏・鼠子・金松)。伊那谷の東方は赤石山脈、木曾谷の西方は飛騨山脈これを限ぎり、一萬尺内外の高峯多し。

一六、山梨縣。本

長野山梨二縣の地勢。縣は甲斐全國を管す、周圍に高山を繞ぐらし、中に平原を控へ、其の地勢摺鉢の如し、富士川の上流これを貫きて静岡縣に入る。



甲斐州。

長さ一萬五千餘尺。
郡内織。
富士山の北麓には湖水多し。
久遠寺。

甲府市は縣廳の所在地なり、甲府平原の中心を占め、製絲業盛んなれども、飲料水の不良なるは惜むべし。北方に御嶽の勝地あり、附近より水産を産す。勝沼の四近は甲州葡萄の産多く、笹子峠は日本第一の隧道を通じ、猿橋驛の猿橋は有名なる奇橋なり。谷村は郡内地方機業の中心にして、吉田は富士登山口の一なり。鯉澤は富士川水運の極點にして、身延山は日蓮宗信徒の靈地なり。

第二章 本州西部

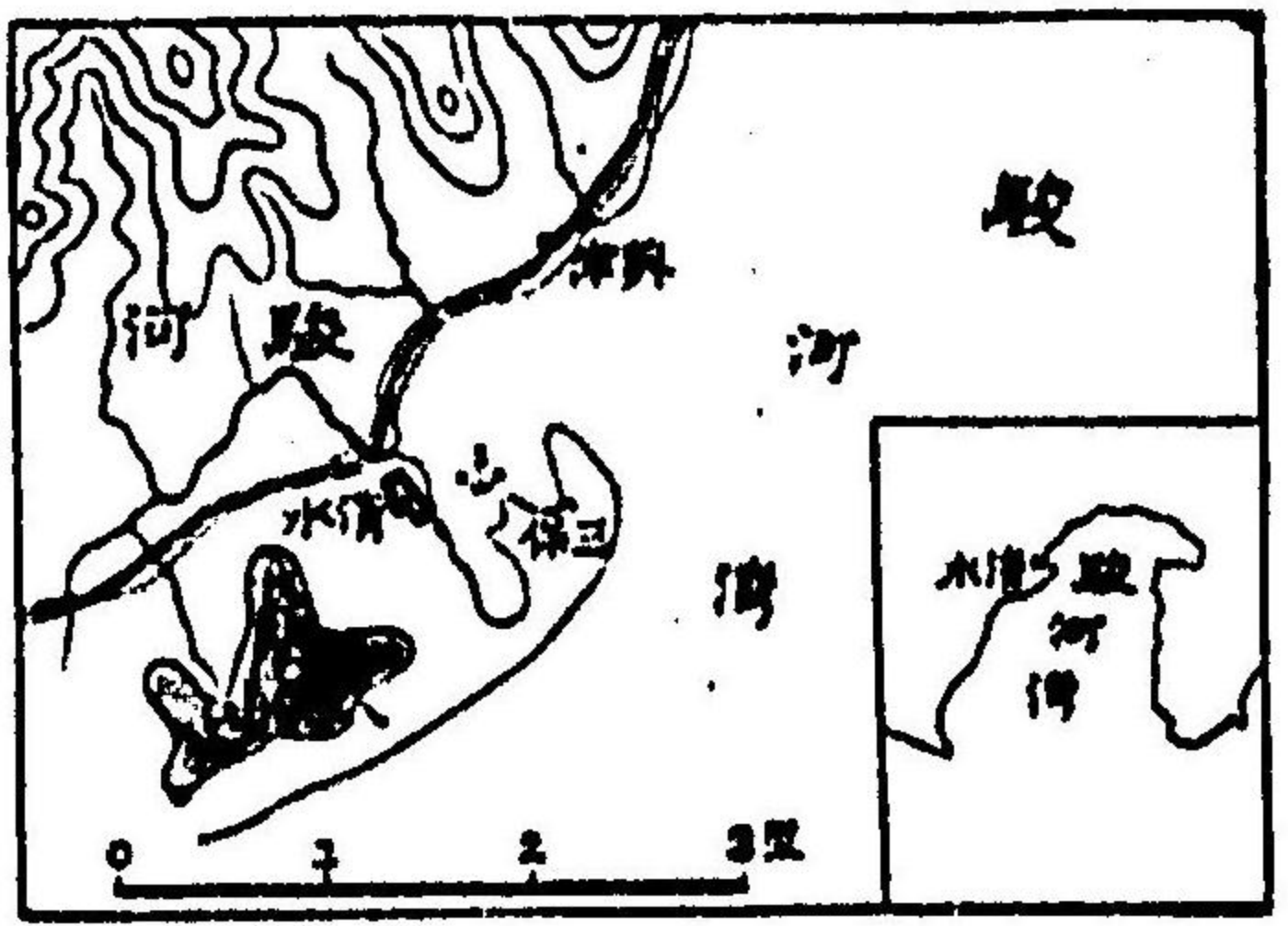
第一節 東海地方

一七 靜岡縣。本縣は伊豆七島を除く、駿河、遠江三國を管す、北東は富士火山脈、北は赤石山脈連亘し、河流皆急なり、

製紙、養蠶、製茶及び水産の業甚だ盛んにして、駿河半紙、安倍茶の名古より高く、煎茶の産額我が國第一に位し、鯉の漁獵も近來本縣に及ぶものなし。

靜岡市は縣廳の所在地なり、もと駿府と稱せり、歩兵聯隊の衛戍地にして、漆器及び竹細工の名産あり。靜岡の東方なる久能山に東照宮あり、北東の清水は開港場にして、三保松原これを抱く、これより北東興津を經、富士川を渡り、浮島沼の南を經、沼津に至る間、氣候溫和にして、最も避寒に適す。鐵道は沼津より北に進み、愛鷹山の東を過ぎ、御殿場を經て、神奈川縣に入る。御殿場

祭神 德川家康。
興津 興津。
清水 清水。
御殿場の位 御殿場の位は海面上



中篇 地方誌

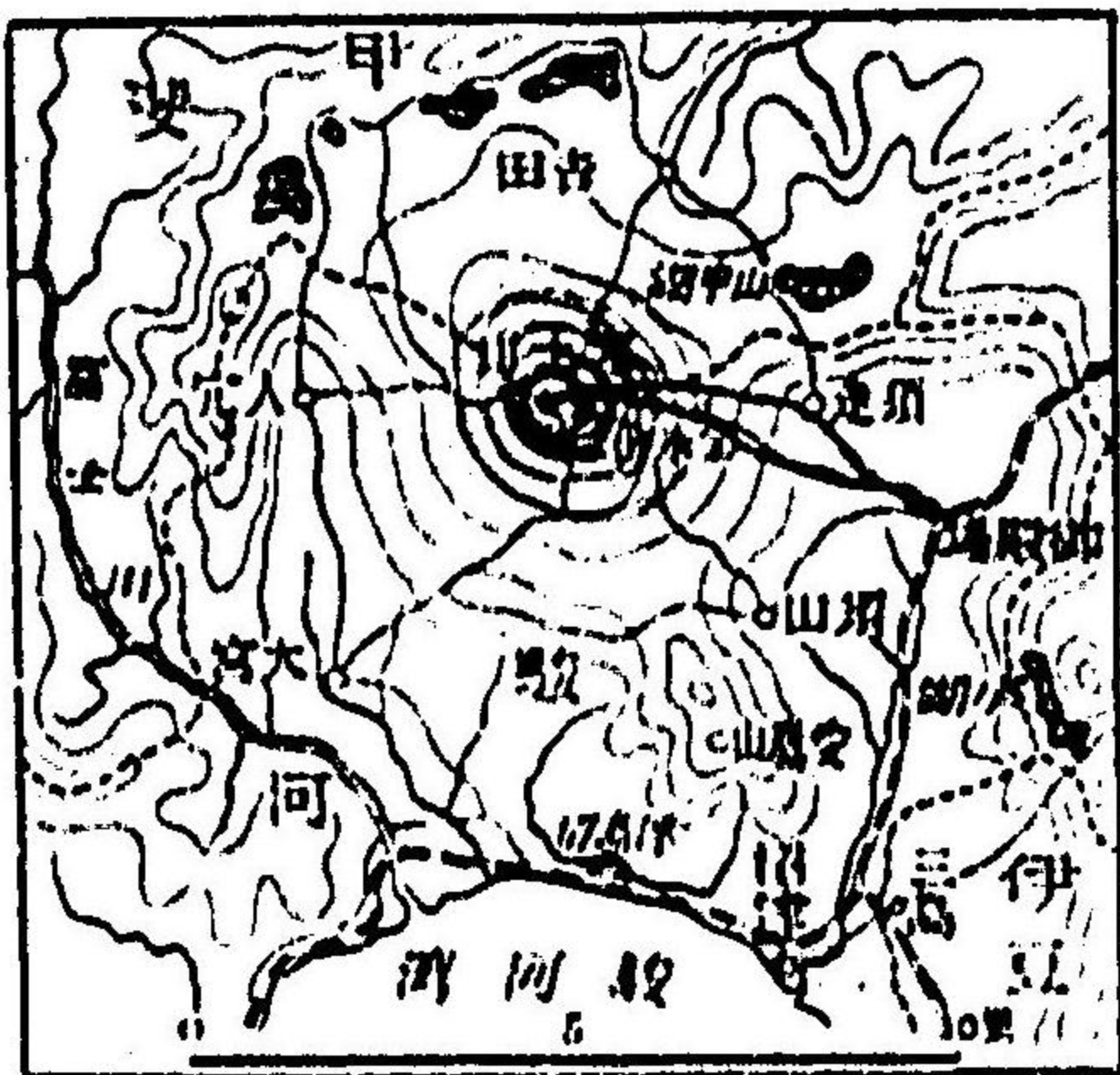
一千五百尺。

遠江國名の起因。

は富士登山口の一にして、東麓の須走、南東の須山、南西の大宮、西の人穴、北東の吉田(山梨縣)と共に其の名高し。沼津の北東三島より狩野川に沿ひ、南方に進みて、修善寺の温泉に至れば、此の邊歴史上の名跡甚だ多し。これより以南は天城山の地體にして、其の山林は良材を出す。石廊崎は伊豆半島の南端にして、神子元島と相對し、附近の下田は開港史上に名高く、伊豆の東岸熱海は有名なる間歇泉を有す。静岡より安倍川を渡り、日本武尊の故事を以て聞ゆる焼津を經、大井川を渡れば、相良の石油地あり、其の南端は御前崎にして、遠江洋に突出す。西方天龍川を渡れば、濱松に至る、此の地は本縣第二の都會にして、東京、神戸、間鐵道の中間に位す。其の北方には三方、原、秋葉山、西方には濱名湖あり、湖口

海水の通ずる所を今切と云ふ、新居の關址は西岸にあり。

富士山は本邦内地第一の高山にして、其の最高點は海面上二萬二千餘尺あり。頂上は夏も非常に寒ければ、綿入を着して登るを常とす。山頂に舊噴火口あり、内院と稱す、周圍半里許、山腹の寶永山は、寶永年間破裂の際に生ぜしものなり。麓の原野を焼野、これより上を、燒野、其の上を木立、又其の上を燒野と云ふ。燒野より山頂までは熔岩灰砂一面にこれを掩

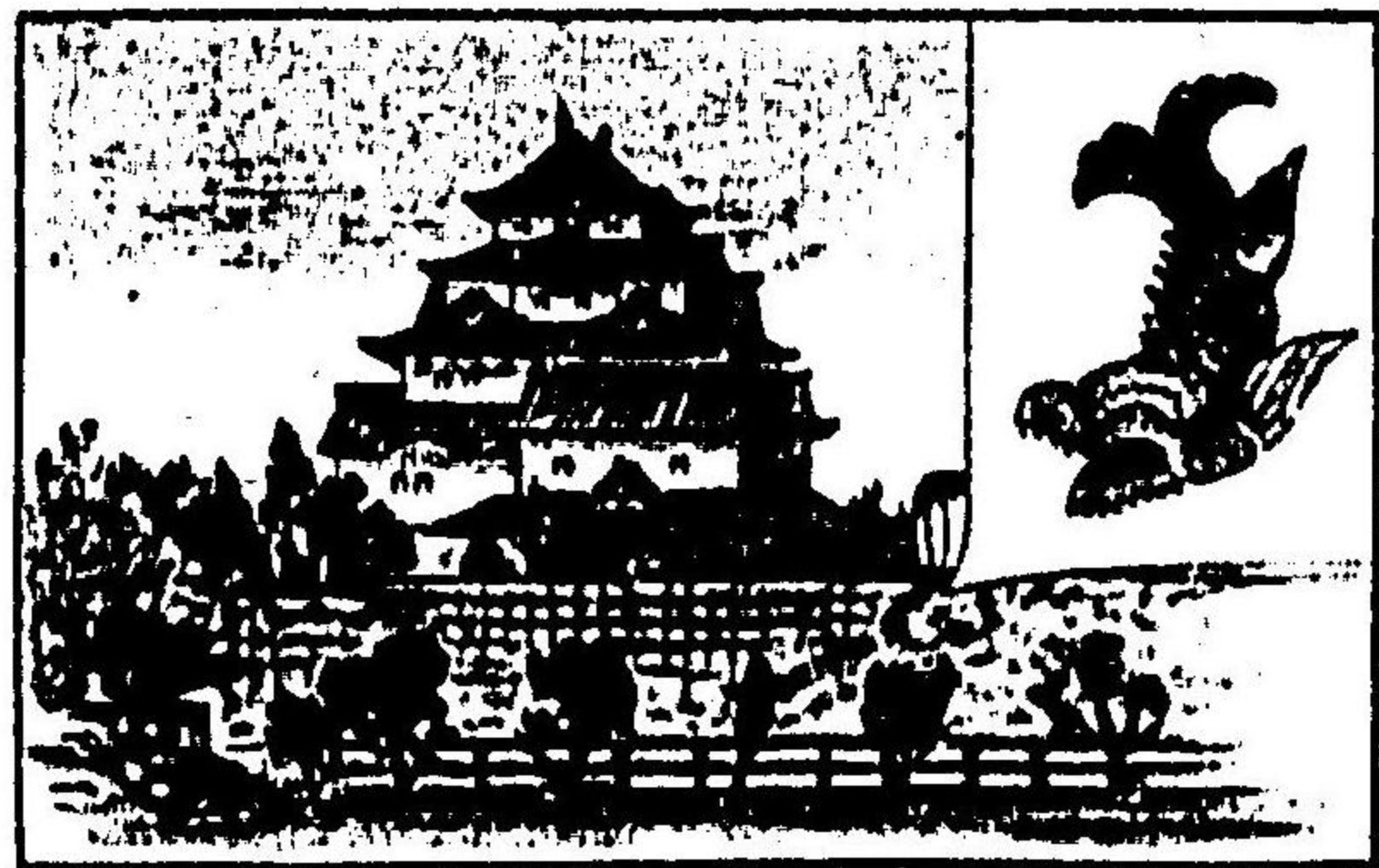


富士山及附近

ひ其の間はこれを十合に分ち、一合毎に石室ありて、休泊避難の場所に充つ。山腹を流下する著しき川なく、流水は、火山灰砂を透し、遠く山麓に於て始めて盛んに噴湧し、南西の大宮附近にては、水力の利用大にして、製絲及び製紙の業盛んなり。富士山の甚だ高きに對して、駿河灣は又甚だ深く、千尋を越ゆる所あり、興津近傍に於ては、如何な

織田豊臣徳川三氏の故地なり(清洲、小牧山、長久手、桶狭間、長篠)三河國名の起因。

築港工事



名古屋城

る大艦も殆んど直ちに岸に接近し得べし斯くの如き深海中又僅かに十
八尋に過ぎざる淺所あり此の部を石花海と云ふ。

一八、愛知縣。 本縣は尾張三河二國を管す、大部は平地にして、農産甚だ多く、木曾川、矢作川、大平川、矢作川の支流(豊

川によりて、水利少からず。

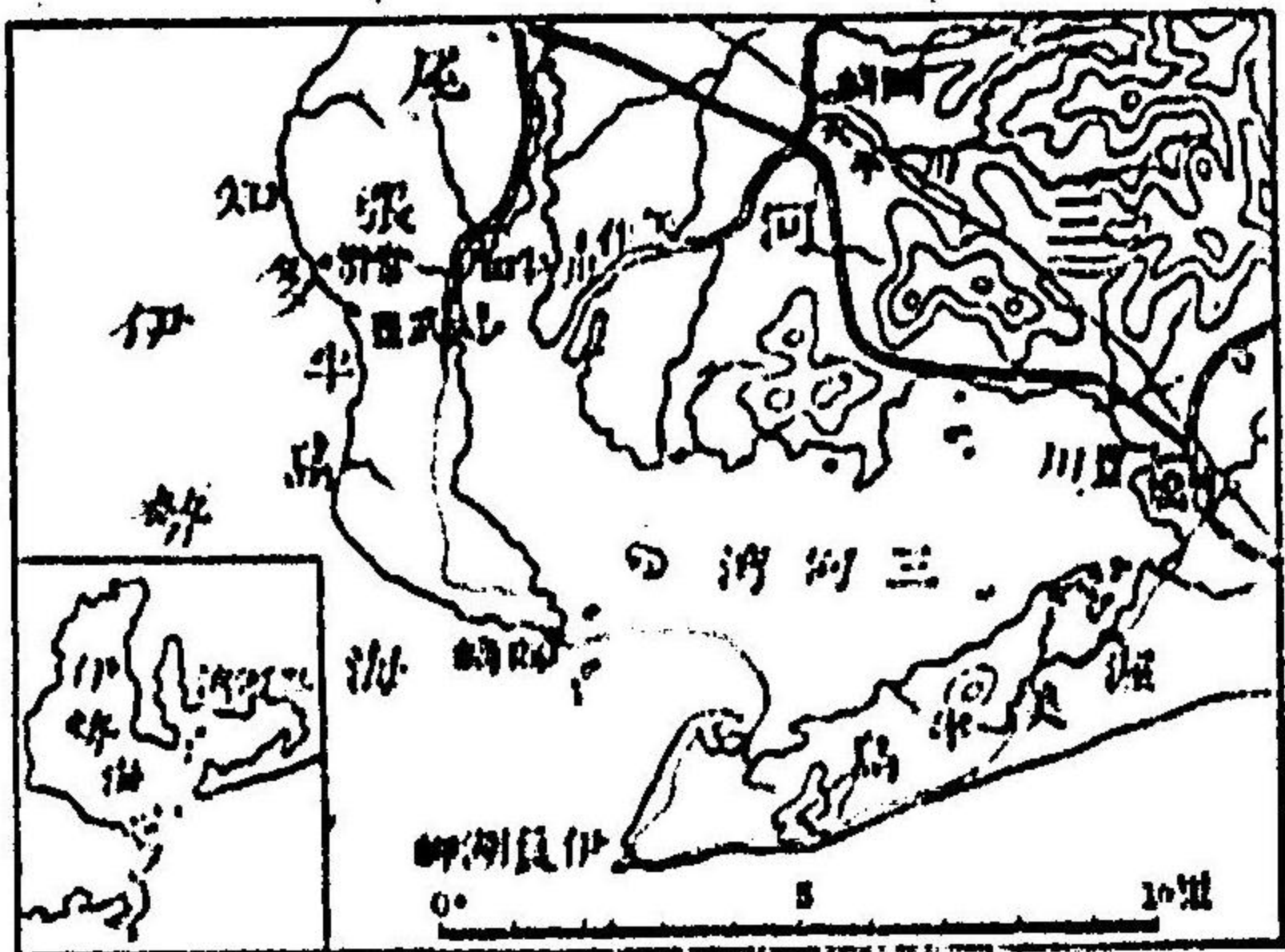
名古屋市は縣廳の所在地にして、伊勢海の北に位し、交通の要點にして、我が國第四の大都會なり、尾州家の舊城下にして、天主閣の屋上には黄金の鯀あり、醫學校、控訴院、第三師團司令部の設け、綿織絲、七寶燒、名古屋扇の産あり、南の熱田港は熱田神

祭神草薙劍。半田の酒、樽油酢、常滑の陶器。

風來寺山。

美濃紙、美

宮の所在地にして、通稱を宮と云ふ。知多半島は渥美半島と相待て、三河灣を抱き、産業、交通上甚だ有望の地にして、武



三河灣

豊の開港場は鐵道支線の終點に當る。名古屋市の北東、瀬戸は瀬戸燒、南東、鳴海及び有松は絞を産す。岡崎は徳川家康公の生地にして、豊橋は歩兵第十七旅團司令部の所在地なり。

一九、岐阜縣。 本縣は美濃、飛

部は沃野廣し。北部の雨量は我が國第一にして、木曾川洪水の多きはこれが爲めなり。本縣は農産の外、養蠶製紙製

濃米多治見焼。

關原の役西軍の根據地。

日本アルプス。



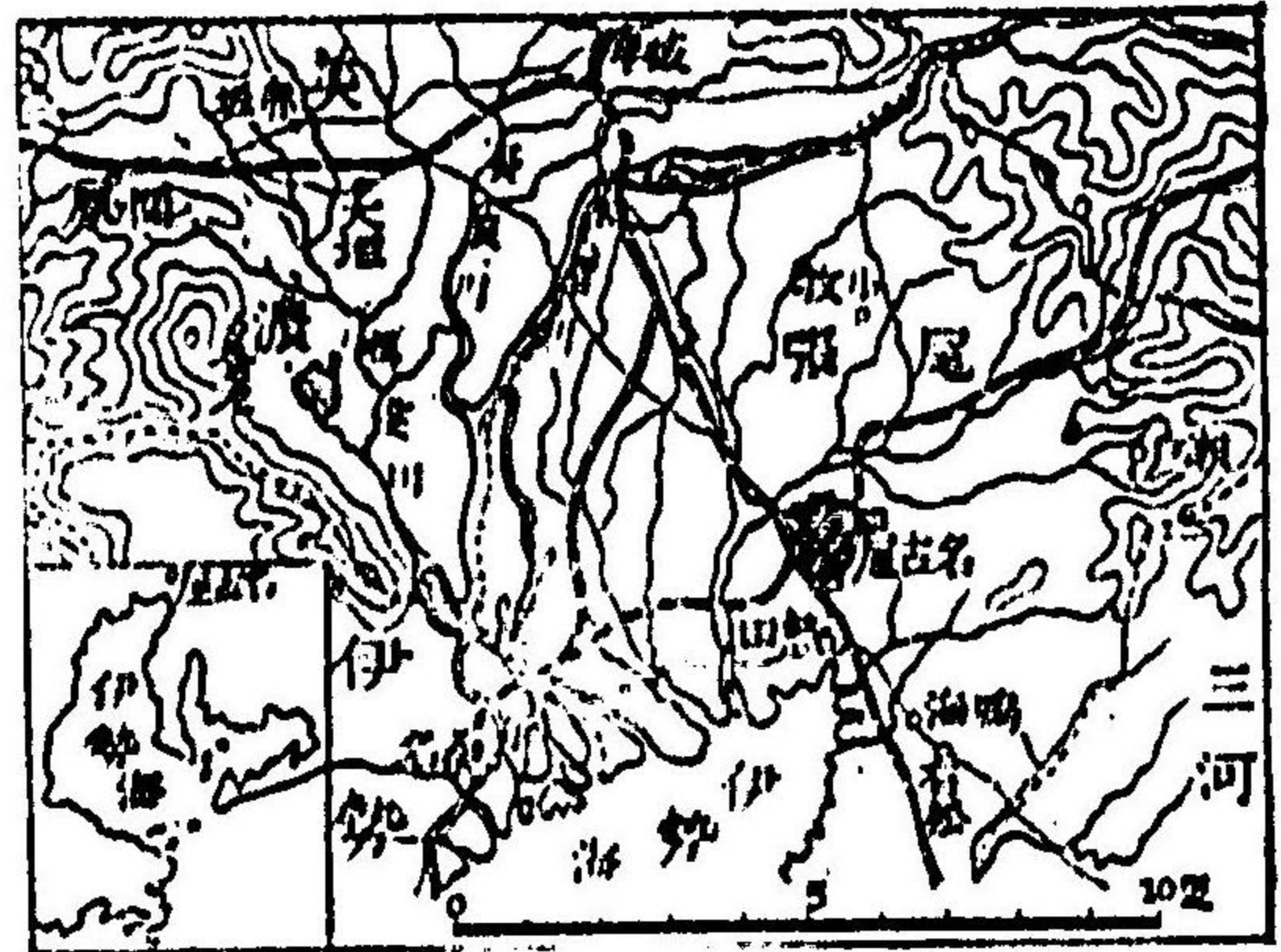
長良川の細飼

陶の業頗ぶる盛んなり。岐・阜市は縣廳の所在地にして、長良川に臨み、鴉飼を以て名あり。大垣は本縣第二の都會にして、赤坂は大理石の産地なり、赤坂の西に關原の古戰場、南方に養老瀨あり。飛騨は高山峻峯多く、東境には乗鞍、嶽西境には白山高く、鐵え地、勢最も高峻なり、國中鑛山に富み、銀及び黒鉛の産特に多

大臺原山。

伊勢蝦。

祭神結城宗廣。



木曾川の下の流附近

し、高山は國中第一の都會にして、春慶塗を産し、南方の位山は一位木を出す。

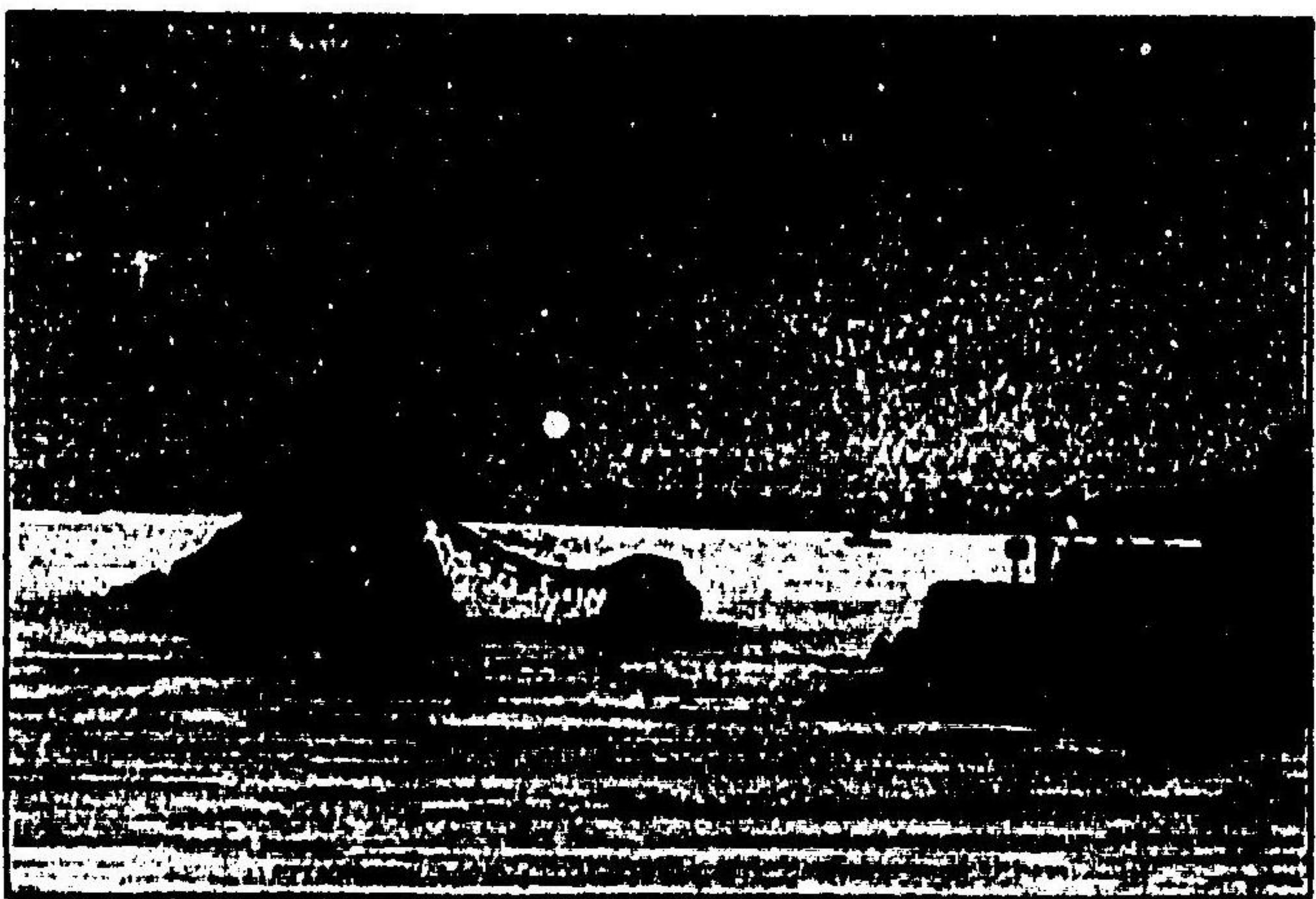
二〇三三重縣

本縣は伊賀・伊勢・志摩三國及び紀伊の一部を管す。南部及び西部には山多きも、北東部の沿岸には平地少からずして、農産・水産共に名あり。

津市は縣廳の所在地、藤堂氏の舊城下にして、伊勢國第一の都會なり、緞子織を名産とす、近傍に結城神社あり。宇治・山田は神宮の所在地にして、宇治及び山田の二部より成れり。宇治の内宮は天照皇太神、山田の外

時雨始

滋賀縣の境
に鈴鹿峠あり



多半島の師崎と相對して、伊勢海の門戸を成す、東口に暗礁

宮は豐受大神を祀る、春慶塗は此の地の名産なり。北東の二見浦には、大小二箇の奇岩ありて、海中に並立す。

桑名は木曾川の河口にあり、附近より萬古焼を出す。四日市市は開港場の一にして、能褒野は日本武尊の舊跡、一身田は眞宗の巨刹を以て有名なり。

伊賀の上野は山間の都會なり。山田の東方鳥羽港は島嶼前に横はり、渥美半島の伊良湖岬、知

あるは惜むべし。

志摩の海岸は風曲に富み、的矢濱島の二港最も名高し、これより南西紀伊の沖は熊野洋にして、鯨鯨の捕獲多し。熊野川は和歌山縣との境を限り、其の支流北山川の沿岸には湍八町の奇景を存す。

志摩の海岸



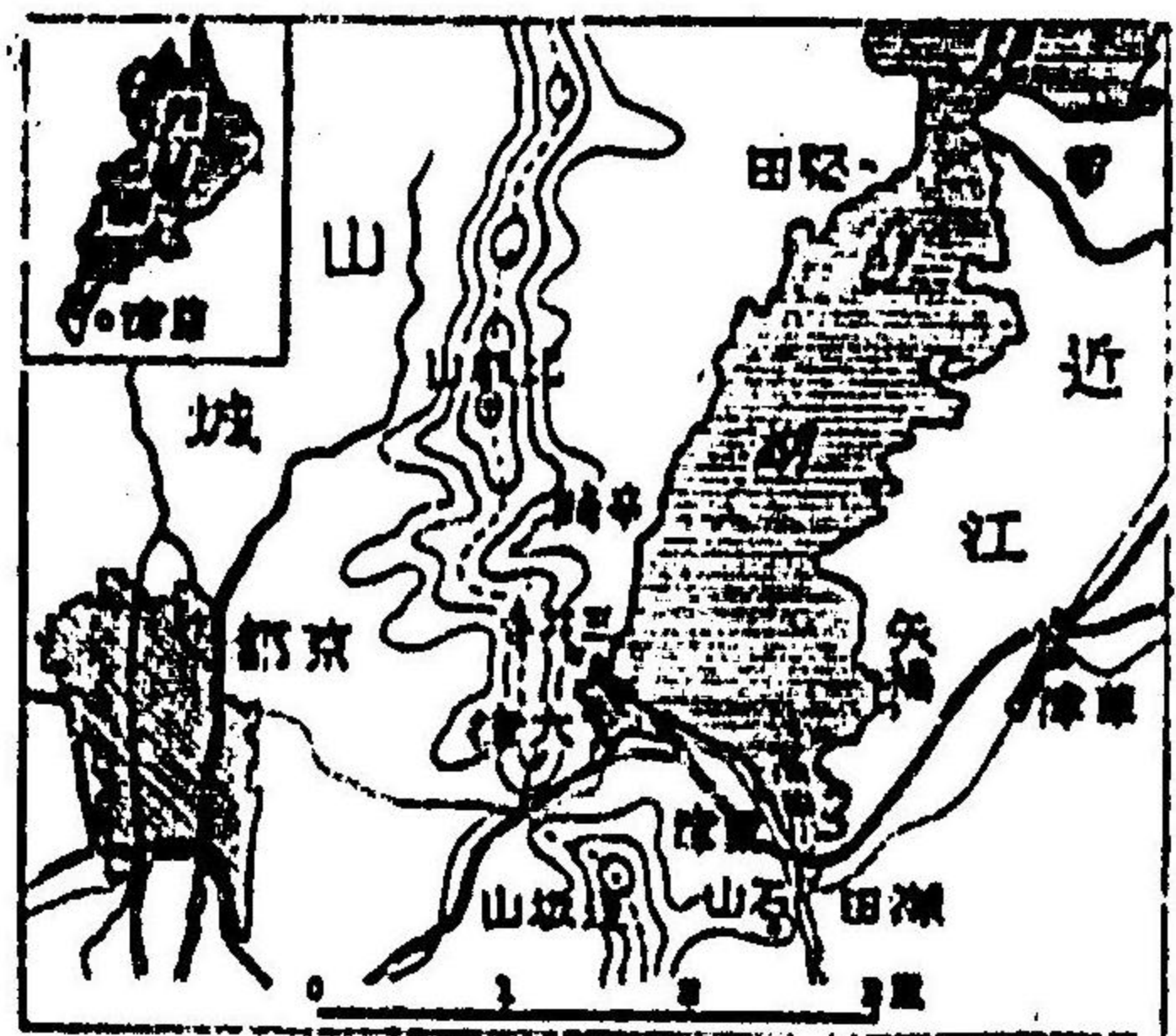
第二節 近畿地方

二一、滋賀縣。本縣は近江全國を管す、四境は地勢高く、琵琶湖其の中にありて、其の沿岸は農産及び養蠶共に盛んなり。

琵琶湖は本邦第一の大湖なり、周圍六十里、湖畔の風景世に名高し、湖水は流れて瀬田川となり、又疏水によりて京都市に通じ、汽船は湖上を往來す。

比良山、三上比叡山、近江富士、近江國名の起因、近江八景。

信樂燒。
日野八幡
の近江商
人。



大津市及附近

大津市は縣廳の所在地なり、市街は琵琶湖の南西隅に臨み、其の位置京都市に近く、歩兵聯隊ここに衛戍す。北西に三井寺あり、比叡山の延暦寺と並稱して、天台宗の二本山とす。大津より官設鐵道の東海道線に沿ひ、瀬田川を渡り、北東に進み、草津を經、井伊氏の舊城下彦根に至る、彦根の北東なる米原は鐵道の分岐點にして、北陸線はこれより北方に進み、長濱縮緬を産する長濱を過ぎ、姉川を渡り、賤岳の東方を經、柳瀬の隧道を通じて、福井縣に入る。

二二、京都府。 本府は山城、丹波二國及び丹波の一部を

單に京と通
稱し、或は
西京とも稱
す。

祭神
稻荷倉魂
命外二神
北野菅原道
真。豐國
吉。梨木三條實
萬。

管す、山城の中部は平地なれども、其の他は山岳多く、丹波丹後は中國山脈の一部連亘し、丹波の東部及び山城の全部は淀川の流域に屬す。

京都市は府廳の所在地にして、我が國第三の都會なり。行政上上京、下京の二區に分れ、街路規則正しく、碁盤の目の如く、賀茂川の東部を流る。醫學校、帝室博物館、第三高等學校、京都帝國大學、京都高等工藝學校あり。

桓武天皇以來一千餘年間の帝都たりしが故に、京都御所今尚ほ存し、名所舊跡甚だ多く、稻荷神社、金閣寺、北野神社、東西兩本願寺最も名高く、豐國、梨木、護王、建勳の四神社、二條の離宮、泉涌寺の御陵等、市の内外にあり。

本市の近傍は風景に富み、日本の公園を以て目せられ、嵐

雄王和氣河
建勳織田信
長道四方に
鐵道又現に
通じ、又水
運湖の疏水
あり、水力
の利用少
からず。

近附及び市都京



12 11 10 0 8 7 0 5 4 3 2 1

- 京都御所
- 似木神社
- 京都帝國大學
- 京都府立博物館
- 東本願寺
- 西本願寺
- 二條御所
- 金閣寺

山の櫻花・高雄の紅葉等、遊覽の場所少からず。
本市は美術工藝の製産物に富み、絹織物の産額は本邦第一にして、西陣織・友禪染古より名あり、其の他清水焼・粟田焼・七寶焼・銅器・雜紅白粉等の物産あり。

伏見人形

刃山八幡宮
祭神應神天
皇外二神
黃山
平院

伏見は淀川によりて大阪へ汽船を通じ、古より京都に通ずる要點を占め、今は歩兵第十九旅團司令部の所在地たり。京都市の南西山崎は淀川を隔て、八幡と相對し、京都に入る咽喉を成す。宇治は宇治川の岸にあり、附近より宇治茶を出す、宇治川は淀の附近に於て桂川を合せ、淀川となり、



近附及び津宮

木津川を入る、其の近傍に巨椋池あり。木津川の流域に當り、奈良縣の境に近く、史上に名高き笠置山あり、其の播石は奇觀なり。
丹波の福知山は歩兵第二十旅團司令部の所在地にし



高し。

二三、奈良縣。 本縣は大和全國を管す、縣の北部は平地にして、大和川の流域に屬し、中部は吉野川、南部は十津川、北山川の河谷にして、山林甚だ多し。

て、鐵道は大阪市に通ず。丹後の舞鶴灣は良港にして、灣内二支に分れ、舞鶴の名邑は西支に、海軍鎮守府は東支にありて、軍港の所在地なり。宮津は開港場にして、古來丹後第一の都會と稱せらる、近傍の天橋立は日本三景の一なり、北西の峯山は、丹後縮緬を以て名

祭神武甕槌命

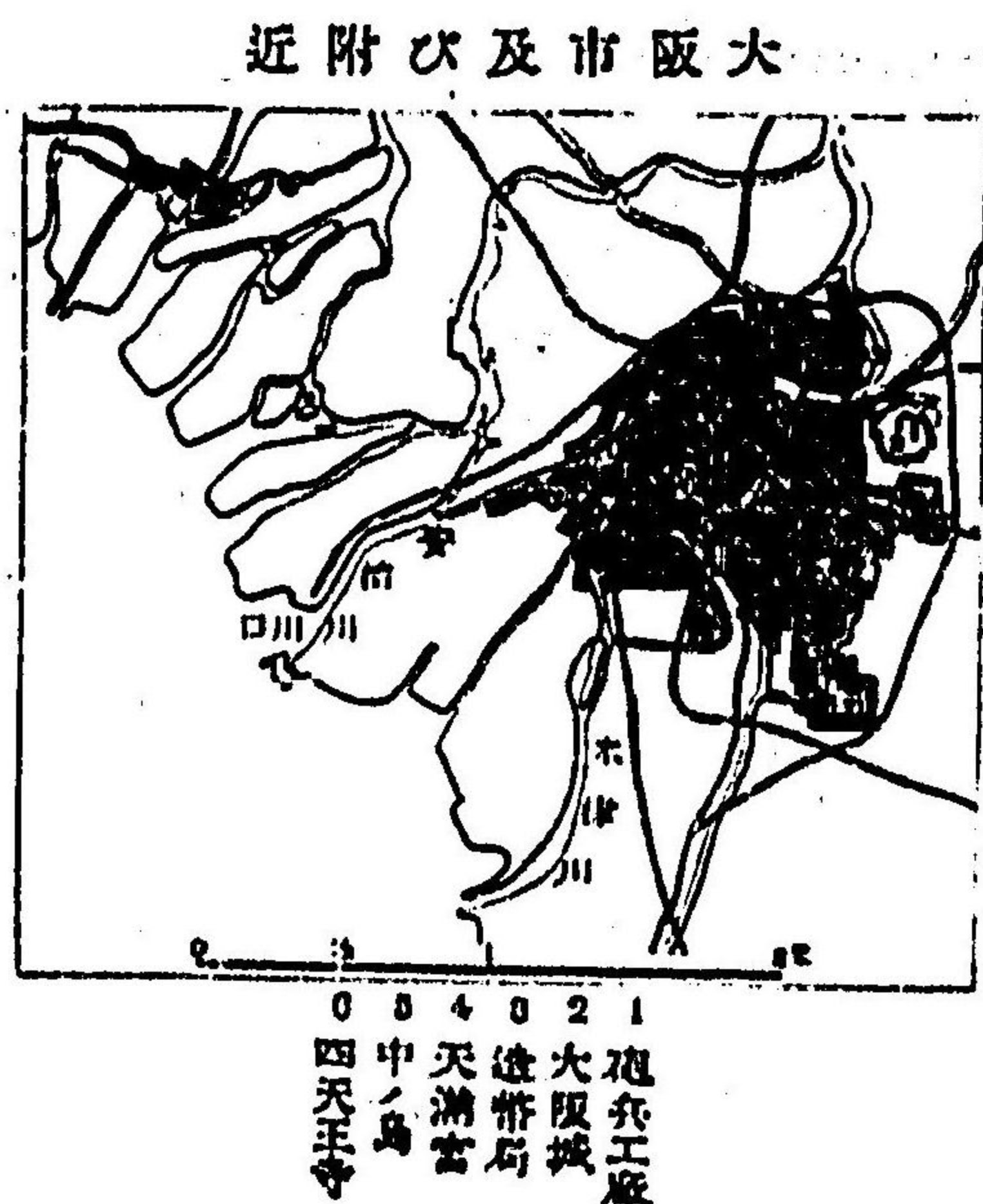
祭神藤原鎌足
吉野宮祭神
後醍醐天皇
吉野葛
吉野紙



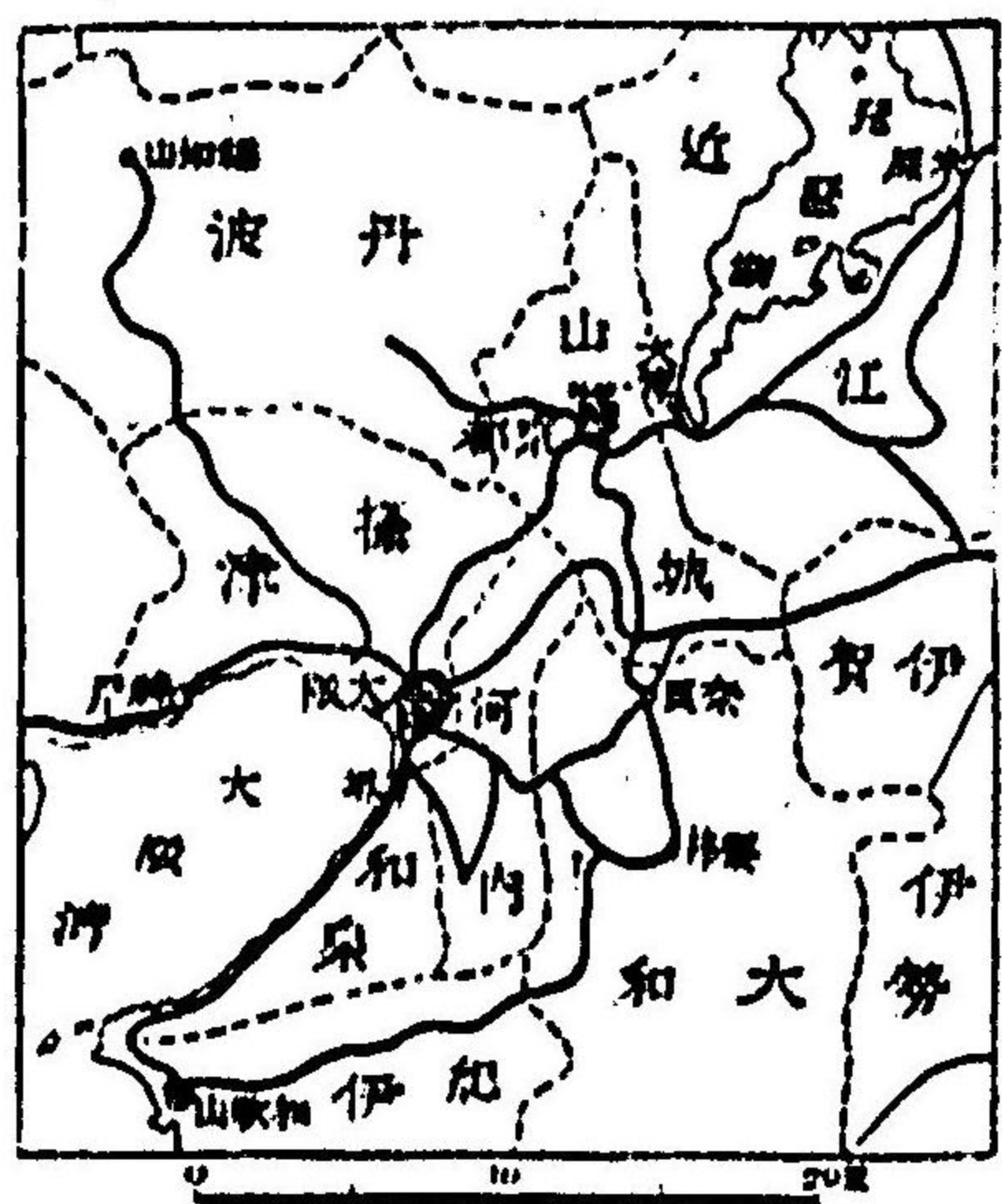
大佛

奈良市は縣廳の所在地なり、桓武天皇の遷都以前久しく帝都たりしを以て、舊跡頗ぶる多く、東大寺、正倉院、春日神社、帝室博物館あり、奈良晒、奈良漬、奈良人形、墨を名産とす。郡山は本縣第二の都會にして、南西法隆寺には同名の巨刹あり。畝傍には神武天皇の御陵、多武峯には談山神社あり。吉野は南朝皇居の址にして、一日千本の櫻、其の名は今尚ほ高く、月瀬の梅と共に花季遊覽の勝地たり。これより南部は地勢峻峻にして、山上、嶽、釋迦嶽等、其の中に聳ゆ。

二四、大阪府。 本府は和泉河内二國及び攝津の一部を管す、其の大部は平地にして、淀川大和川の流域に屬す。人口の稠密、鐵道の發達は他に比少く、綿、米、種等の農産甚だ豊かにして、道明寺、綿河、内木綿古より名あり。



大阪市は府廳の所在地にして、我が國第二の大都會なり、其の城は豊臣大將の築造に係り、今は第四師團司令部を置く。本市は近時、接續町村を合せしを以て、區域頗る廣大となり、方凡



近畿の鐵道網

そ二里半に達し、行政上東西南北の四區に分つ。街路は稍規則正しく、淀川は市中を分流し、堀割及び橋梁甚だ多し。我が國商業及び交通の一大中心たるが上、工業地として其の名最も高く、硫酸、綿織絲、マ、チ、セメントの製造甚だ盛んなり。又開港場の一にして、税關の設けあり。遊覽の場所多からざれども、四天王寺、生國魂神社あり、又醫學校、控訴院、砲兵工廠、造幣局、高等工業學校あり。大阪市の南方阿部野に阿部野神社あり。

堺市は大和川の南岸にあり、足利時代の開港場にして、今

祭神生島神足島神

祭神北畠親房順家

祭神楠木正行。

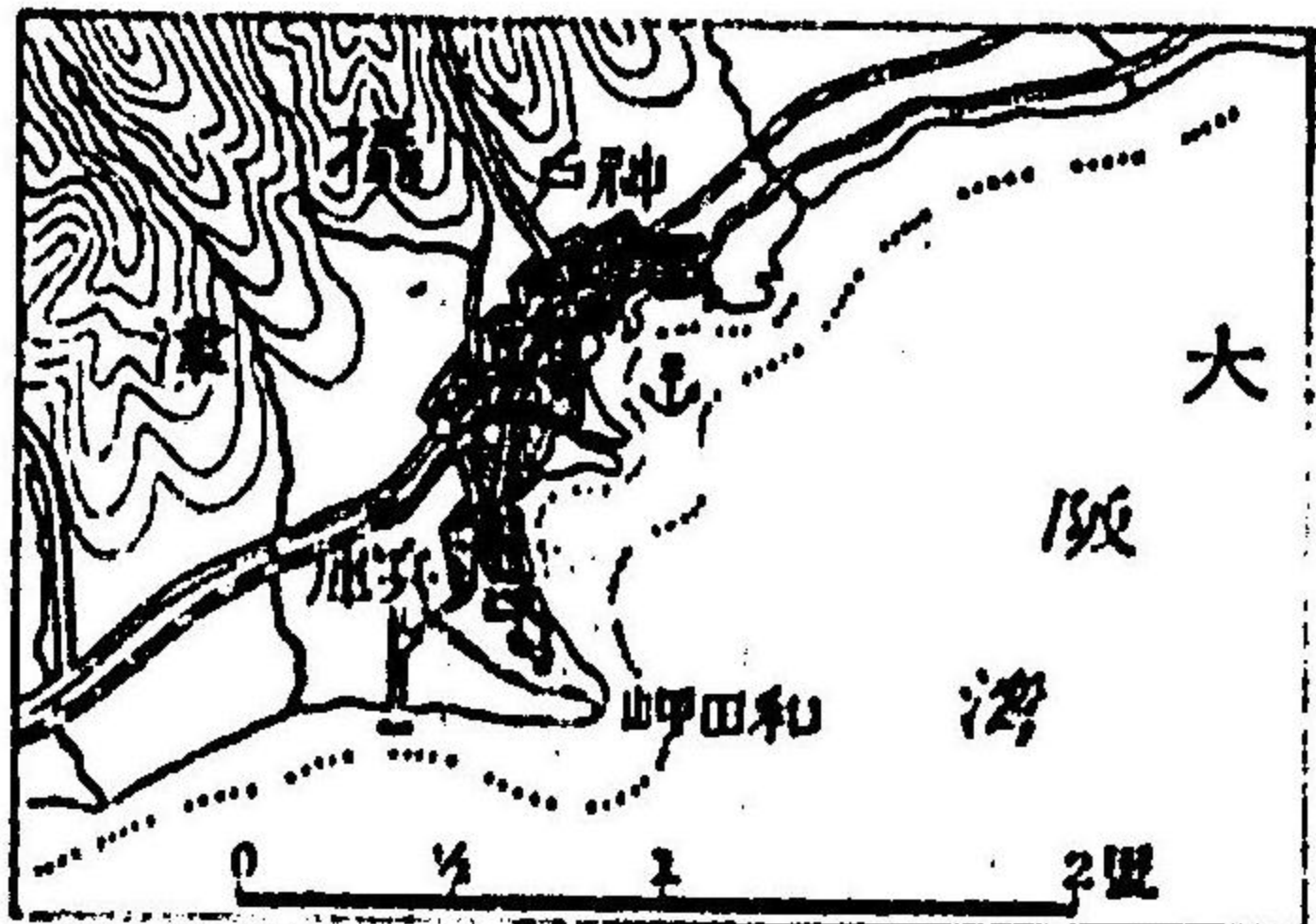
は酒・鐵器・段通の産あり。堺の東には仁徳天皇の御陵あり、其の規模の大我が國第一と稱せらる。櫻井・四條・吸・金剛山は楠氏の舊跡として、其の名夙に著はる。

二五、兵庫縣

本縣は攝津・丹波の各一部及び但馬・播磨・淡路三國を管し、一縣にて一畿三國五國に跨る。酒の産額

は本邦第一にして、製鹽も亦た香川・山口二縣に次ぐ。

神戸市は縣廳の所在地なり、大阪及び京都二市の咽喉にして、横濱市と共に開港場中の首位に居り、特に輸入額に於ては第一にして、税關の設けあり。本市は神戸及び兵庫の



近附び及港戸神

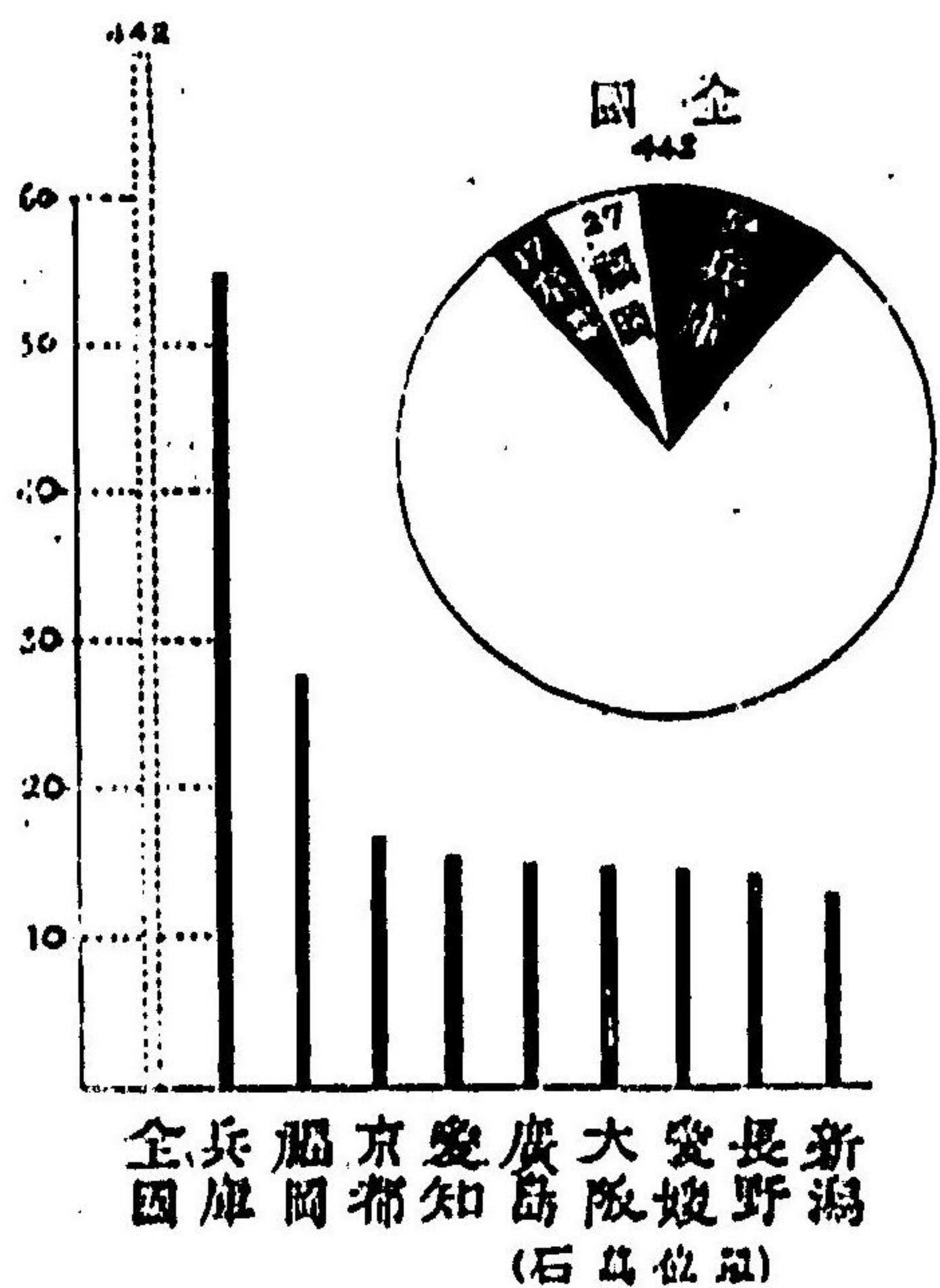
居留外國人の數は横濱

に次ぐ。

神戸牛。

祭神楠木正成

池田伊丹の産額は遠く灘に及ばず。



二部に分れ、造船及びマシンの工業盛大にして、中國地方の半は此の港より積み出すもの多し。又有名なる淡川神社は此の地にあり。神戸市より北

東方に有馬の温泉あり。東方海岸の地は通稱灘の名ありて、酒造最も盛んなり。神戸市より西方須磨・舞子及び明石に至る間、海濱一帯砂白く、松青く、前に淡路島を望み、名所頗ぶる多し。姫路市は第十師團司令部の所在地にして、姫路草及び高

砂染の産あり、龍野は醬油を産し、赤穂は義士の故事と製鹽の産とを以て名高し。但馬の生野は銀、山石は出石、燒鹽岡は柳行李を産し、玄武洞の奇景、城崎(湯島)の温泉は共に此の國の北部にあり。

淡路燒。

淡路島は本縣の南方にあり、其の北端は明石、瀬戸を挟みて、播磨の明石と相對す。東岸の由良は友島と山良海峡を挟みて、大阪灣の門戸を扼し、要塞の設けあり、洲本は山良の北西に位し、淡路第一の都會なり、南西岸の福良は鳴門海峡を挟みて、阿波の撫養と相對す。

第二節 和歌山縣

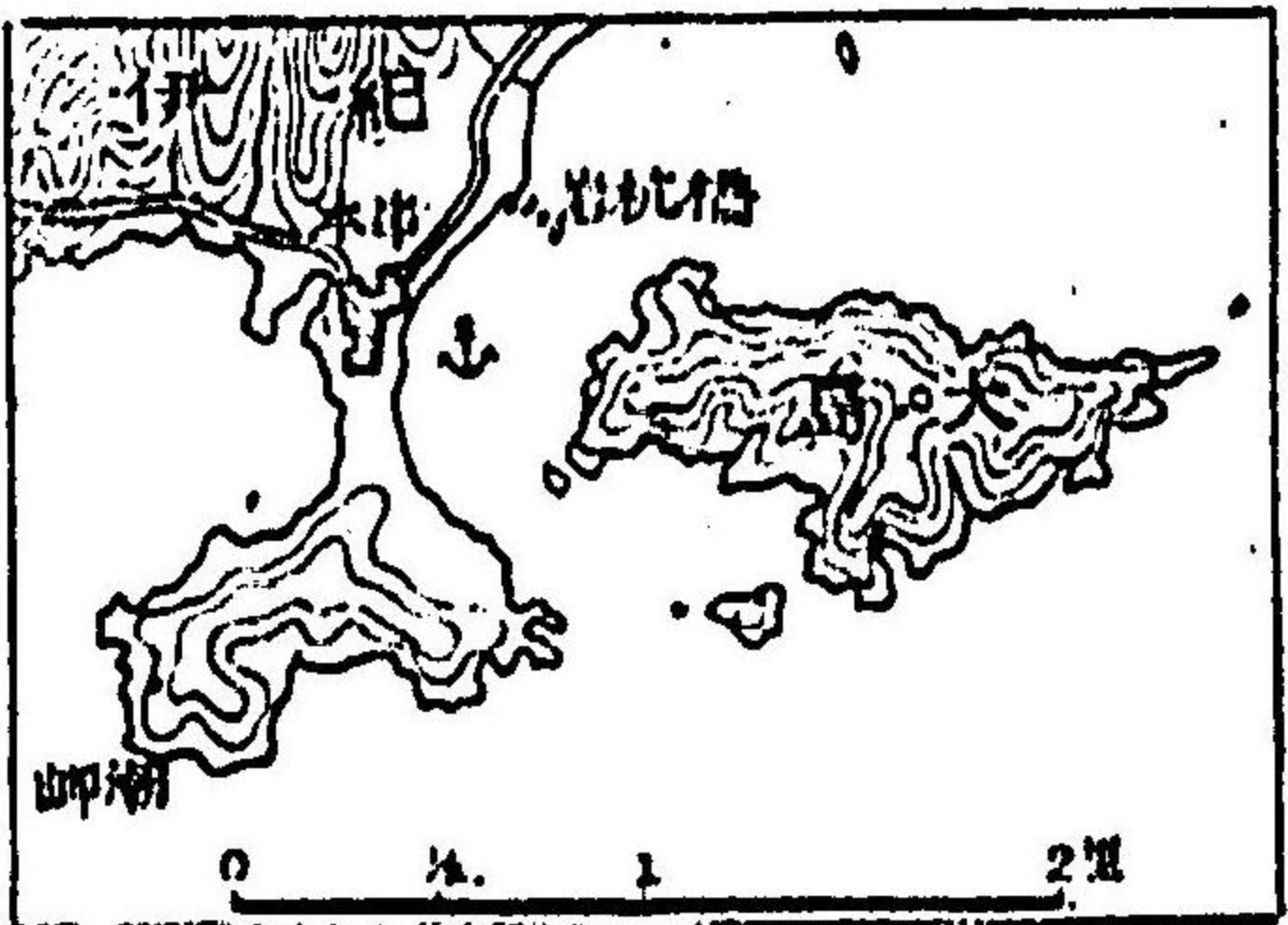
紀伊川の河

二六、和歌山縣。本縣は紀伊の大部を管す、山岳多く、海岸屈曲に富む。林産は他に比類少く、水産も亦た豊かなり。

谷は奈良縣に入るの要路を成し、熊野川の河谷には材木の運送盛んなり。根來塗。

紀州蜜柑。

和歌山市は縣廳の所在地なり、市街は紀伊川に沿ひ、紀州家の舊城下にして、綿、フランネルを産す。近傍の和歌浦は日本三景に亞げる勝地なり。紀伊川の河谷には根來及び粉河あり、共に有名なる大寺あり。高野山の金剛峯寺は弘法大師の開基にして、附近の山林は其の名世に著し。



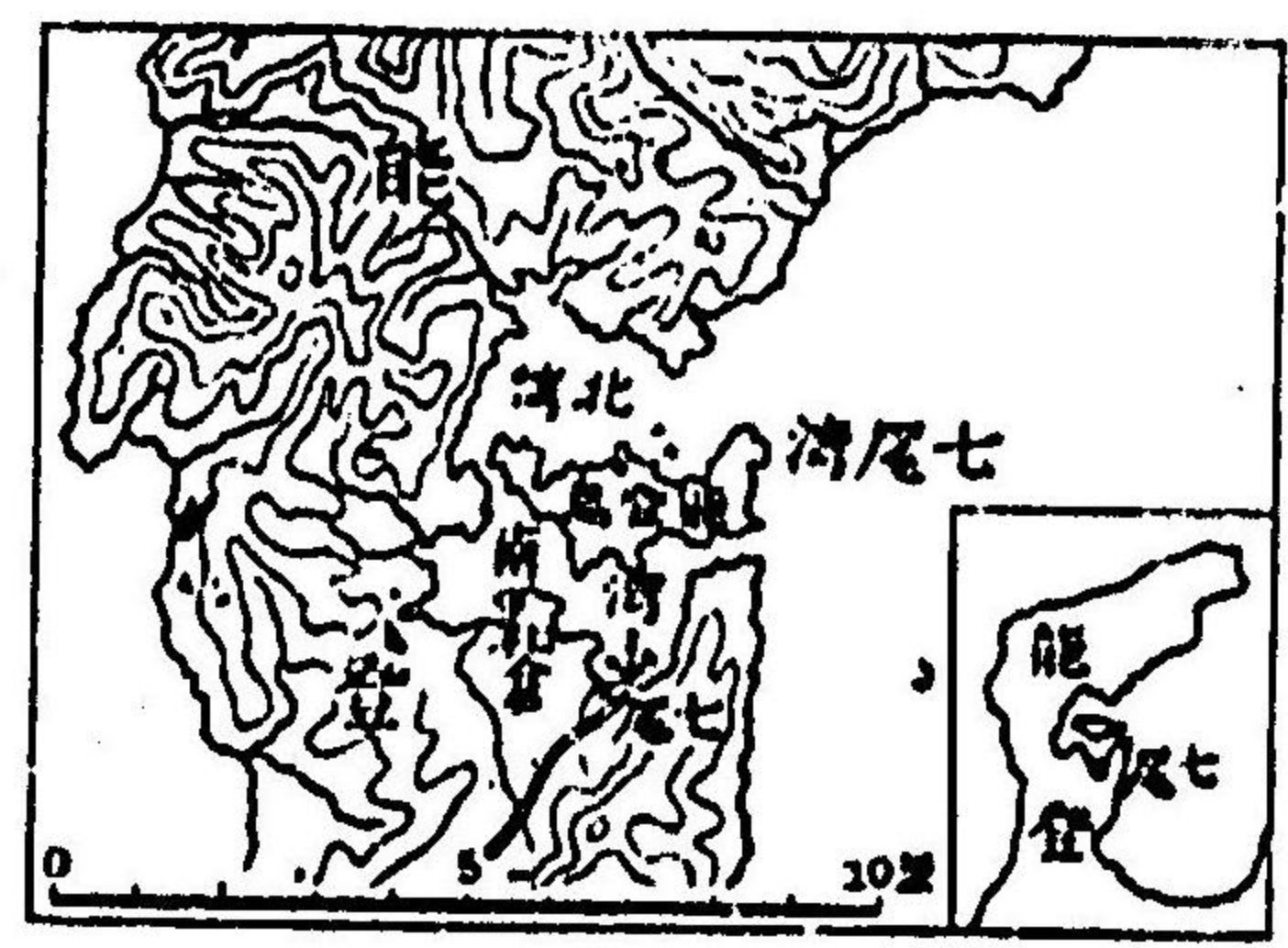
川本港及附近

和歌山市の南方黒江は黒江塗を産し、有田川の流域は多く蜜柑を出す。日高川を渡り、田邊の名邑を経て、南東に進み、本縣の南端に達すれば、大島東に横はり、潮岬南に出て、串本港を抱く。新宮は三重縣との境に近く、熊野川其の東を流れ、那智山其の西方に聳

九谷焼。

校第九師團司令部あり。陶器・絹布・銅器を名産とす。北西に金石港あり。小松は加賀絹の産地にして、大聖寺の名邑

はこれより南西にあり、温泉に名高き山代及び山中はこれより遠からず。



二湾に分れ、其の南湾は開港場なり、利倉の温泉は七尾の北西に當る。輪島の名邑、總持寺の巨刹は共に此の國にあり。

二九、富山縣。

本縣は越中全國を管す、南部及び東部は

越中米。

高山相聳え、立山最も著はる。北部は一帶の平原にして、米の産額多し。河川は皆北流して、富山灣に入る、其の勢甚だ急にして、上流の深谷には奇橋多し。



庄川の釣橋

富山市は縣廳の所在地なり、市街は神通川に跨り、現今官設鐵道北陸線の終點に位す、此の地は賣薬を以て有名にして、全國到る所に行商す。

高岡市は本縣第二の都會にして、銅器及び漆器を名産とす。伏木は射水川の河口に位し、開港場にして、越中米の積出盛んなり。

黒部川分流
區域の幅は
五里に餘
る。

射水川は庄川及び小矢部川の合流によりて成る、庄川の上流五箇山中には天柱石及び釣橋の奇觀あり。
富山市より北東魚津を経て、黒部川の諸分流を渡り、尙ほ東方に進めば新潟縣に入る。

第四節 中國地方

三〇岡山縣。本縣は美作備前備中三國を管す、砂鐵製鹽、綿織絲及び蘭席の産に富み、又烟草及び葉藍を出す。

岡山市は縣廳の所在地なり、池田氏の舊城下にして、綿織絲及び華蓼産を産し、後樂園第六高等學校醫學



岡山及び附近

伊部燒石、三ツ石、蠟石、燐石。



後樂園

專門學校あり。旭川(西大川)は本市を貫流して兒島灣に入る、河口に三番港あり。兒島半島は製鹽盛んにして、藤戸渡の遺跡は其の地峽部にあり。

岡山市より東方に進み、伊部、三石を経て、舟阪山の隧道を過ぐれば、兵庫縣に入る。

美作の津山は吉井川(東大川)の上流に位し、雲齋織及び足袋の産あり。津山の西院、庄を経て、北西に進めば、鳥取縣に入る。

倉敷及び高梁は共に備中の名邑なり、倉敷の北東方に、高

松城の舊址あり、倉敷の西方玉島は四國の多度津と郵便船を通ず、これより西方笠岡を過ぐれば、廣島縣に入る。

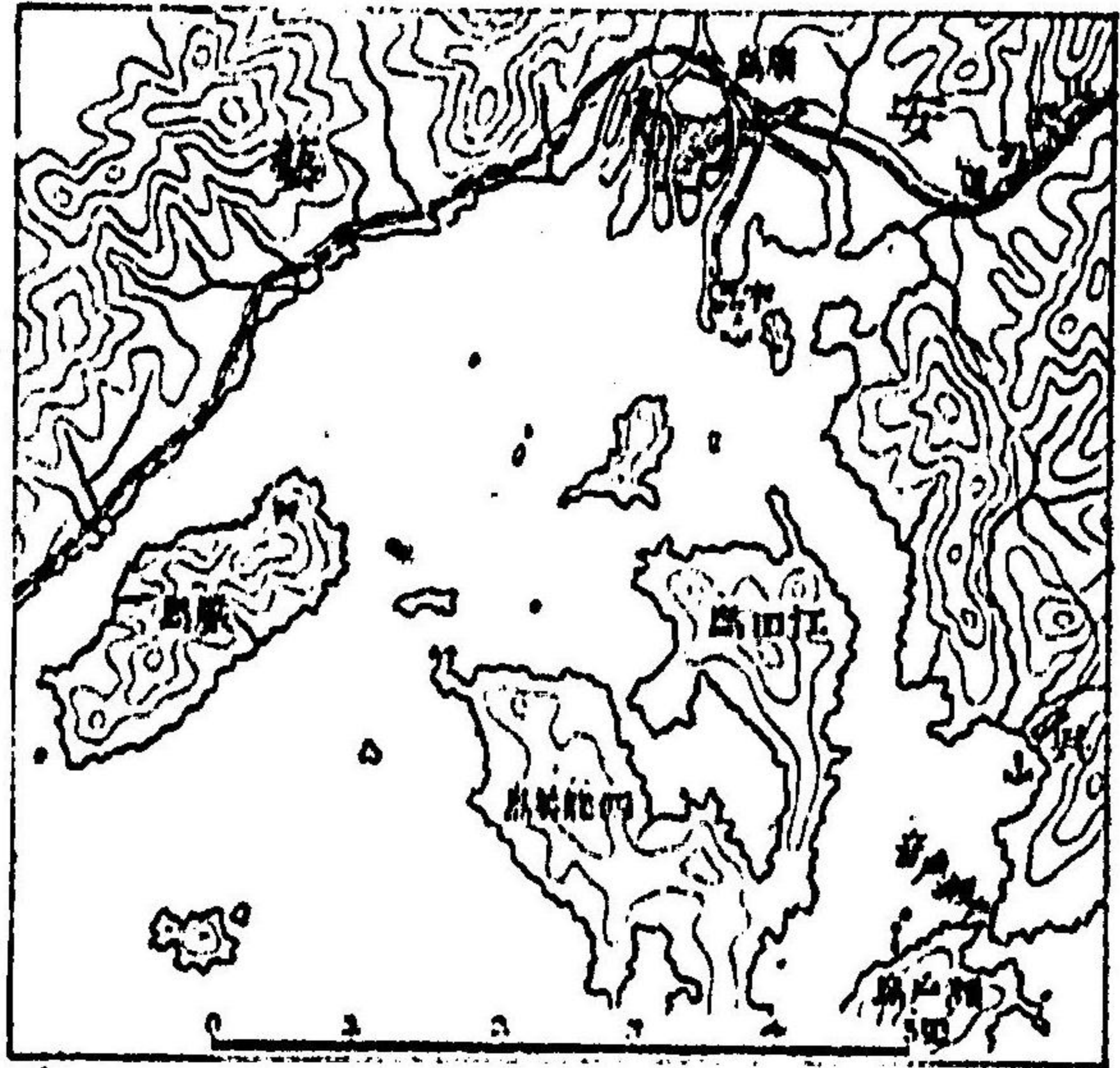
備後表。

三一、廣島縣

本縣は安藝備後二國を管す、砂鐵製鹽盛

表の産に富み、又麻織物の業盛んなり。

廣島市は縣廳の所在地にして、市街は太田川に跨り、淺野氏の舊城下にして、中國第一の都會なり。控訴院廣島高等師範學校第五師團司令部あり、明治二十七八年戦役の後、一層の



飲料水は、川水道による。

繁盛を見る。宇品は本市に對する港なり。もと島ありしが、築堤により本陸と連接し、以て良港を成せしものなり。

吳市は軍港の所在地にして、海軍鎮守府及び造船廠の設けあり、前面の江田島には海軍兵學校あり。江田島の東なる瀬戸島は、狭き音戸瀬戸によりて、本陸と隔つ。忠海は伊豫の諸島を挟みて四國に對し、要塞の設けあり。

嚴島は日本三景の一にして、有名



通稱宮島祭神市杵島姫命

なる神社あり。社殿は岸に倚り、水に架し、滿潮には海米廻廊を没す。此の地は又竹細工の名産と、毛利氏の義戦とを

以て聞ゆ。

廣島市より北東に進み、吉田の名邑を過ぐれば、備後國三次に至る。此の地は山間の小都會にして、諸川こゝに合し、江川となり、石見に入る、舟運の利大なり。

備後の三原附近は、製鹽業烟草の産に富み、絲崎(松濱)は開港場にして、船舶の碇泊に適し、尾道市は小汽船の出入多く、松永は製鹽盛んにして、柄は保命酒の産あり、福山の名邑はこれより北方に當る。

三三、山口縣。本縣は周防長門二國を管す、沿岸の平地は農産に富み、防長米の名世に高く、水産も亦た盛んにして、製鹽の額甚だ多し。

山口は縣廳の所在地にして、縣の峯ほ中央にあり、一時毛

祭神毛利元就

下關一名馬關。二十七八年戰役馬關條



錦帶橋

利氏の舊城下にして、豐榮神社山口高等學校及び歩兵第二十一旅團司令部あり。三田尻、徳山、柳井、津岩國は周防の名邑にして、三田尻附近の鹽田、徳山の良港、何れも名高く、柳井津の柳井縞、甘露醬油、岩國の縮及び半紙は共に地方の特産なり。岩國の錦帶橋は我が國奇橋の一に數へらる。

長門の南部は石炭を産し、小野田にセメントの工場あり。山陽鐵道は長府の東端より山間に入り、北方より下關市に達す。此の地は九州の門司市と相對して、早瀬瀨戸を挟み、

約の締結地。

赤間宮祭神
安徳天皇。



近附び及峽海關下

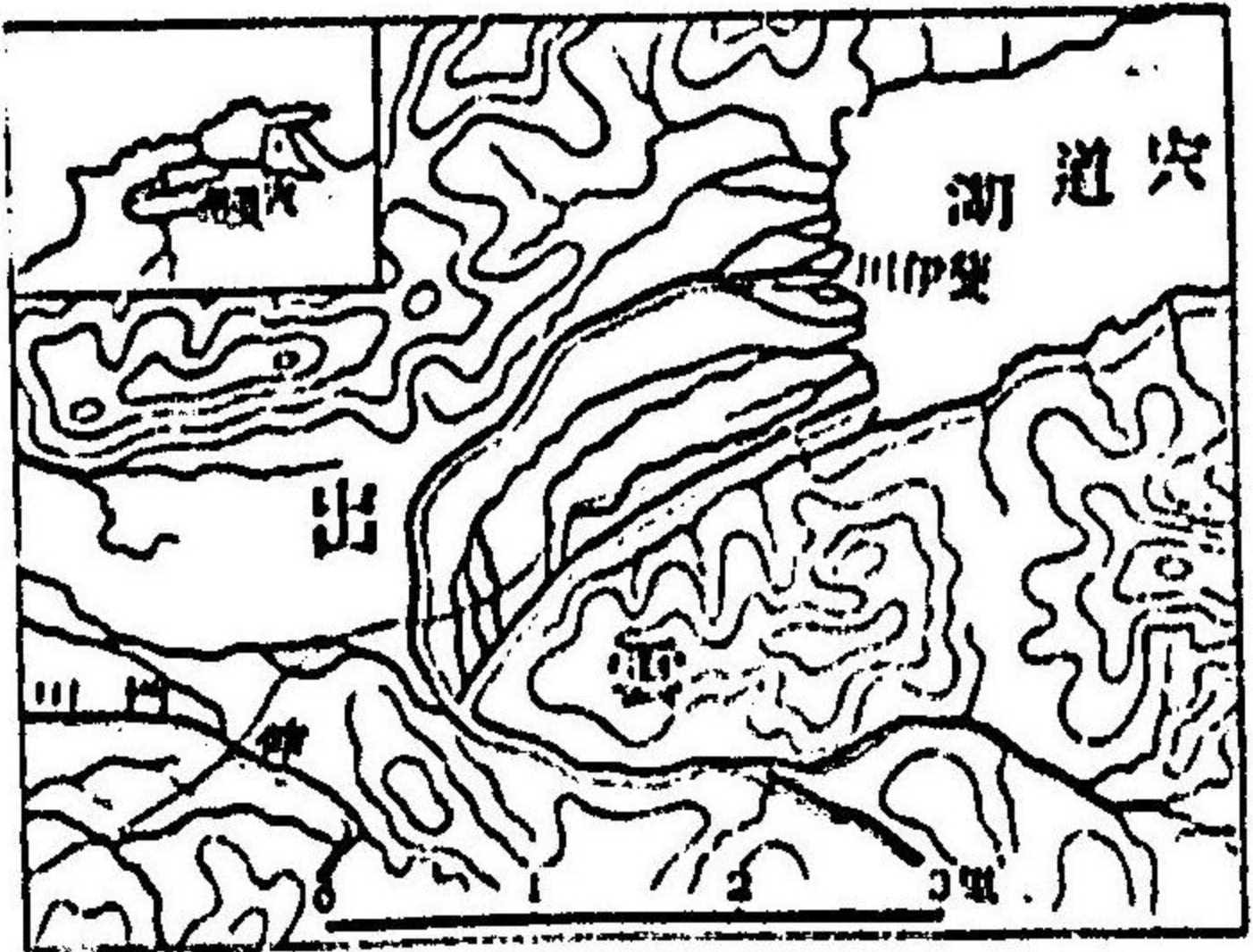
名産とす、萩の西方仙崎は良好なる碇泊地にして、住民遠く
韓國に出漁す、

三三、島根縣。 本縣は出雲石見隱岐三國を管す、北部に
は中海、宍道湖ありて水利多く、瀨川の流域は農産に富み、砂

瀬戸内海の咽喉にして、要塞の設
けあり。 南西の彦島は海峡を大
瀬戸及び小瀬戸の二つに分つ。
本港は開港場にして、税及び刻烟
草の産あり。 市の東壇浦は源平
の古戰場なり。
山口の北方萩は久しく毛利氏
の舊城下たりき、萩焼及び夏橙を

斐伊川の
源船通の
神代歴史
に名あり。

祭神大國主
命。



洲角三の川伊斐

鐵を出す。 斐伊川は宍道湖頭に巨
大なる三角洲を作り、且つ年々湖底
を埋没す。
松江市は縣廳の所在地なり、市街
は宍道湖の東岸に位し、遙かに伯耆
の大山を望む、附近に出雲焼及び瑪
瑙の産あり。

杵築は出雲米の産地なる平原の北西隅に位し、有名なる
出雲大社あり、南方神門川の沿岸には立久恵の奇景を見る。
石見の大森はもと銀山を以て名高く、東方の三瓶山は、頂
上の舊噴火口に鳥の地獄を存す。 大森より中國第一の江
川を渡れば濱田あり、開港場にして、歩兵聯隊こゝに衛戍す。

隱岐島。



山 雲 火 社

津和野は石見の名邑にして、山口縣に通ずる要點なり。

隱岐群島は島前島後の二つに分る、島後には後醍醐天皇の舊跡を存し、其の西郷は良港の名あり。島前は巴形を成せる三島より成り、後鳥羽天皇の舊跡あり。隱岐群島は本陸と海底電線を通ず。

三四、鳥取縣。

本縣は因幡伯耆二國を管す、牧畜及び砂鐵の産に富み、又海松及び白珊瑚を特産とす。

鳥取市は縣廳の所在地にして、市街は賀露川に沿ふ。池田氏の舊城下にして、歩兵聯隊こゝに衛戍す。賀露港は同

名和神社は
船上山より
北西に當る
祭神名和長
年。



境 港

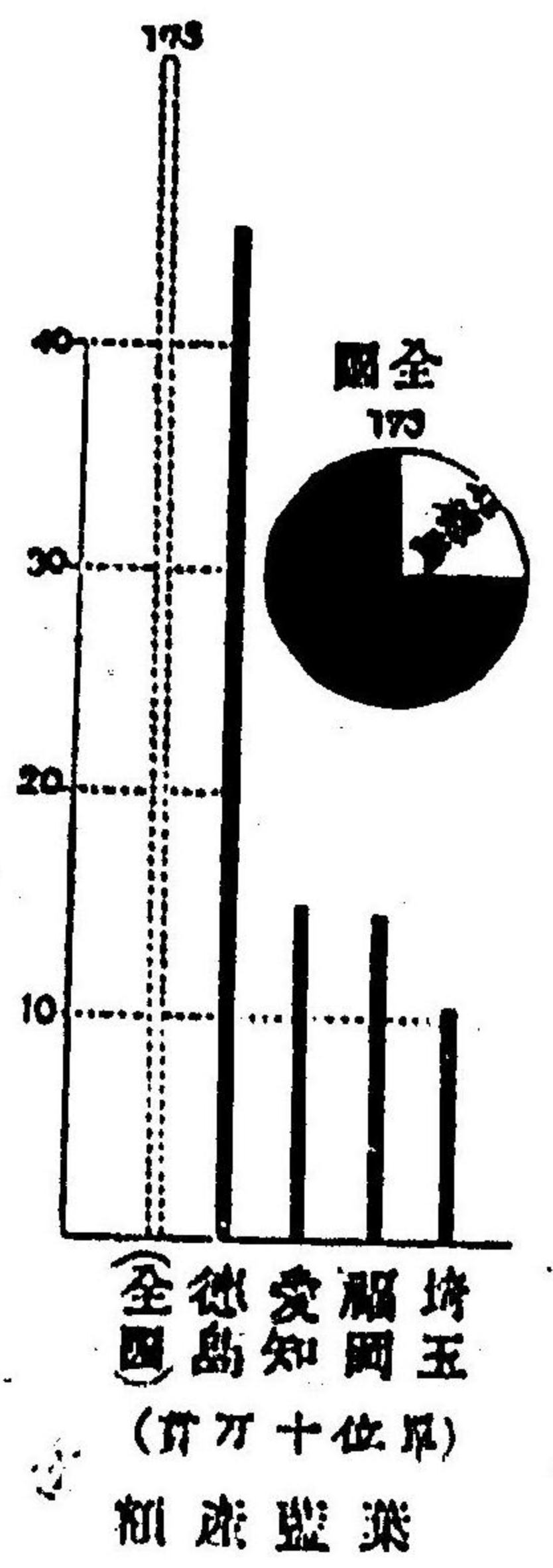
河の河口に、倉吉は天神川の河岸にあり、倉吉は飛白を産す。

大山は中國第一の高山にして、麓の裾野は牧畜の業盛かなり、大山の北東に船上山あり、名和氏の故事を以て聞ゆ。米子は夜見濱の脚部、境は其の北端にあり。境は開港場なれども、其の港は良好ならず。

第三章 四國

高橋。
四國三郎。

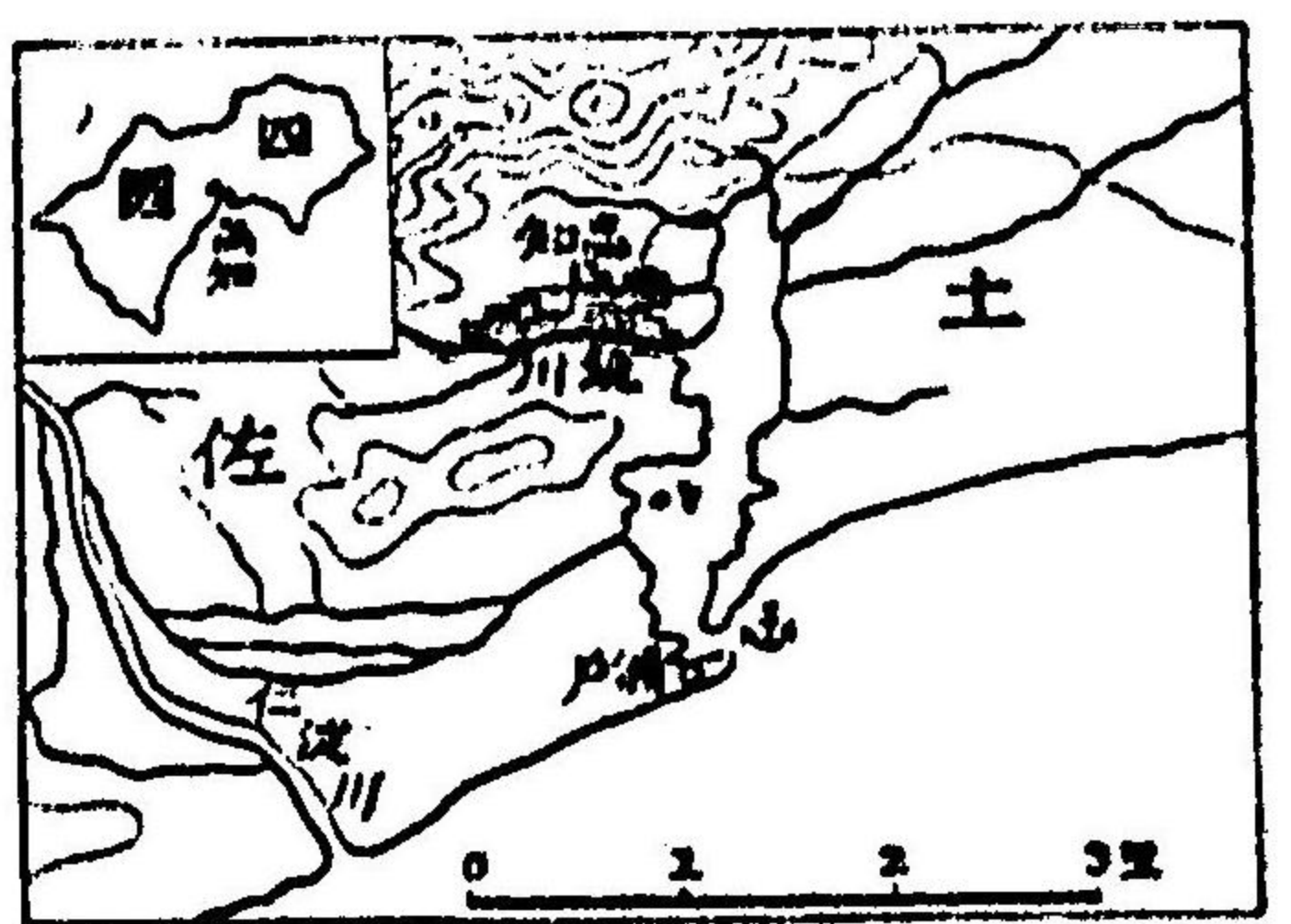
三五、徳島縣。 本縣は阿波全國を管す、四國山脈東西に連り、劔山の高峯其の中に聳え、祖谷の幽谷其の間にあり。葉藍の産額我が國第一にして、製鹽葉烟草の産も亦た多し。徳島市は縣廳の所在地なり。市街は吉野川の分流に跨り、蜂須賀氏の舊城下にして、四國第一の都會なり。鐵道は吉野川に沿ひて、西方に延ぶ、池田・貞光・脇町は沿岸の名邑にして、附近は葉藍及び葉烟草の産に富む。



齋川嶺。

土佐珊瑚。
土佐節紙。

高知市四近
は米一年二
回の收穫を
見る。

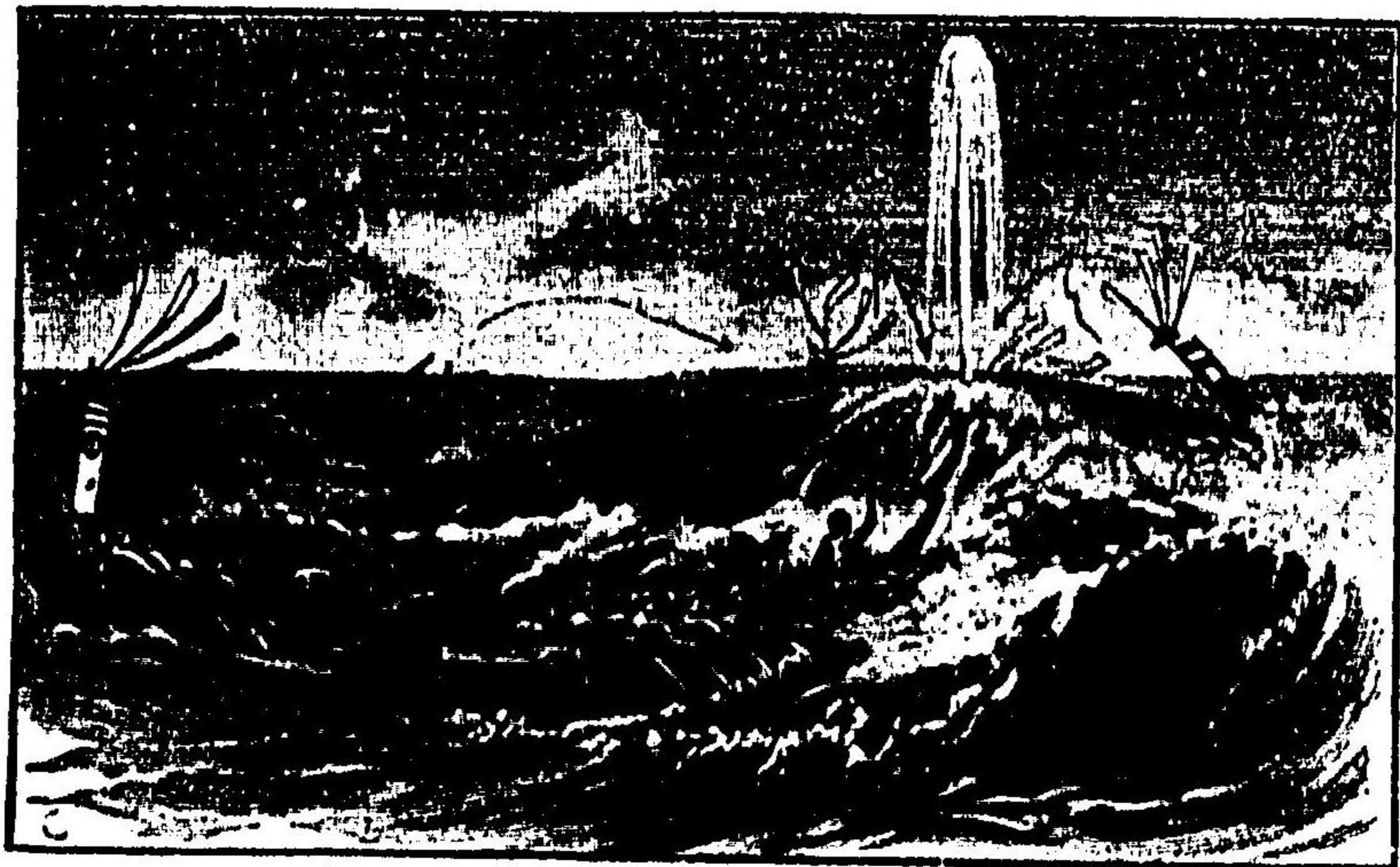


高知市及び附近

撫養は鳴門海峡を隔て、淡路に對し、製鹽甚だ盛んなり。鳴門海峡は潮流の急なること、我が國第一にして、海水渦を巻き、水聲烈しく鳴る。然れども潮時を擇ぶときは、通航に難からず、今要塞の設けあり。

本縣の海岸は出入に富み、蒲生田岬最も突出して、四國の東端を成す。

三六、高知縣。 本縣は土佐全國を管す、地勢多くは峻峻にして、米産多からず。然れども鱈及び鯨の捕獲多く、和紙の産大なり。高知市は縣廳の所在地なり、山内氏の舊城下にして、歩兵聯隊こゝに衛戍



(式 舊) 鯨 捕

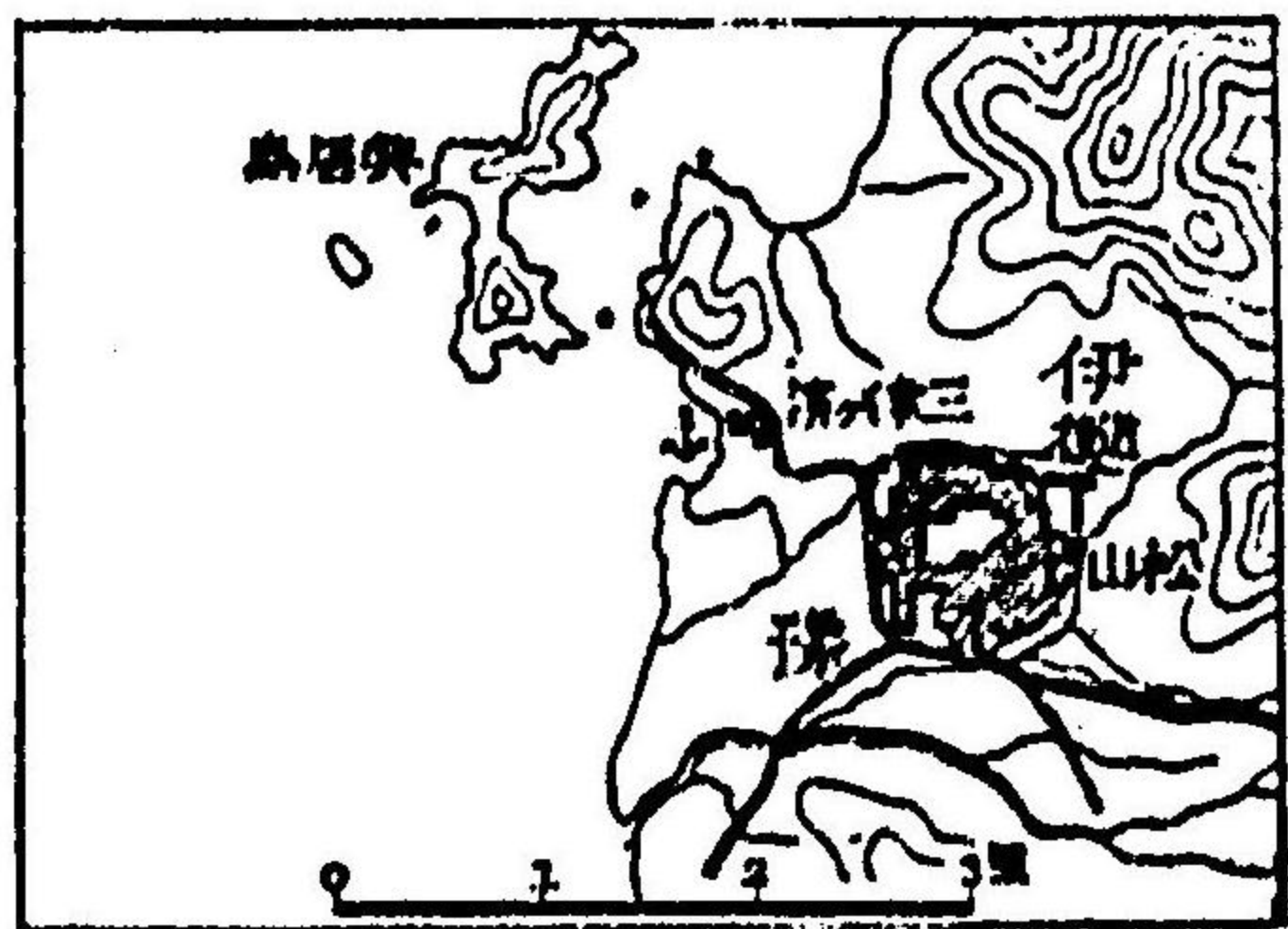
す。市街は鏡川を帯び、南に浦戸港を控ゆ、港口甚だ浅く、港内頗ぶる狭し。高知市より西方に進み、仁淀川を渡れば、須崎の良港あり。尙南方に進み、四萬十川を渡れば、足摺岬に達す、これを四國の南端とす。これより北西方に宿毛の名邑あり。高知市より東方に安藝の名邑あり、附近には土御

門天皇の舊跡ありと云ふ、尙ほ南東に進めば、室戸岬に至りて盡く。

三七、愛媛縣。

本縣は伊豫全國を管す、北西部は高嶼に富み、南西岸は出入多し。食鹽、銅、アンチモニー、木蠟、伊豫飛白、伊豫簾、砥部焼は本縣の主産物なり。

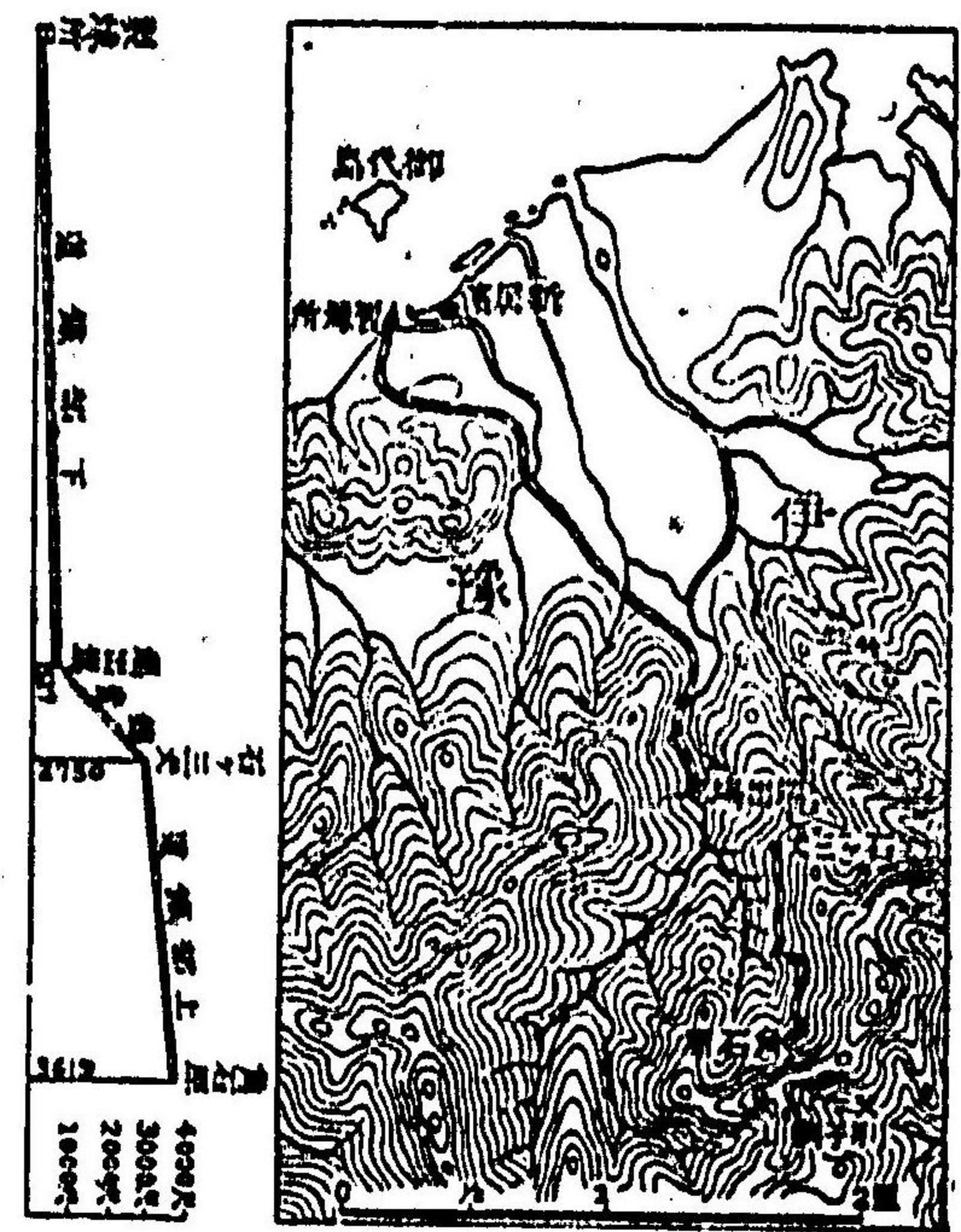
松山市四近
は短距離の
鐵道線路多
し。
通稱三津。
伊豫富士。



松山市及附近

松山市は縣廳の所在地なり、歩兵第十旅團司令部の所在地にして、附近に道後の温泉あり。三津濱港は本市に近く、興居島其の北西に當る。松山市より南西に進み、肱川を渡り、佐田岬の頸部に近き八幡濱を過ぐれば、遂に宇和島に至る、此の地は本縣第二の都會

にして、其の港は好錨地なり。
 高繩半島は北に突出して大隅鼻に盡き、來島海峡は潮流急にして、舟行危険なり。海峡の西側にある波止濱は製鹽盛んにして、南東の今治は本縣東部の名邑なり。



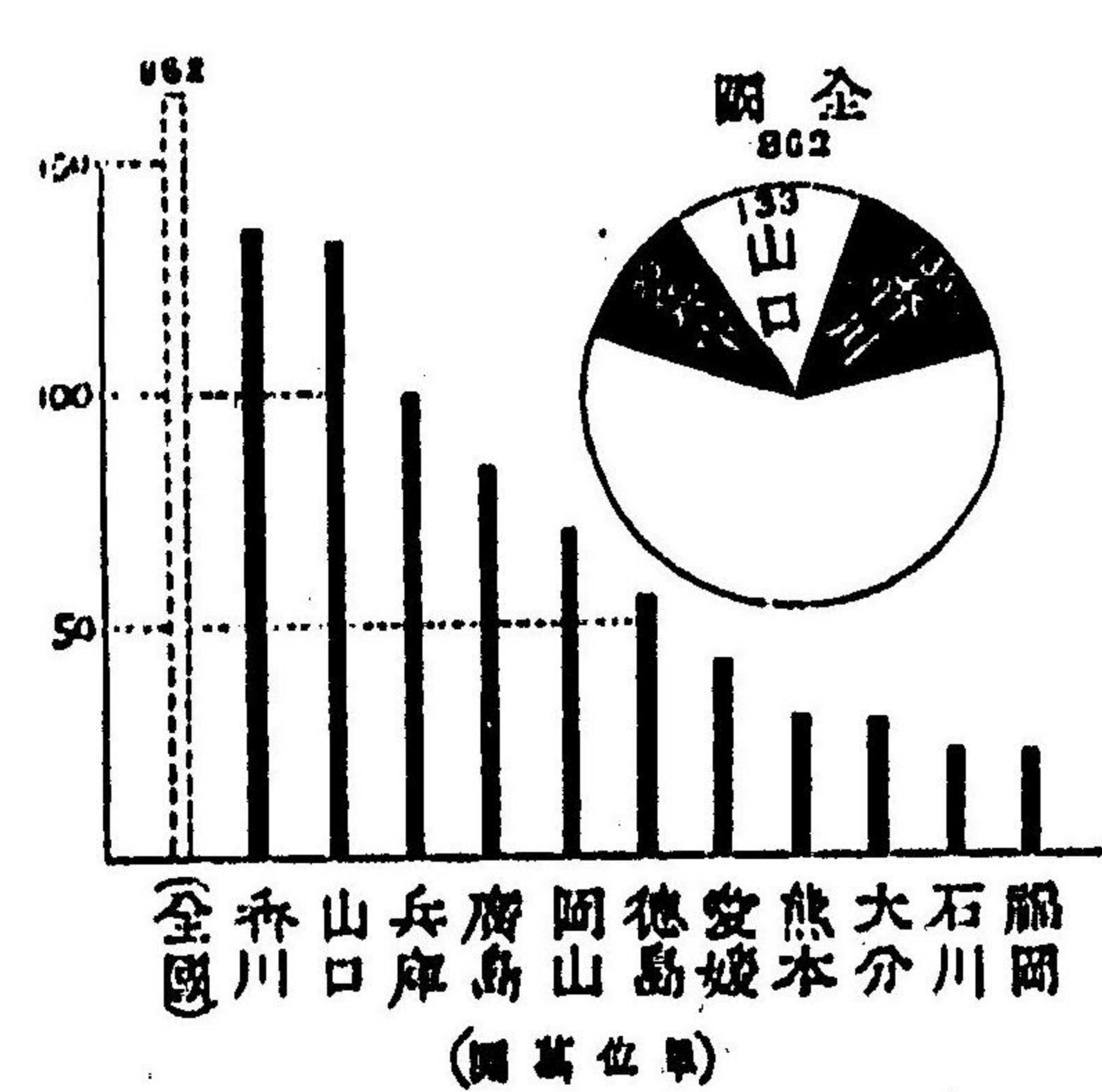
近附及び子別

市川のアンチモ
 ニは産額世界第一にして、別子の銅は産額我が國第二に居る、新居濱の製煉所は北方の海岸にあり、別子との間鐵道を通ず。此の

鐵道は上下の二部に分れ、中間は鐵索によりて、鑛石及び貨物を運搬す。石植山は四國第一の高峯にして、別子より南西方に當る。

三八、香川縣。

本縣は讃岐全國を管す、面積最も小なれども、人口頗ぶる密なり。河



製糖の産は世に名高し。
 高松市は縣廳の所在地にして、保多織文綺塗を産す、北

東の屋島は今半島と成れり。
 白峯は製鹽盛んにして、白峯

には崇徳天皇の舊跡あり。

丸龜市は歩兵聯隊の衛戍地にして、南方に聳ゆる飯野山は、讃岐富士の別稱あり。多度津は備中の玉島へ日々郵便船を通じ、四國と本州とを連絡す。普通寺は第十一師團司令部の所在地にして、琴平は象頭山の麓に位し、其の金刀比羅宮は我が國船員の崇敬厚く、水難救済會の本部は此の地にあり。多度津の西方粟島は良好なる錨地を有し、大船の碇泊に適す。飄仙諸島はこれより北東に列り、三崎は北西に突出し、附近は潮流の會合點を成す。五剣山は屋島の東方にあり、もと五峯聳立せしが、今は其の一峯を欠く、小豆島は其の北東にあり、醤油の産と神懸の景とを以て名高し。

弘法大師の誕生地なりと云ふ。祭神大物主命崇徳天皇

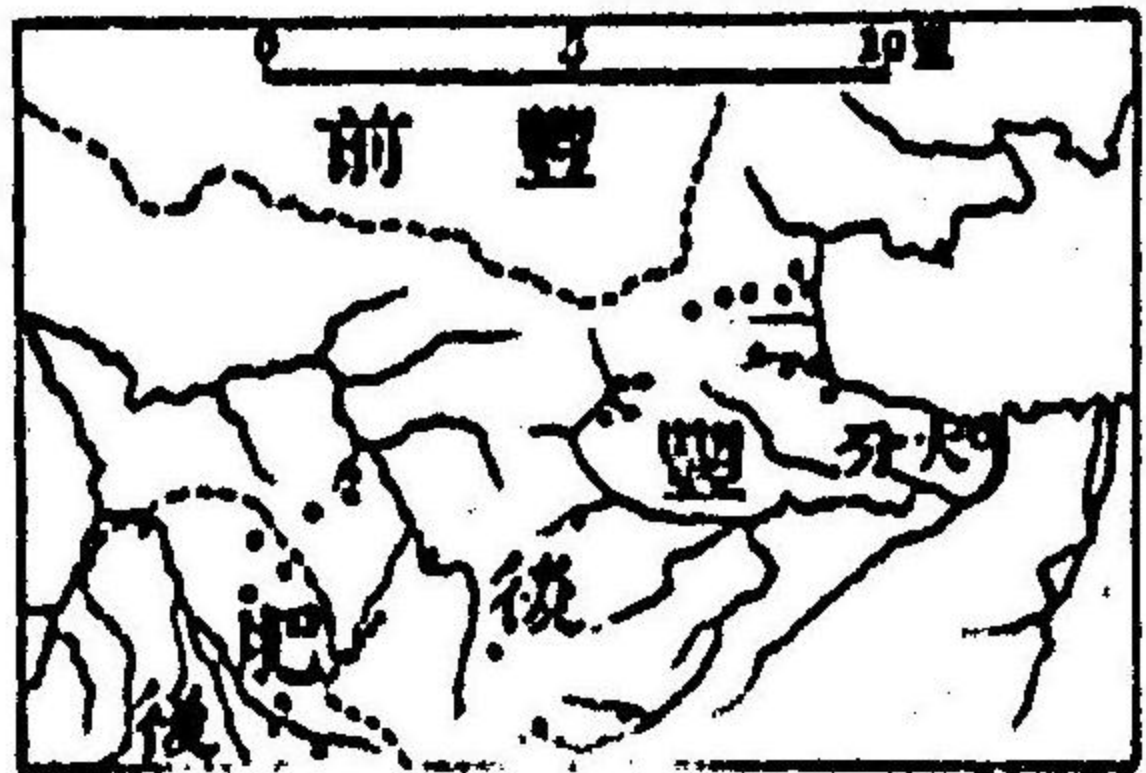
第四章 九州

三九、大分縣

本縣は豊後全國及び豊前の一部を管し、阿蘇火山脈の通過する所にして、温泉甚だ多し。

豊後富士。

大分は縣廳の所在地にして、別府灣に臨む、北西に別府の温泉あり、由布嶽はこれより北西に聳ゆ。縣の南西には九重山あり、殺生石及び寒地獄の奇觀を以て知らる。竹田は大野川の上流にあり、地勢水力の利用に便なり。佐賀關の東端地藏崎は愛媛縣の佐田岬と相對して、豊後水道を挟む、これより南方の海岸は出入多く、臼杵、佐伯の名邑は其の間にあ



大分縣分の泉布

祭神應神天皇外二神。

り。大分より北方國東半島の頸部を過ぎ、豊前の宇佐に至れば、宇佐神宮こゝにあり、和氣清麿公の故事を以て聞ゆ。其の北方長洲は豊前米の積出盛んにして、北西方中津は山國川の河口に位し、豊前第一の都會なり。山國川の上流は耶馬溪を以て世に知られ、其の水源を豊筑の境なる英彦山に發す。

四〇 宮崎縣。本縣は日向全國を管す、面積大なれども、人口少く、未墾の原野多く、農産尙ほ少し。銅鐵の産多く、又樟腦、木材等の林産に富む。

宮崎は縣廳の所在地にして、大淀川に沿ふ、近傍に宮崎宮あり。佐土原、高鍋、突々津、細島、延岡は北部の名邑、𧄞肥、油津、都・城は南部の名邑なり。延岡は五箇瀬川の河口に位し、都

祭神神武天皇

大抵火口湖を成す。

山野鹿片、野鹿能金山、薩摩節。



霧島山御鉢火口

城は霧島山の南東にあり、都井崎は縣の南端にして、有明浦の東方に突出す。

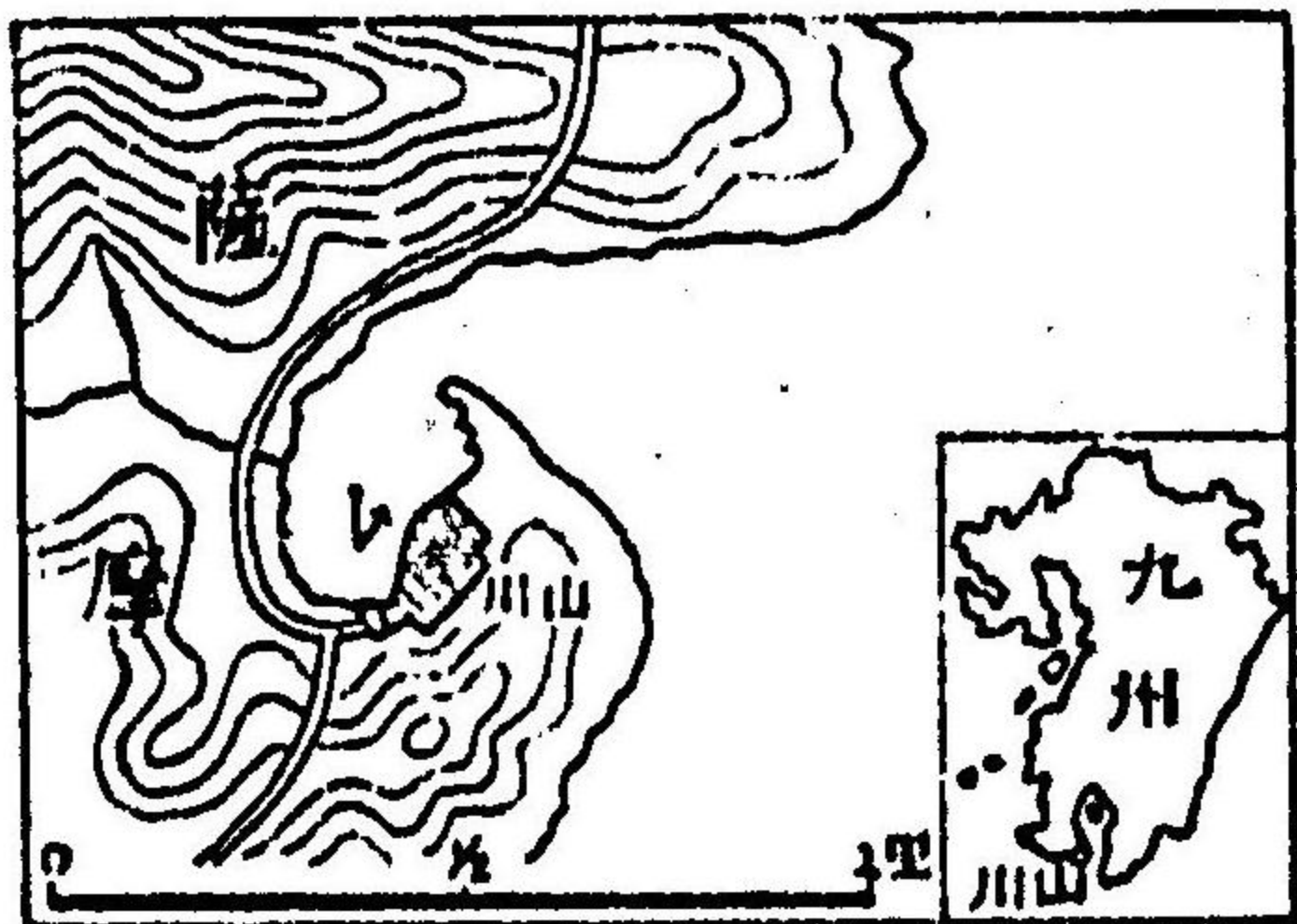
霧島山は霧島火山脈中の最大なるものにして、其の區域宮崎鹿兒島二縣に跨り、數多の群峰其の中に聳立し、自から東霧島山及び西霧島山の二群山に分る。東霧島山の最高峯は高千穂峯にして、附近の御鉢は盛んに硫燼を噴出す、其の他御鉢火口の跡頗ぶる多し。

四一 鹿兒島縣。本縣は大隅薩摩二國を管し、屬島の面積甚だ大なり。甘蔗及び金の産額は本邦第一にして、水産も亦た甚だ多し。霧島火山脈の通過する所なれば、温泉少

からず。

鹿兒島市は縣廳の所在地にして、鹿兒島灣の西岸に位す。市街は甲突川に跨り、背に城山を負ひ、前に櫻島を控ふ。島津氏の舊城下にして、歩兵聯隊こゝに衛戍し、照國神社第七高等學校造士館あり、飛白錫器、果物の産に富み、近傍より薩摩焼を出す。加治木は大隅第一の都會にして、國分は國分烟草の産地なり。官設鐵道は鹿兒島よりこれ等の諸邑を経て、漸次熊本縣に連接せんとす。鹿兒島市の南方谿山附近は錫と軍馬とを産し、山川港と池田湖とは噴火口の跡なり。薩摩富士の稱ある開聞嶽は佐多岬と相對し、鹿兒島灣の口を扼す。西方坊津は昔時唐土との通商地にして、北方加世田の沿岸は砂丘を以て名高し、更に北方に進めば、川

本市は將來内地臺灣間交通の要點ならん。
祭神島津齊彬。



山川港及附近

内川を渡りて、米之津に達す、此の地は熊本縣に通ずる要點なり。

本縣の管轄區域内には長嶋、飯島、種子島屋久島を始めとし、島嶼甚だ多し。長島を隔つる黒瀬戸は潮流甚だ急にして、飯島の附近は珊瑚の産に富む。種子島は鐵砲傳來の地にして、屋久島



鹿兒島縣管轄區域

は屋久杉、鯉節の産あり。これより南方に羅列する吐噶喇群島は霧島火山脈の海中に噴起せる部分にして、大隅海峡以南此の群島に至るま

ては、黒潮の流れに當り、鯉の漁獲甚だ多し。

奄美群島は吐噶喇群島の南に位し、奄美大島、喜界島、徳之島、沖之永良部島、與論島より成り、大隅、薩摩間の電線は本島を通過す。氣候は高温多雨にして、榕樹、蘇鐵等熱帯性植物能く繁茂し、大島、細島、黒砂糖の産多く、人情、風俗、方言等は頗ぶる沖繩縣に似たり。

奄美大島の名瀬は島廳の所在地にして、雨天日數の多きこと本邦第一たり。本島は良港に富めども、ハブの害多きは惜むべし。沖之永良部島は永良部鯨を産す。

四二、熊本縣。本縣は肥後全國を管す、祖母岳、市房山等の高峯は東境に聳え、阿蘇火山脈は中部を貫き、温泉甚だ多し。本縣は農産に富み、肥後米の名古より高く、粟の産額は

二月に三十五日雨降るの傾あり。

朝鮮館

八代宮祭神 懷良親王

八代海は不知火を以て天草洋は粗山陽の時を頼



我が國第一たり。

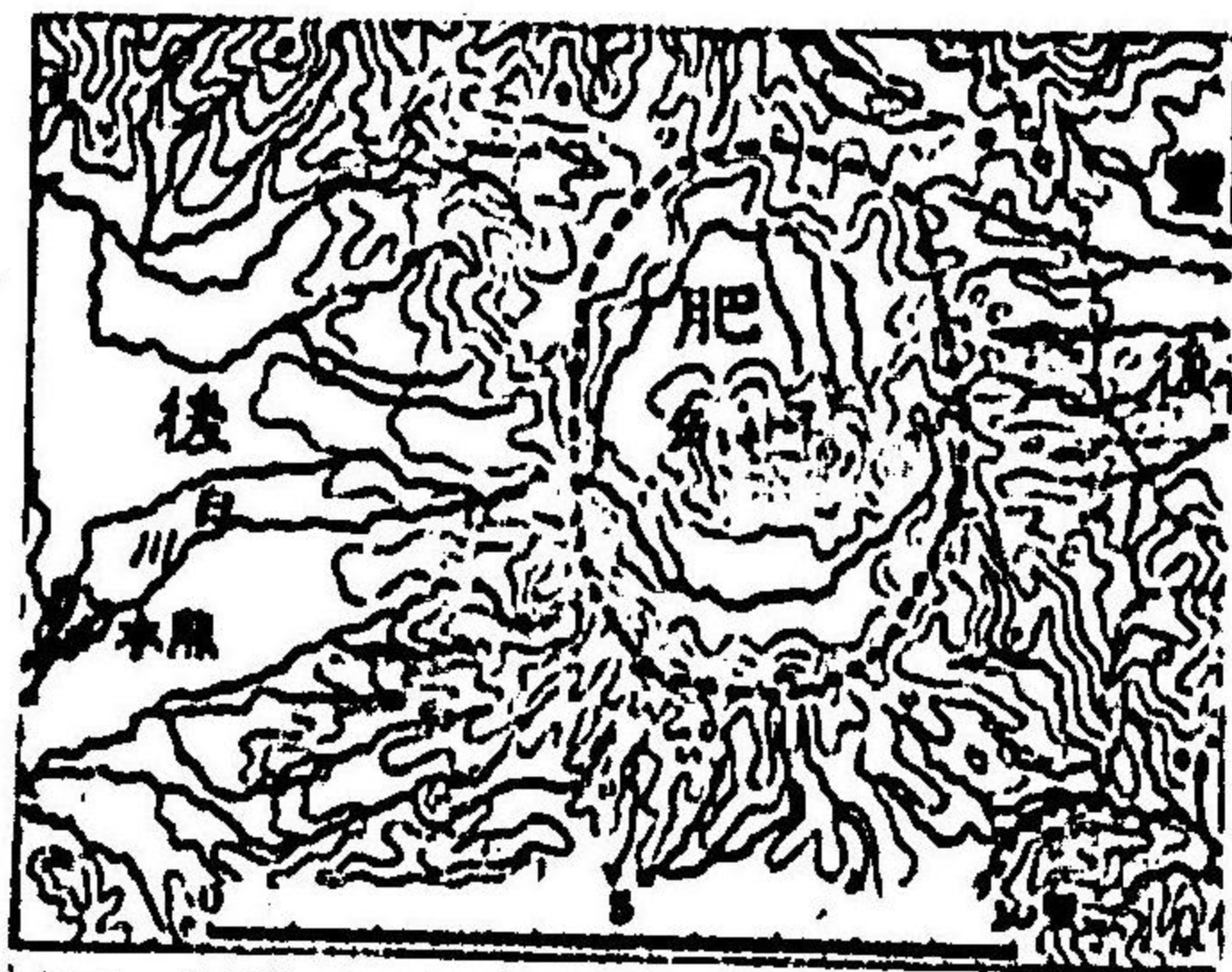
熊本市は縣廳の所在地、細川氏の舊城下にして、醫學校、第五高等學校、第六師團司令部あり、其の城は西南の役、谷將軍の籠城を以て有名なり。熊本市の西方に百貫石港あり。

磨川は日本三急流の一にして、上流の人吉は鹿兒島縣に通ずる要點なり、五家荘はこれより北方の深谷に位す。

三角は宇土半島の西端にあり、此の地は開港場なれども、其の港は甚だ狭し。天草諸島はこれより南西に列り、其の

以て名高し。

時。祭神菊池武



阿蘇山火口外輪山

阿蘇山の地形

東方は八代海、西方は天草洋に面す。熊本市の北方植木、田原は西南の役に名高し。隈府は菊池川の上流に位し、菊池神社あり、其の附近は良米を産す。

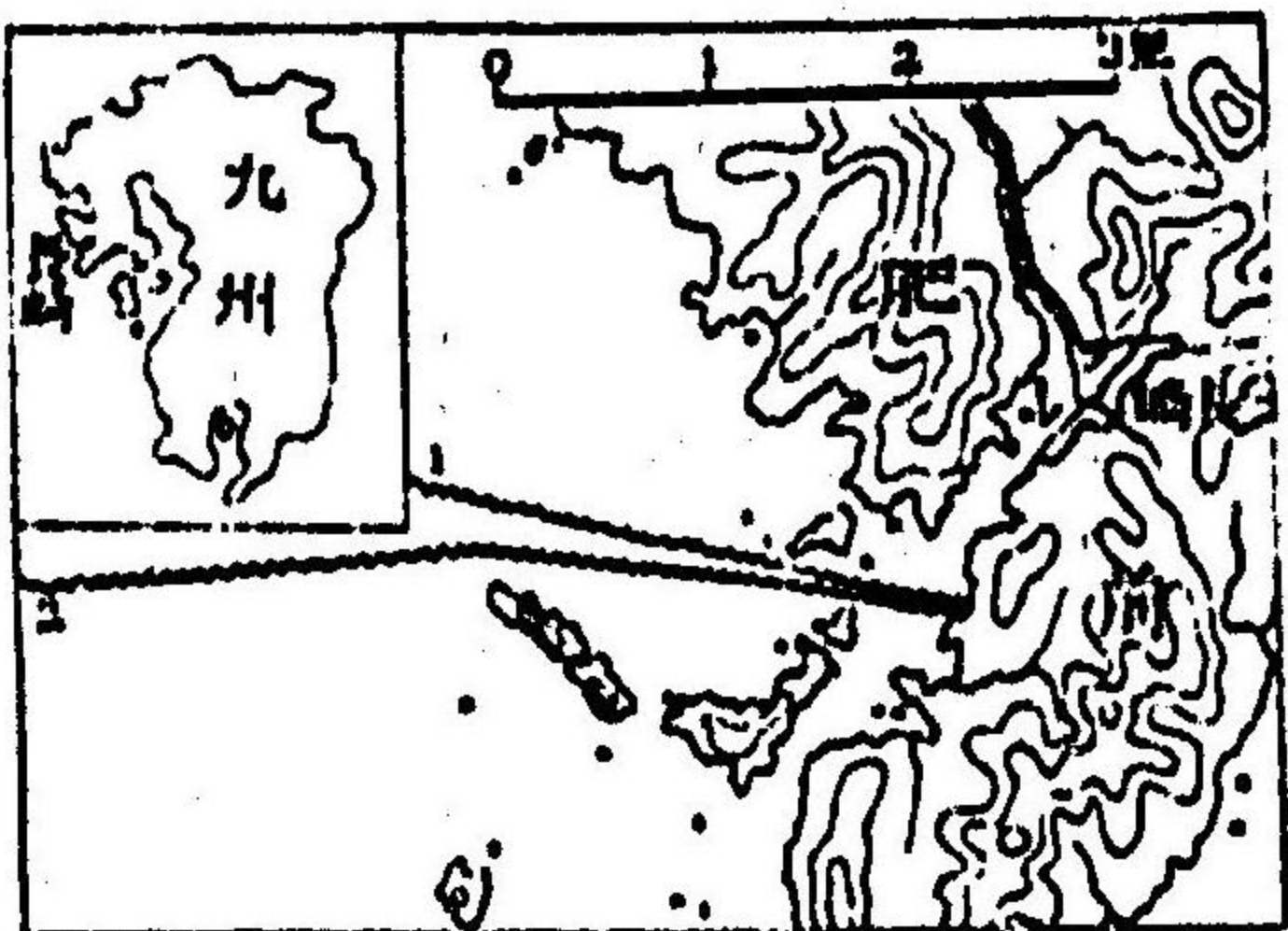
阿蘇山は熊本市の東方にあり、阿蘇火山脈中の大火山なり。五岳其の中に雙々、これを圍むに舊噴火口壁を以てす、其の直徑南北凡そ六里、東西凡そ四里、實に世界第一の噴火口なり。城内の水は相集り、一隅を破り、瀑布をなして流出す。



長崎縣管轄區域

四三、長崎縣。本縣は肥前の一部及び壹岐、對馬を管す、海岸の屈曲我が國第一にして、漁業甚だ盛んな

近時造船の業盛大なり。輸入はこれによる。

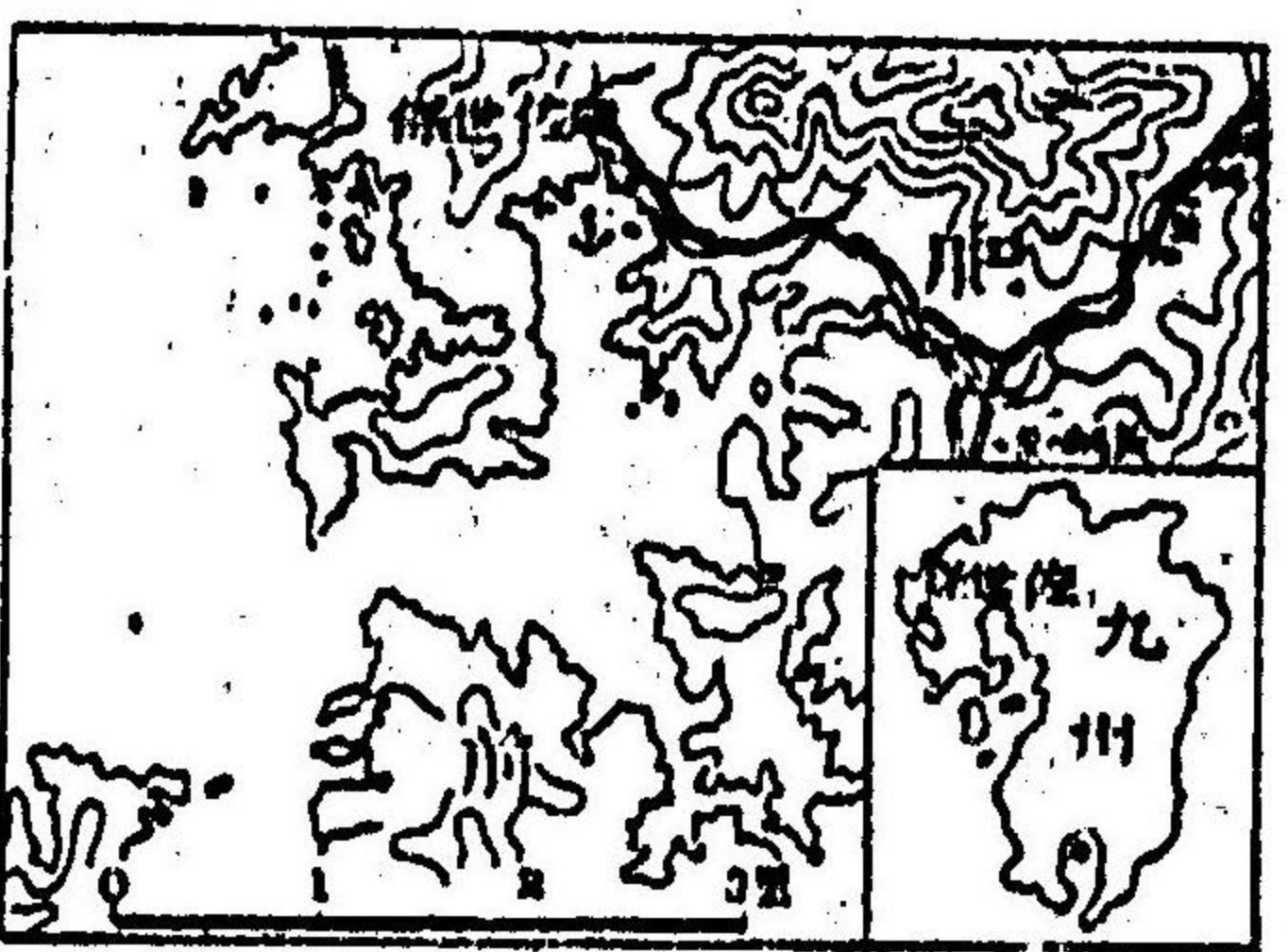


ワシントンコックムス島 海軍電報線

長崎港及附近

長崎市は縣廳の所在地にして、舊幕時代オランダ國との互市場たりき。横濱及び神戸を除きては、今尙ほ輸出入額最も多く、無比の良港にして、附近に要塞の設けあり、唯市街の狹隘にして、土地に高低あるは惜

むべし、税關控訴院醫學專門學校の設け、刻烟草の名産あり。長崎市より北東、大村灣頭の大村に歩兵第二十三旅團司令部あり、これより多良岳の西方を過ぎ、北西に進めば佐保市あり、此の地は軍港の所在地にして、海軍鎮守府及び造船廠の設けあり。大村灣より北西に進み、平戸海峡に入れ



佐世保及附近

五島嶼

ば、西方の平戸島に同名の都會あり。温泉岳は島原半島の中に聳え、其の山腹は夏季の避暑に適す。島原半島の東側に島原、南側に口津の名邑あり、口津は開港場にして、石炭の輸出盛んなり。

本縣の管轄區域は鹿兒島縣と同じく、數多の大島を包含す。五島は平戸島の南西に位し、大小數多の島嶼より成り、中通福江の二島最も大にして、福江島に同名の名邑あり、諸島には良港甚だ多く、其の近海は鯨及び鳥賊の捕獲盛んなり。登岐は平戸島の北東に位し、北岸の勝本は其の名邑なり。

對馬は登岐の北西に位し、上下の二島殆んど相連り、海軍

釜山は對馬の北端を距ると僅かに十五里なり。

伊萬里燒



佐賀縣南端地面の山下

の要港は中央の竹敷にあり。下島の綴原は島廳の所在地にして、上島の鹿見及び佐須奈と共に、韓國に對する開港場なり。

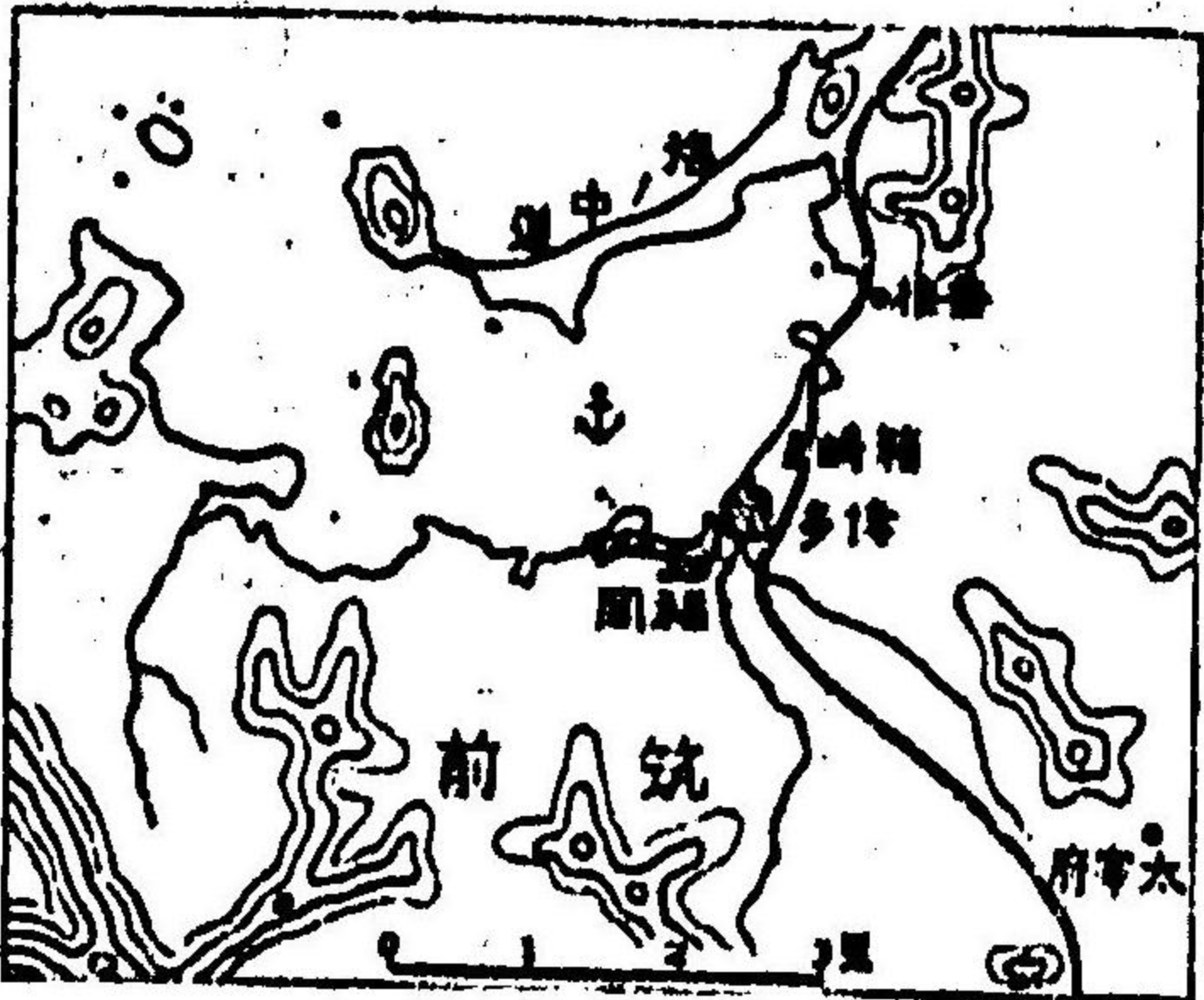
四四、佐賀縣。本縣は肥前の一部を管す、南は有明之海に面し、潮汐昇降の差我が國最大にして、十八尺に達し、且つ其の沿岸遠淺なるを以て、低潮に干出する地積甚だ大なり。

佐賀市は縣廳の所在地にして、鍋島氏の舊城下なり、四近は平野廣く、農産多し。佐賀市より西方に武雄の温泉あり、有田は陶器の産に富み、北方の伊萬里港は其の積出多し。東松浦半島の北端なる名護屋は豐

元寇の古戦場

公征韓の役に名高く、唐津灣頭の唐津は開港場にして、附近に石炭の産多し。

四五福岡縣 本縣は筑前筑後及び豊前の大部を管す、石炭の豊富我が國第一に位し、交通の盛大産業の豊富本邦屈指の地なり。



福岡市は縣廳の所在地なり、黒田氏の舊城下にして、歩兵聯隊ここに衛戍す。市街は福岡及び博多の二部より成り、海中道突出して博多灣を抱く。博多は開港場にして石炭を輸出し、博多織の名産あり。

祭神菅原道真

箱崎宮祭神
應神天皇
香椎宮祭神
神功皇后

筑豊炭田



太宰府神社

福岡市より南東に進めば太宰府あり、此の地は太宰府神社を以て名高し。筑後川に臨める久留米市は歩兵第二十四旅團司令部の所在地にして、久留米飛白の名産あり。大牟田の近傍三池炭山は産額我が國第一に居る。若津及び柳川は共に筑後の名邑なり。

福岡市の北東箱崎及び香椎には各有名なる神社あり。遠賀川の流域は炭山甚だ多くして、鐵道は其の重なるものを連絡す。洞海の若松港は石炭の積出盛んにして、枝光の製鐵所はこれより遠からず。東方小倉市は第十二師團司令部の所



鏡 豊 炭 山
(影陰の部は炭層)

して、對岸の下關と共に瀬戸内海の咽喉を成す。

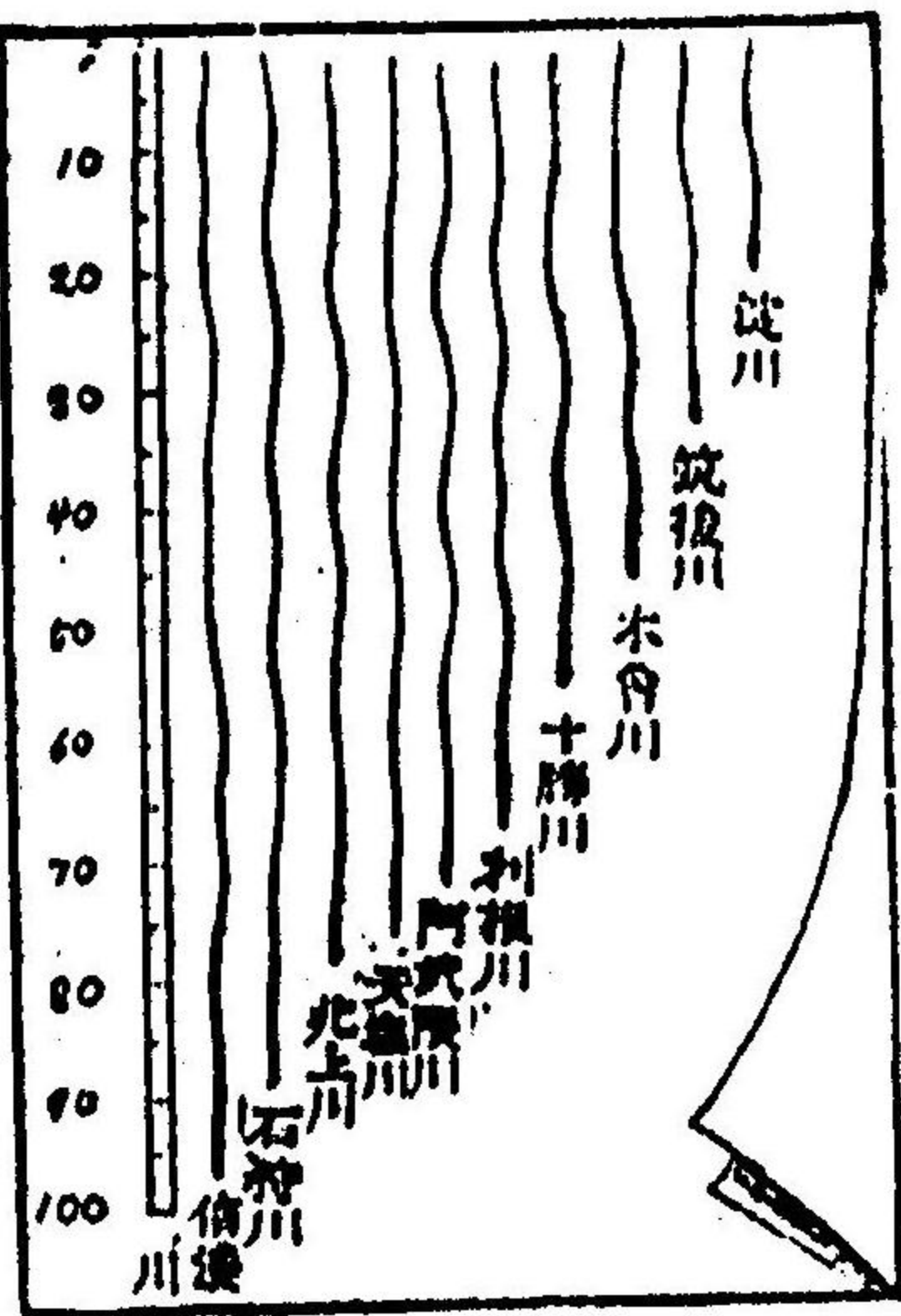
在地にして、小倉織の名産あり、其の北東門司市は開港場にして、盛んに石炭を輸出す。此の地は九州鐵道の起點に

第五章 北海道

第一節 地文地理

四六、地勢。 北海道の地勢は北州及び千島の二つに分ちてこれを記すべし。

北州の地勢。 北州の中央より西方に偏して、これを貫通せる平野あり、これより以東は目高及び東北の二山脈連亘



大河の長さの比較

すれども、大平原も所々に存す。千島火山脈は北州を横断し、東部に雄阿寒岳、雌阿寒岳等の火山を起す。噴火灣の附近には火山頗ぶる多く、恵山駒岳、有珠岳等最も名あり。北州の沿岸は屈曲に乏しく、渡島半島は南西端に噴火灣は其の北にあり。東部には花咲知床の二半島及び根室海峡あり、中央平原の西部に小樽灣及び積丹半島あり。主要なる岬には北に宗谷岬、西に積丹岬、神威の二岬、南に白神岬、給柄瀨岬の四岬、東に納沙布及び知床の二岬あり。北州の屬島は其の數甚だ少く、西部に禮文利

これ等離島は北州の寶川と稱せらる。

尻天賣燒尻奥尻の五島あるのみ。千島の地勢、千島は三十二の群島より成り、千島火山脈の貫通する所にして、沿岸絶壁多し。



天鹽川の河口

就中石狩川は長さ凡そ九十三里、本邦第二の大河なり、天鹽川及び十勝川これに次ぐ。河口往々砂丘の爲めに屈折せられ、河流長く海岸に並走す。又流木の爲めに航通の妨げを見るは惜むべし。湖沼も亦た少からず、洞爺湖及び猿洞湖最も名あり。

四八、氣候。

北海道は緯度高きを以て、これを本州に比

雪量は一般に北越地方

より少し。根室港内は冬季氷結す。れども小樽港内は氷結せず。

すれば、氣候寒冷にして、北州の内部に位する上川は我が國最寒の地と稱せらる。東岸は親潮の寒流を受け、西岸は對馬海流の流末に當りて、氣温に差異あり。北海道近海特に根室海峡は海霧深くして、航海の困難少からず。

第二節 人文地理

四九、人民。

北海道の面積は本邦全土の二割に餘るも、其の人口は未だ其の五十分の一に満たずして、寄留者を合するも百萬内外に過ぎず。特



東京帝室所藏の國大學生類人學の據る

土人は日高
國に最も多
し。

に北州の北部と千島とは人口非常に稀少なり。又女子に比して、男子甚だ多し。

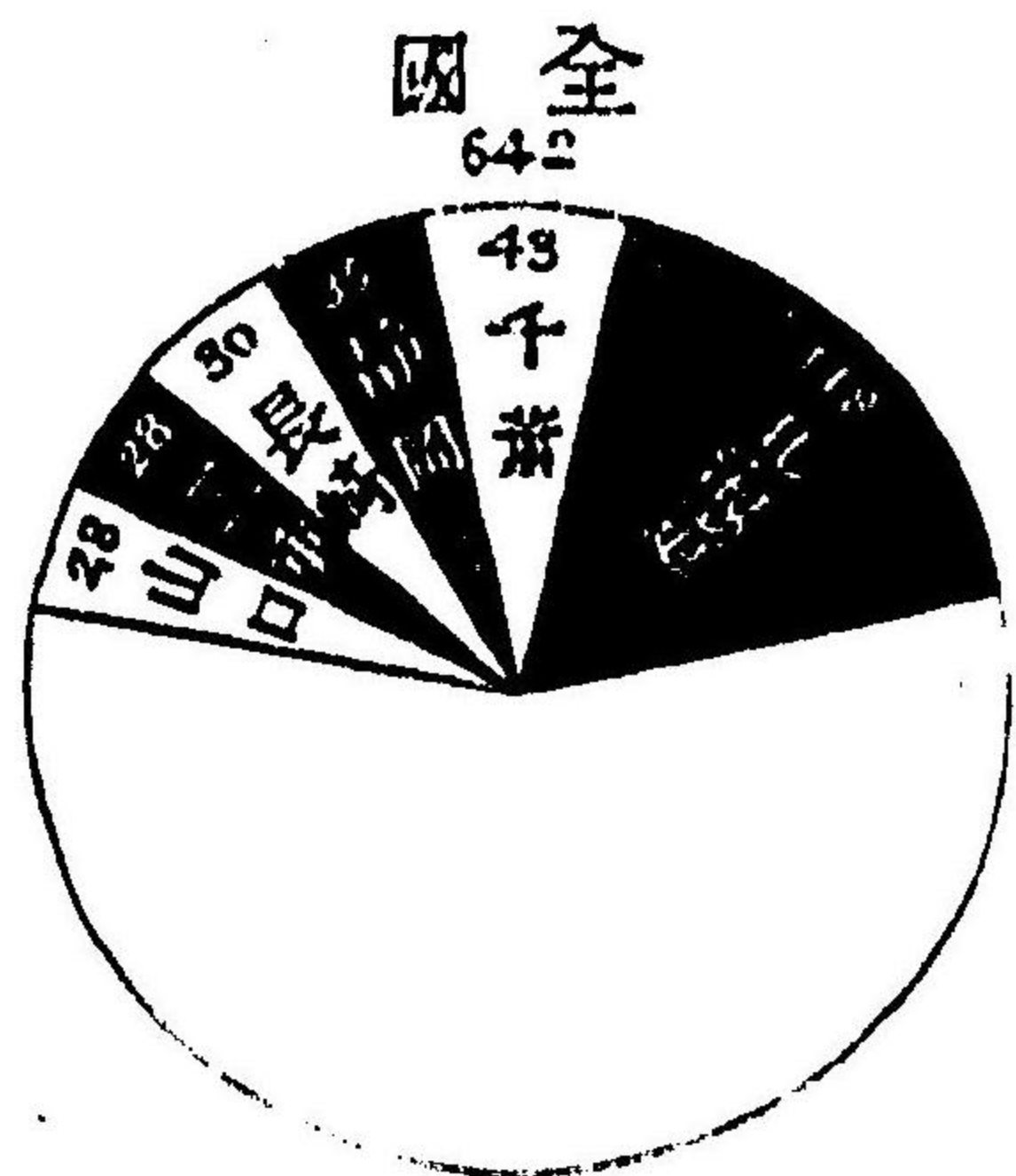
土人即ちアイヌ種族は、嘗て本州に蔓延せしが、大和種族の爲めに、漸次本道に驅逐せられしものなり。其の數今や僅かに二萬に満たず、隨て近時土人教育の議起るに至れり。「アイヌ」人は性質魯鈍にして、耕作を知らず、其の體格は偉大にして、男子は鬚髯に富み、女子は口邊に黥す。

五〇、政治。 北海道は北海道廳を置きてこれを治め、北海道廳長官は道治一般の事務を總理す。又北海道の守備には第七師團を置く。

五一、産業。 北海道水産の産額は本邦第一にして、其の種類は鱒の採捕を主とし、鱒、昆布、鹽鮭これに次ぐ。千島近

外國密航船
甚だ多し。

北海道炭礦
鐵道株式會
社とこれを採
掘す。



北海道水産物産額地方別 (單位拾萬圓)

海は臘虎、海獺、海馬、臘獸等の海獸甚だ多し。鑛産には石炭最も多く、砂金及び硫黄これに次ぐ。石狩國、歌志内、釧路、網走、稚内、夕張には有名なる炭山ありて、近時北見の北西部及び石狩の北部に、豊富なる砂金地の發見ありき。此の外「エゾ」松、トマ、松等の林産、及び大豆、小豆、馬鈴薯、藥、藍、大麻等の農産に富み、原野開墾後多年の間肥料を要せず。

五二、交通

鐵道には官設線及び北海道炭礦鐵道株式會社の線路あり。炭礦鐵道の本線は手宮より小樽、札幌、岩見澤を経て、一方には室蘭に至り、一方には砂川に至り、其の

支線は嵯炭山に通ず。又官設鐵道は砂川より上川地方の旭川に至り、これより一方には十勝に向け、一方には已に天鹽に入れり。



石狩川

北州には大河多く、石狩川は長距離の間小汽船を通ず。もし流木を除き、河身を治めば、北州河川の利は甚だ大なるべし。

冬季風波荒きとによる。特に千島の得撫島以北には、未だ汽船の定期航海を見るに至らず。

石狩川は北
州の拓植上
り。甚だ必要な

祭神大國魂
神外二神



室蘭港及び附近

郵便・電信電話の事業も漸時盛大となり、千島の國後・擇捉二島及び北州西部の各離島へは海底電線を通ず。

第三節 地方誌

五三、北州。

札幌區は北州中央平原の一隅に位し、北海道廳札幌農學校等あり、少兵聯道、政治上の中心にして、北海道廳札幌農學校等あり、少兵聯隊こゝに衛戍す、市街は碁盤の目の如く、互に直角に交はる、

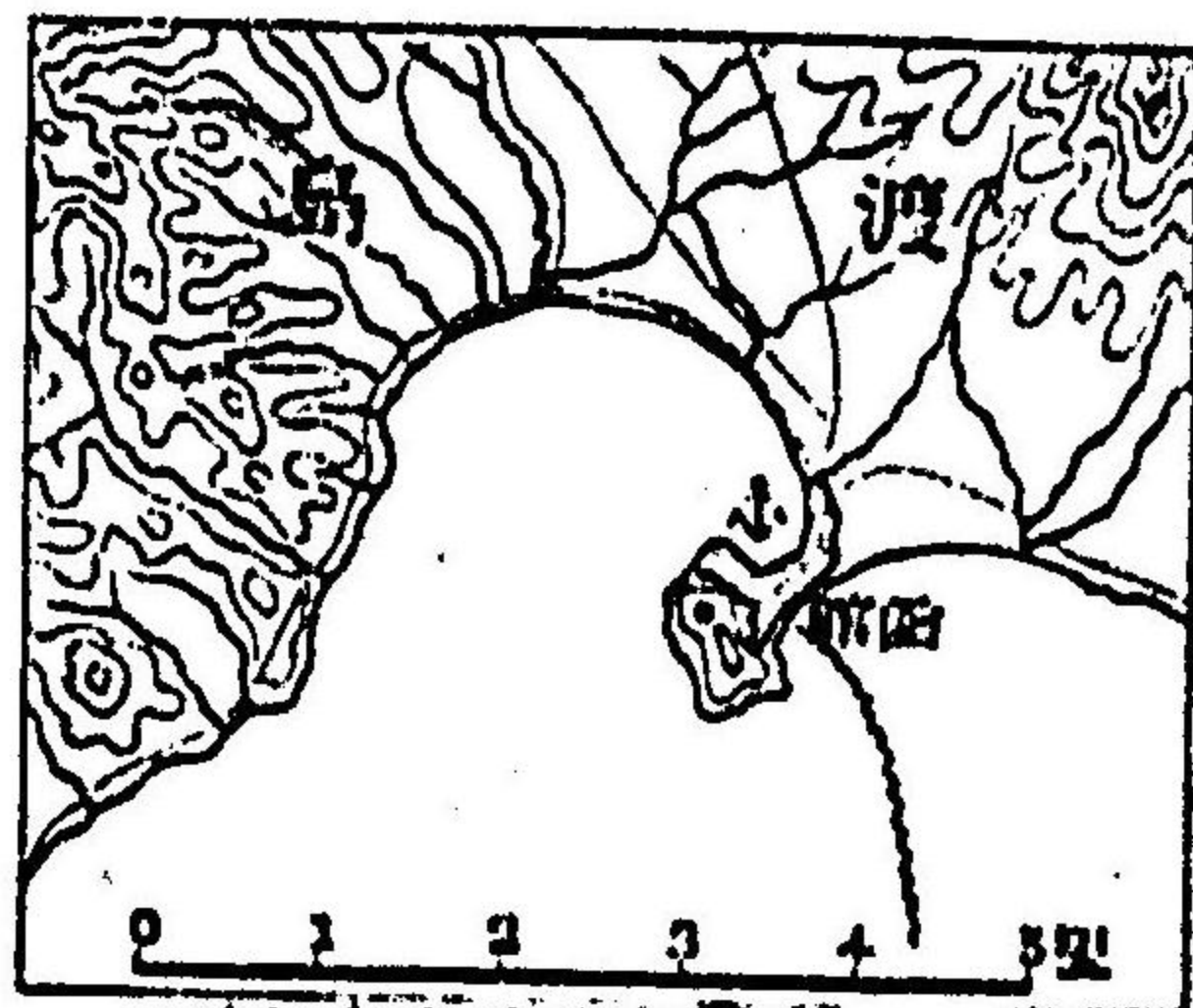
ビール、砂糖、麻布の工業盛大なり、市の西方に札幌神社あり。

小樽區は札幌區の北西にあり、北州西部の咽喉に當り、北州物産の集散は過半、此の地に行はれ、開港場にして、輸出入額次第に多く、築港の事

業も遠からずして完成すべし。

輸入を許さず
又海軍鎮守府は未だ設けられず。

札幌區より北東、石狩川の支流を渡り、岩見澤に至れば、鐵道は此の地に於て分岐し、一線はこれより南に進み、苫小牧を經、更らに南西室蘭に至る。室蘭は噴火灣の東隅に位し、給柄岬其の西を抱き、札幌及び本州間交通の要點に當る。此の地は開港場なれども、其の港の狭きは惜むべし。



函館港及附近

函館區は津輕海峽を隔て、本州の青森に對し、要塞の設けあり。開港場にして、其の港は良好なれども、輸出入額は未だ多からず、税關控訴院等あり、附近の五稜廓は戊辰の役に名高く、今は其の濠の中に、冬季製

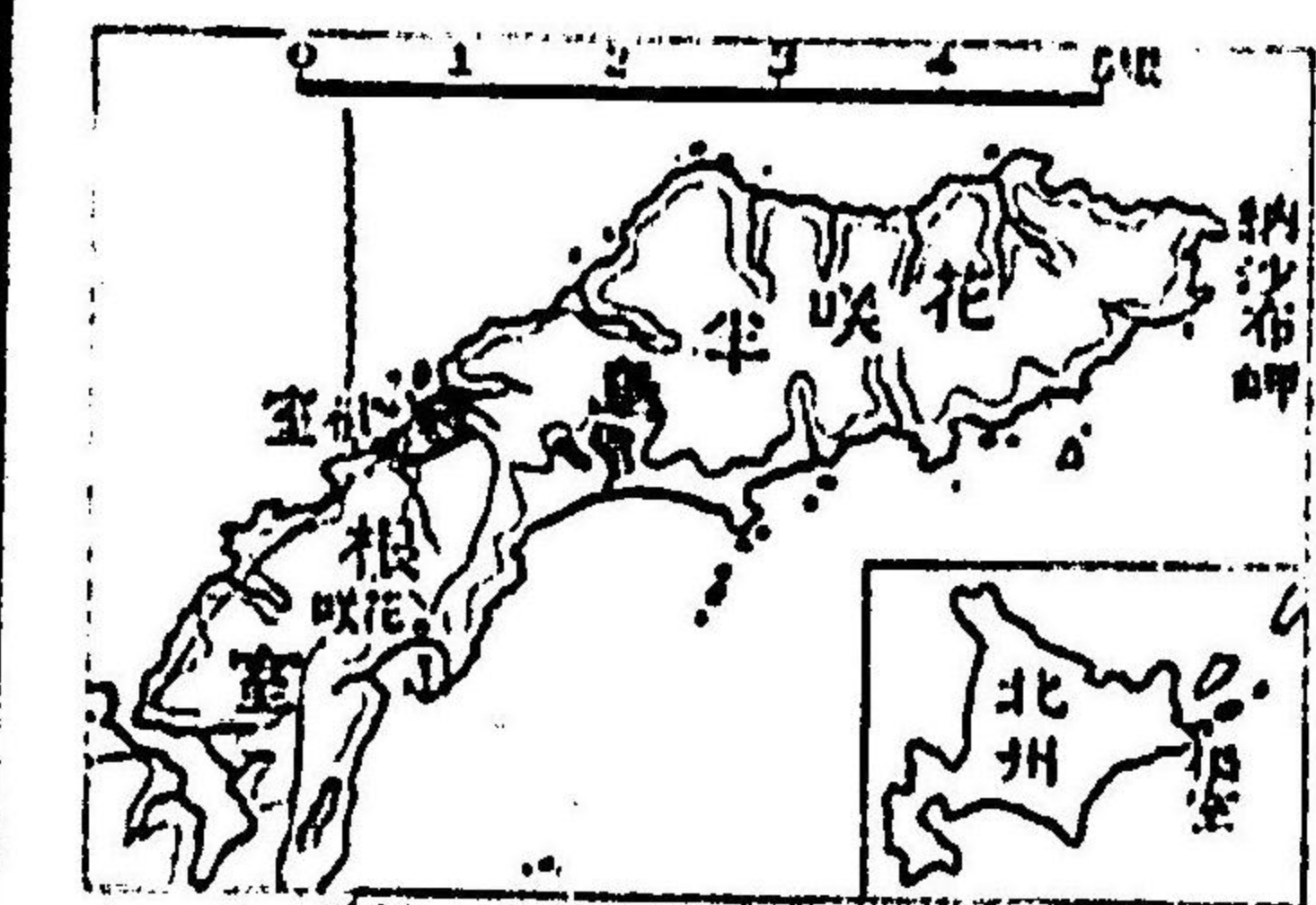
氷の業盛んなり。函館の南西方福山は往時の松前なり。波島半島の西岸、江差、森都岩内は漁業盛んにして、森都は風力常に強し。

官設鐵道は砂川より起り、神威古潭を過ぎ、東に進みて旭川に至る。旭川は上川平野の中心にして、第七師團司令部あり。此の邊は本邦中氣温最低の地なり。

更らに小樽港より北進し、増毛を經、天賣、焼尻二島を左に見、天鹽川の河口を經、利尻、禮文二島の東を過ぐれば、稚内に至る。小樽よりこゝに至る間は漁業最も盛大なる地方なり。稚内の北東に宗谷あり、其の北東なる宗谷岬は樺太のノトロ岬と相對す。

宗谷岬を回ぐれば、オヨック海の沿岸にして、海岸平直な

り。南東に進めば枝幸に至る、其の近傍に有名なる砂金地あり、近時の發見に係る。更らに南東に進めば、猿瀨湖を経て、網走湖畔に近き網走に至る。此の地は本邦中雨量最少の地なり。



根室港及附近

網走より北東に進み、知床半島を回り、根室海峡を過ぎ、根室灣内に入れば根室港あり。これより花咲半島を回れば花咲港あり、冬季根室港内氷結の際は、船舶此の地に碇泊す。花咲より西方濱中灣を経て厚岸港に達す、此の地は牡蠣の産多し。これより西方に進めば釧路川の河口に釧路港あり、此

十勝石。

千島得撫島以北は明治八年樺太島と交換してロシアにより得たるものなり。

の地は開港場にして、硫黄を輸出す、其の産地跡佐登は釧路湖の東岸にあり。

釧路より南西に進めば、十勝川の河口に達す、其の流域には廣大なる平野ありて、帯廣は其の中心なり。襟裳岬を回り、北西に進めば、日高國の沿岸にして、土人の部落多く、浦河の名邑、新冠の牧場、平取の源義經祠等皆世に名あり。尙ほ進行すれば、苫小牧に達し、鐵道線路に出づ。

五四、千島。北州に最も近きは國後島にして、其の南東に色丹島、北東に擇捉島あり、擇捉島は千島諸島中面積最も大にして、紗那は其の名邑なり。擇捉島の北東に得撫島あり、其の北東はボツソリ海峡を隔て、新知島に對す、此の海峡は略ぼ千島を南北の二部に分つ。新知島より北東、占守

島に至るまでの諸島は住民なし。占守島は報効義會員郡司大尉等の移住せる所なり、其の東端は我が國版圖の極東點にして、千島海峽を隔て、カムチャツカ半島のロバトカ岬に對す。占守島の西方に阿瀬度島あり、其の北端は我が國版圖の極北點なり。千島諸島の北部は樹木甚だ少けれども、流木多きを以て、川材に乏しからず。

第六章 南 區

第一節 沖繩縣

五五總論。 沖繩縣は琉球諸島を管轄す、琉球諸島は鹿兒島縣の南西方に當り、五十餘の諸島より成り、面積は東京府より少しく大にして、人口は凡そ五十萬あり。氣候は海

琉球人



東京帝國大學人類學教授
室所藏の原圖に據る

風の爲めに溫和なれども、夏秋大風の季節には大雨を伴ひ、被害少からず、故に家は平屋造にして、石壁を廻ぐらし、以てこれに備ふ。

地勢は一般に急峻ならざれども、沖繩島に於ては著しき山峯あり。又石灰岩に富み、地下の岩窟及び湖甚だ多し。沿岸は珊瑚礁多く、船舶の出入不便なれども、沖繩島の東岸

には中城灣の良港あり。本縣の人民は舊時支那に朝貢せしこともありて、其の一部今尙ほ多少清國を崇拜するの弊あり。其の人種は大和

種族と著しく異なる所を見ず、又各島各特別の方言あり。普通の人民は芭蕉布を着、甘藷を常食とし、履物を用ひず。厠

の設けなく、以て豚を養ふ。墓の構造は丁寧にして、本縣の特色なり。

風土は良好なれども、西部なる八重山諸島は熱病流行して、人口年々減少す。又、ハブの害多きこと奄美



沖繩縣地

群島に同じ。

物産は上布芭蕉布、泡盛、砂糖、漆器、夜光貝等あり、沿岸の魚類には色の艶美なるもの多し。

諸島の要地と内地及び臺灣間は海底電線を通じ、汽船は定期に航海す、又諸島間には小汽船、固有の小船(ヤンバル船)及び獨木舟(グリ舟)の往來あり。

五六、特説

一、沖繩諸島 沖繩島は琉球諸島中最大のものにして、其の那覇區は縣廳の所在地なり。此の地は開港場にして、砂糖、泡盛、飛白の産に富む。那覇の北東に近き首里區は琉球王の舊城下なり。沖繩島の北岸に運天港あり。沖繩島の遙か北方に島島あり、火山島にして、硫黄の産多し。

二、先島諸島 沖繩諸島の南西に當り、其の時刻は臺灣と同じく、西部標準時を用ふ。

甲、宮古諸島 沖繩島の南西に位し、宮古島最も大なり、永

良部島これに次ぐ。

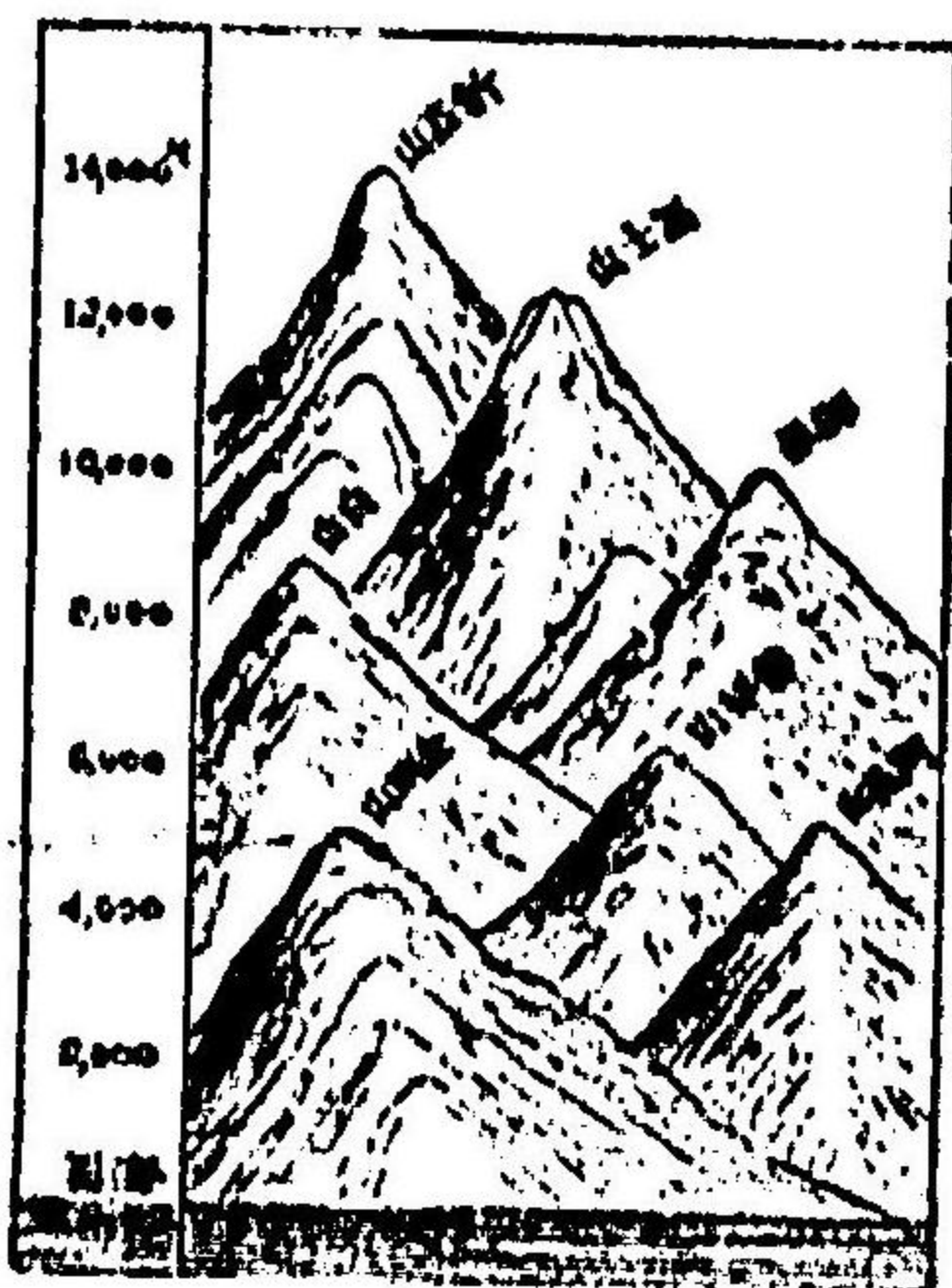
乙、八重山諸島。宮古諸島の西に位し、石垣島及び西表島最も大なり、石垣島の川平は良港の名あり。西表島の西なる與那國島は結繩の風行はれ、又象形文字を用ふ。

第二節 臺灣

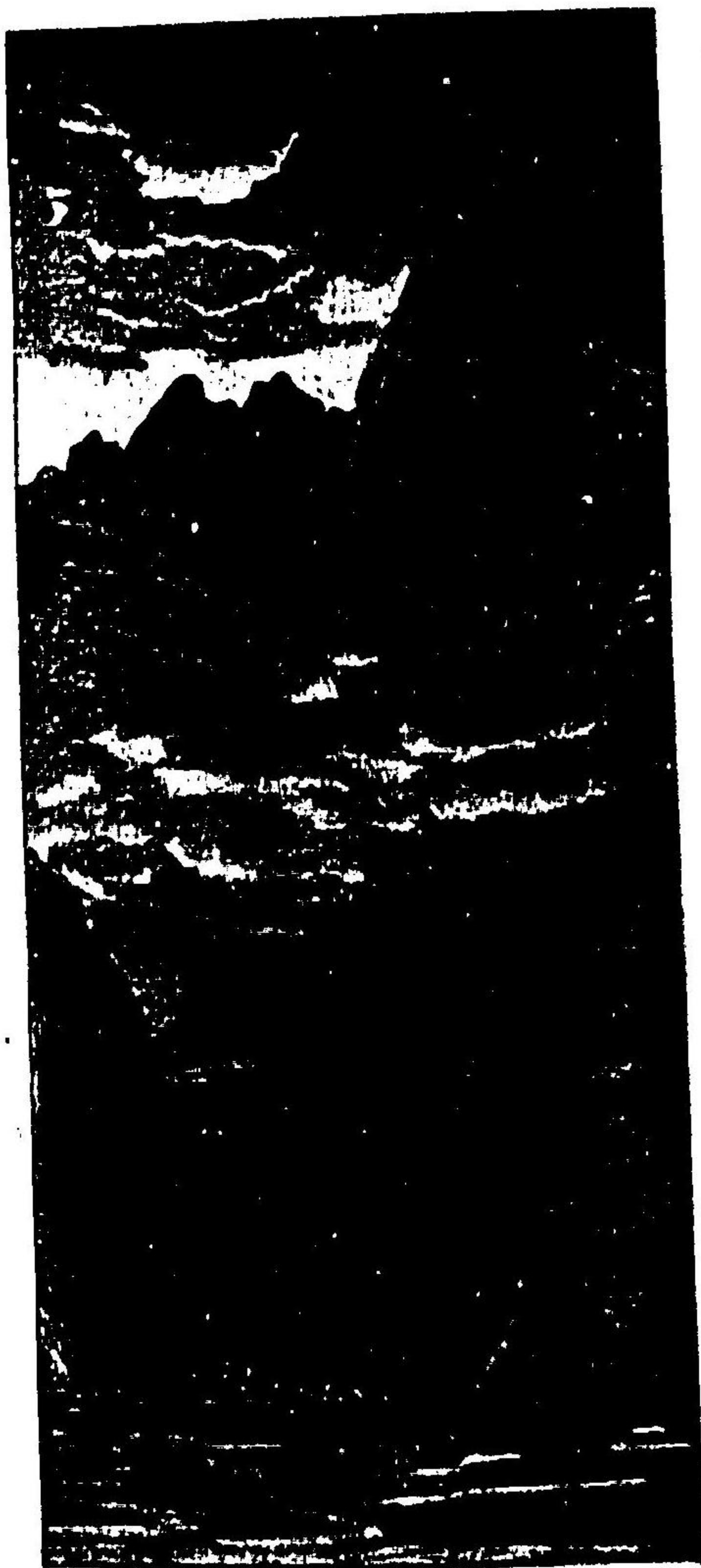
五七、地文地理。

地勢。臺灣の地勢は臺灣島及び澎湖群島の二つに分ちて、これを記すべし。

臺灣島の地勢。地形南北に長く、東西に狭し、北端に富貴角あり、南端に南西岬及び南岬あり。臺灣山系は地形に従て南



較比さ高の山名



陸絶の岸東灣臺

北に連り、最高點新高山は凡そ一萬三千尺に達し、我が國第一の高峯たり。臺灣島の北部には火山脈通過し、大屯山其の中にあり。沿岸は屈曲に乏しく、天然の良港なし、東岸には水際より立てる絶壁多く、西部は平直なる砂濱にして、砂丘の發達甚しく、海岸は磯波荒く、交通不便なり。屬島には

南東の紅頭嶼最も大なり。

澎湖群島の地勢 一面平坦にして、最高點と雖ども百六十尺に達せず。沿岸は珊瑚礁に富み、暗礁多し。

水誌 臺灣島の川は皆急流にして、谷は深峻なり、大雨の爲め一時に出水し、古來堤坊の設けなく、兩岸は荒地相連り、階段の上段のみ耕地となれり。唯北部の淡水河のみは水利少からず。澎湖群島には河流と稱すべきものなし、然れども地下水には欠乏せず。

氣候 一部は熱帯に入り、氣温概ね高く、沿岸に於ては殆んど雪を見ず。「ベスト」及び「マラリヤ」常に絶えざるを以て、内地に比しては稍不良なるが如し。夏秋には大風襲來して、遂に清國又は本邦内地に入り、これと共に一時に非常な

臺灣の蚊はマラリヤ病を傳播す。

る大雨を降らすを常とす。臺灣海峡は風力常に強く、澎湖群島は其の衝に當る。

五八、人文地理。

人民 本島の人口は凡そ二百八十萬にして、蕃人十萬、内地人三萬、他は漢種族にして、もと福建、廣東地方より移住せしものなり。蕃人は

本島の土人にして、熟蕃と生蕃とに分れ、熟蕃は漢人と雜居し、生蕃は凶暴にして、漢人又は内地人を襲撃し、其の首を取り、其の多

臺灣の漢種族



東京帝國大學人類學部所藏の原圖に據る

臺灣の蕃人



東京帝國大學人類學部
室所藏の原圖に據る

きに誇る。蕃人は
獵獸を業とし、又往々
農業を營む。蕃人の
村落を蕃社と稱し、
其の數は一百を
超ゆ、其の大部は未
だ十分に我が政

府の命令を奉ぜざるもの、如し。

政治 臺灣には臺灣總督府を置き、臺灣島及び澎湖群島を管轄せしむ。臺灣總督は親任官にして、陸海軍大將若くは中將を以てこれに充つ。臺灣の守備には三個の混成旅團ありて、各師團より交代衛戍す、又警備の軍艦は常に派遣

鹽は天日製
造による、
樟腦は六世
の初めに分
産の五を出
す。

せらる。近時本島人の志願者を募集して、軍事教育を施し、兵卒同様の役務に服せしむ。

臺灣には樟腦、食鹽、阿片專賣の制を布き、其の收入甚だ多けれども、尙ほ一般歳入より經費を補充す。通貨の中には、政府の極印を押せる一圓銀貨あり。

教育 國語學校及び師範學校は臺北にあり、其の他國語傳習所、公學校、小學校の外、書房、義塾と稱する私立學校甚だ多し。

産業 臺灣島は氣温高く、地味肥え、農産甚だ豊かなり。米の收穫は年二回又は三回にして、産額凡そ八百萬石に達す、唯其の米質は内地人の嗜好に少しく適せざるが如し。烏龍茶の製造は北部に多く、砂糖の製造は南部に盛んなり。

氣候地勢の
關係により
植物に富む。



水牛 竹 筏

あり。輸出品は茶を第一とし、樟腦、砂糖、穀物これに次ぎ、主要なる輸入品は阿片、支那綿布、烟草等を重なるものとす。交通。内部の交通は未だ十分ならず、橋及び獨輪車は其の特性にして、蕃地の旅行は不便少からず。特に臺灣山系

林産は甚だ有望にして、榕樹、樟等熱帯性の植物、及び松、杉等盛んに繁茂す。畜産は豚、水牛の飼養盛んにして、鑛産は北部の金及び石炭稍名あり。

商業。清國との貿易は古より盛んにして、開港場は基隆、淡水、安平、打狗、四港の外、尙ほ數多の特別開港場

を横斷する道路は一つもこれなきが故に其の通行は最も困難を極む。鐵道は打狗より、臺南を経て、嘉義に通じ、尙ほ



獨輪車 橋

北方に延長中なり。此の線路は基隆、中港間の現在線路に連絡して、將來臺灣を縦貫すべし。又近年淡水、臺北間の線路も開通せり。沿岸航路は基隆を起點とし、一は東方、一は西方に向ひ、全島を一周す。但し磯波、荒きを以て、上陸及び乗込の際危険少からざれども、竹

筏と稱する特別の船は巧に磯波を避く。郵便電信電話は次第に發達せり。

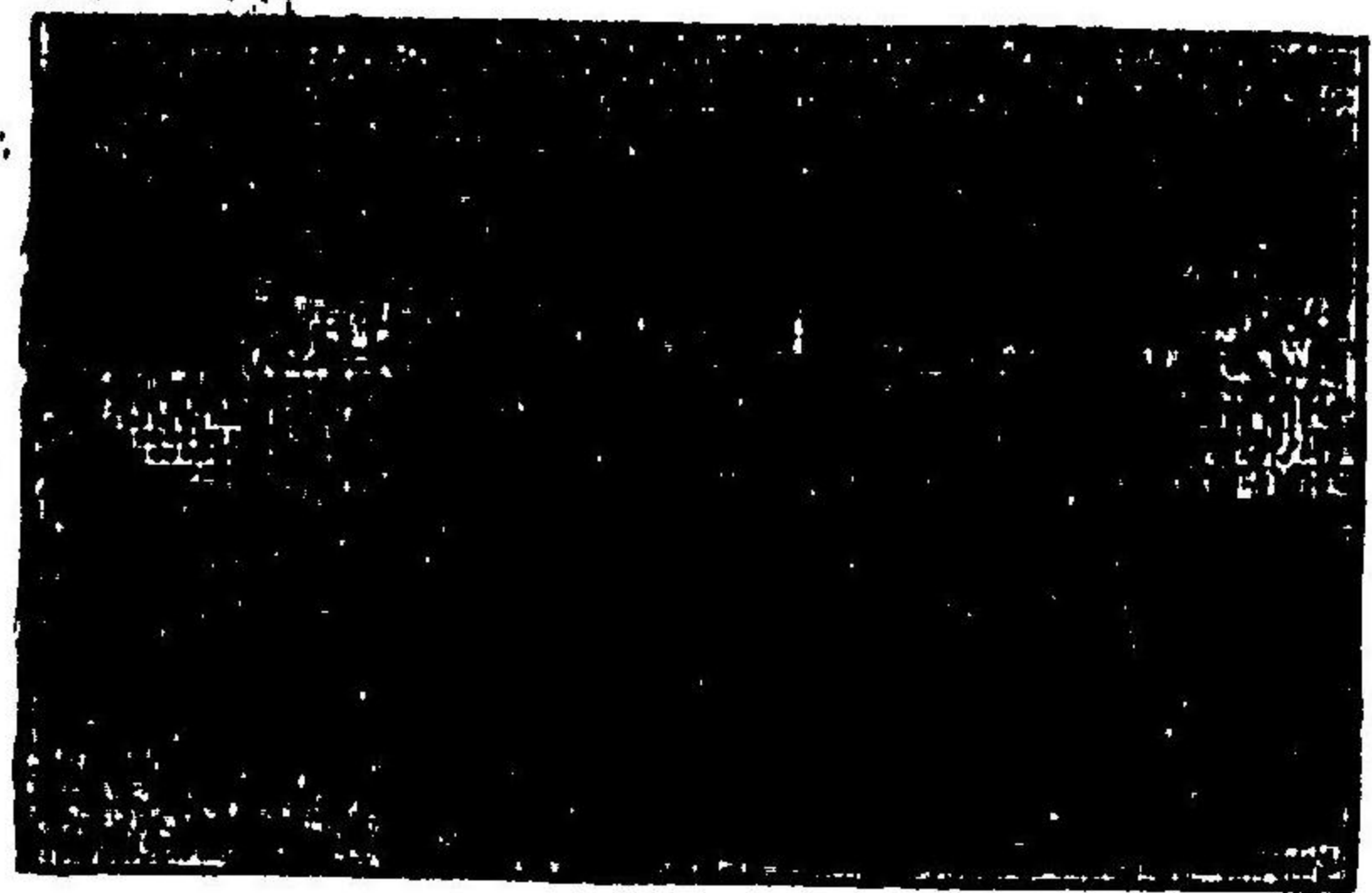
大阪商船株式會社これを營む。

蕃地旅行

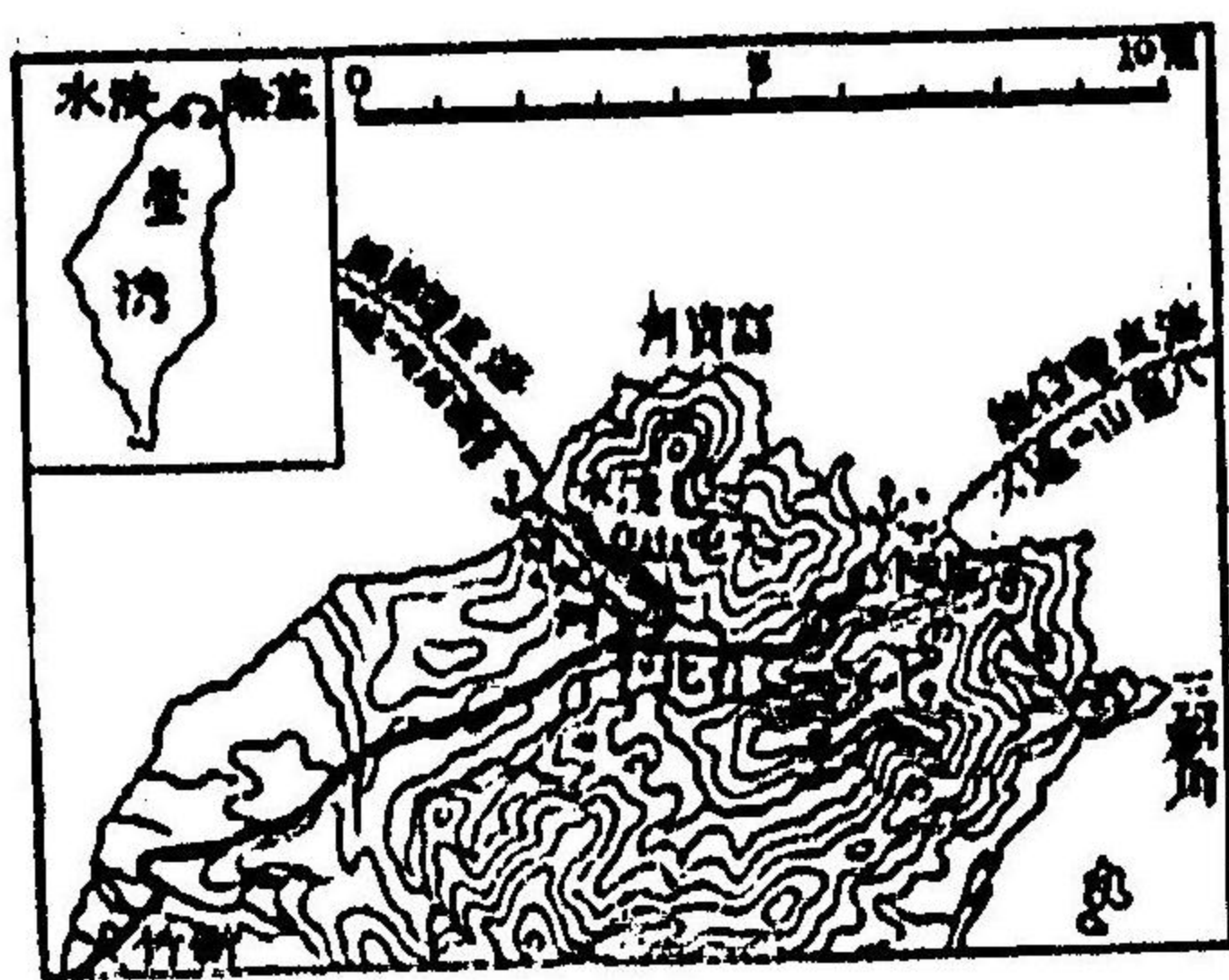
臺灣と本邦内地との交通は、海底電線によりて、通信を缺かず、其の航路は日本郵船、大阪商船兩株式會社これを營む。臺灣と清國との交通は、外國人の營めるもの少からず、大阪商船株式會社は淡水及び安平より南清へ航路を開き、又土人の支那形船を用ひ往來するもの頗ぶる多し。海底電線は臺灣北部と福建省とを連絡す。

五九、地方誌。

臺北は臺灣總督府の所在地にして、淡水河に跨り、淡水へ汽船及び鐵道を通じ、基隆及び新竹へ鐵道を通ず。市街は城内、艋舺、大稻埕の三部



臺北城門



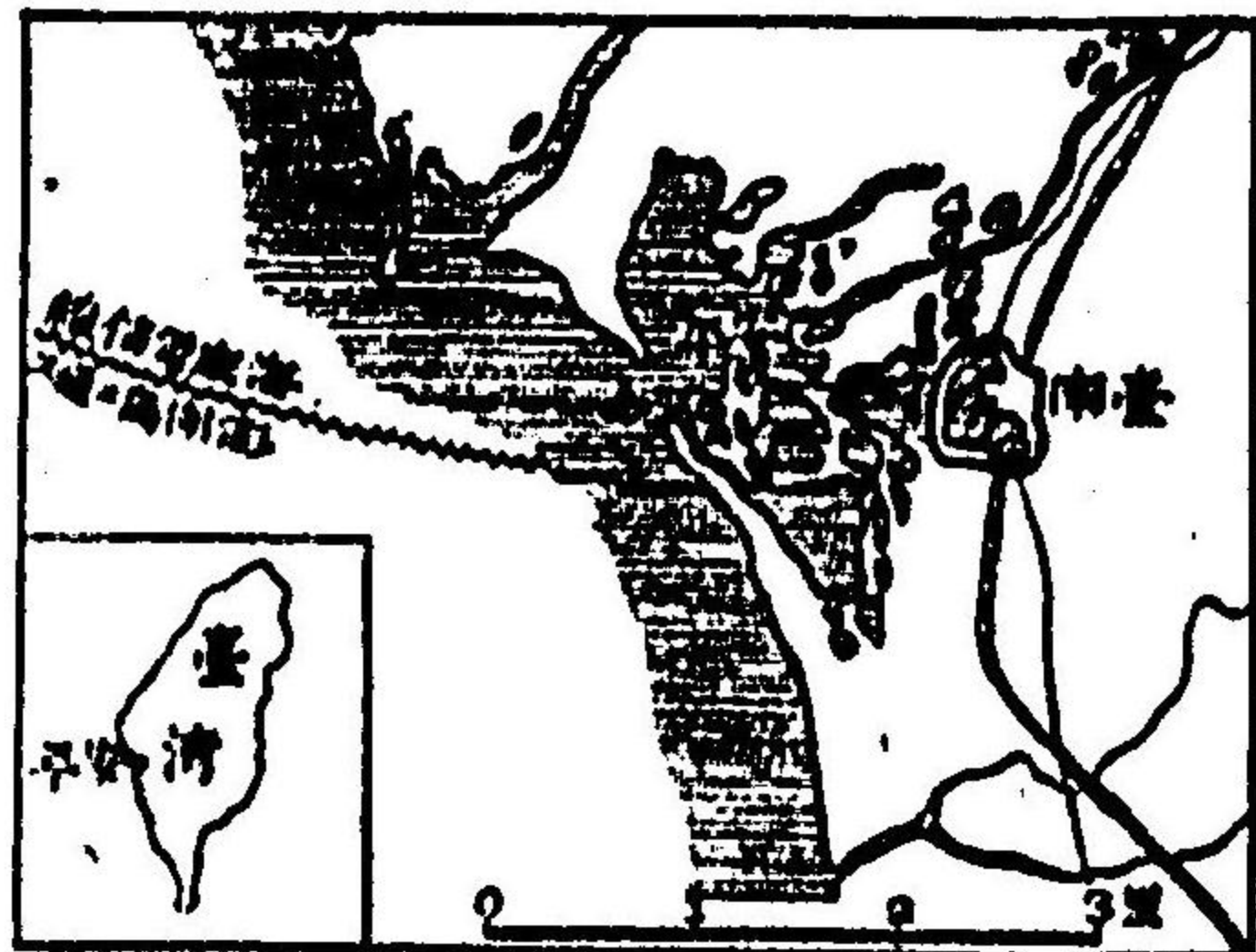
臺北及附近

より成り、城内は周圍に城壁を廻らし、堅固なる城門を設け、規模甚だ廣大なり、其の中に總督府、覆審法院、臺灣守備混成第一旅團司令部等あり、大稻埕は烏龍茶の取引盛大にして、内外の巨商多し、附近に臺灣神社あり。

基隆は臺灣の門戸を成し、要塞の設けあり。開港場なれども、港口開けて、北東風を凌ぎ難し、港門の東側に萬人堆の奇景あり。臺北の北西、淡水河口の淡水滬尾は、内外交通の衝に當り、臺灣第一の開港場にして、税關の設けあれども、港口及び港内淺くして、大船を容るゝこと能はざるは惜むべ

祭神大國魂
命外二神及
び能久親
王。築港着手
中。清國福建省
へ海底電線
を通ず。

紅毛城の遺址。

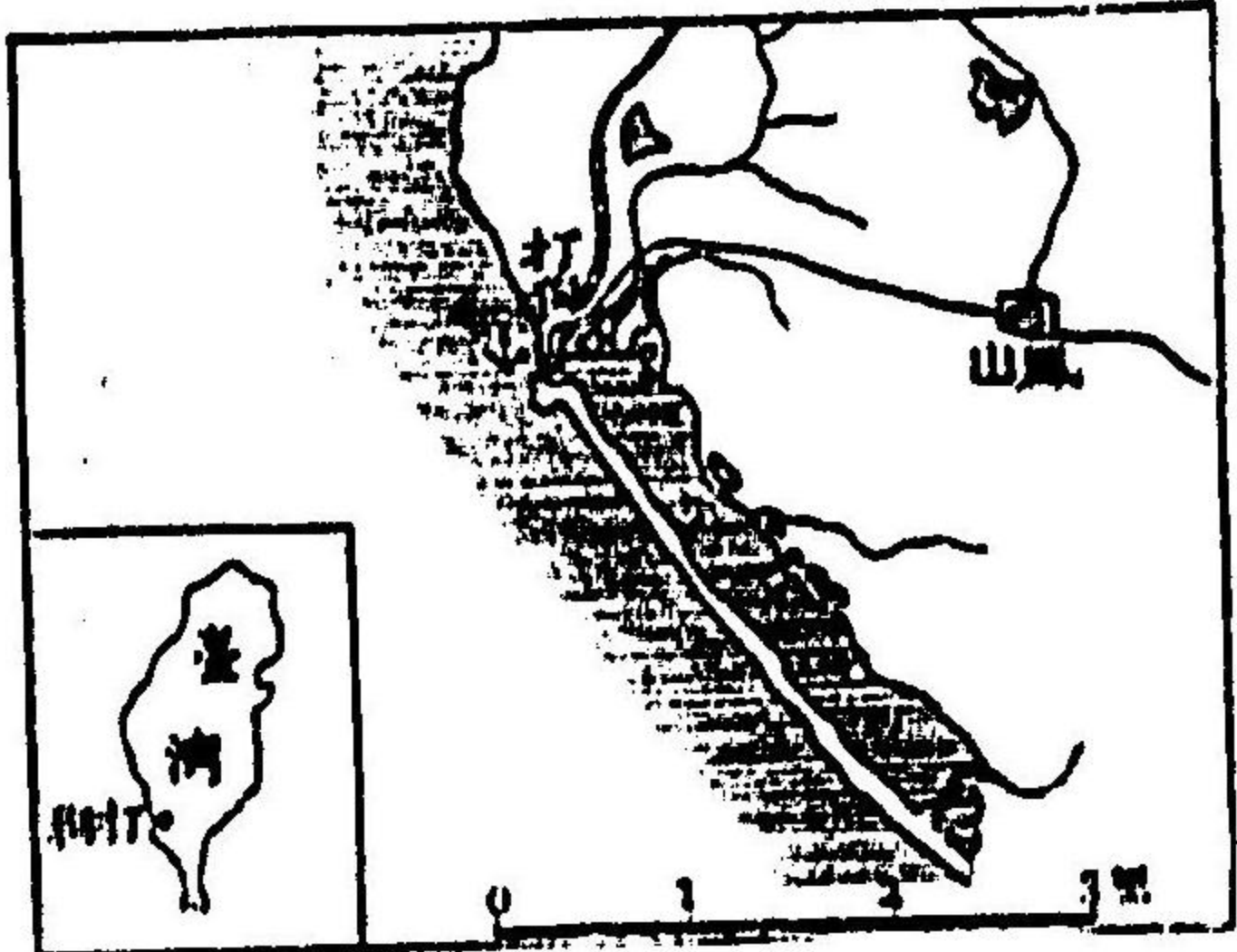


近 附 び 及 南 臺

し。輸出品は茶を第一とし樟腦これに次ぐ。
臺中は臺灣島の中部に位し、混成第二旅團司令部あり。彰化は臺中の西方に位する名邑なり。塗葛窟は臺中彰化に通ずる咽喉に當り、商業盛大なり。埔里社は臺中の南東に當り、蕃社に對して重要なる位置を占む。

臺南は臺灣南部の都會にして、混成第三旅團司令部あり。臺南の西なる安平は開港場にして、税關の設けあり、此の地より澎湖群島へ海底電線を通ず。

臺南の南に打狗あり、開港場なれども、港口狭く、水淺きを



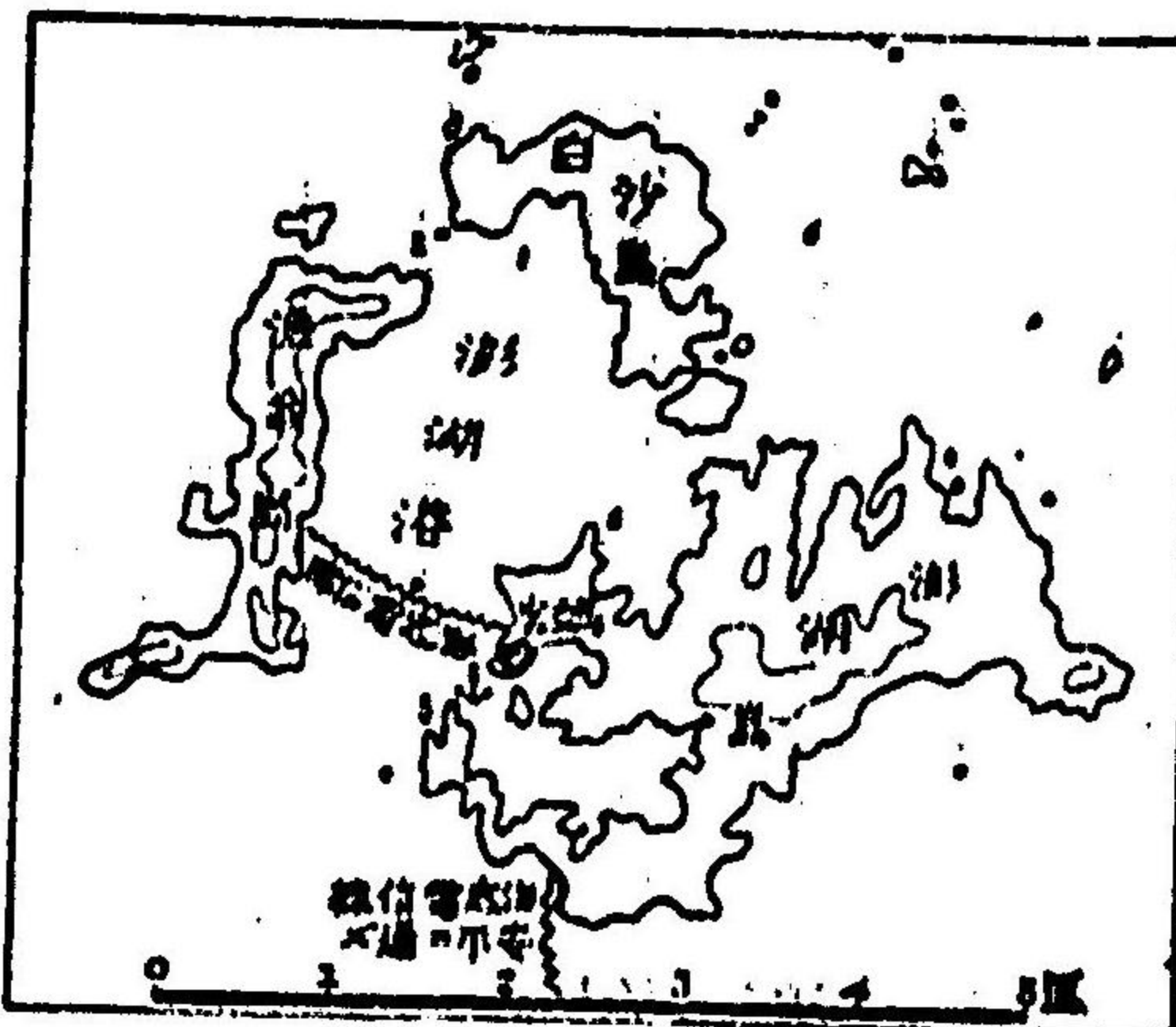
近 附 び 及 狗 打

以て、貿易盛んならず、其の東に鳳山の名邑あり。臺南の北東に嘉義あり、臺灣中部の重要なる都會なり。恒春は臺灣の南端に近き名邑なり。卑南(新街)は東岸に近く、近傍に蕃社多し。宜蘭は臺灣の北東部に位する名邑にして、三貂角はこれより

り北東方に當る。

澎湖群島は五十餘の島嶼より成り、其の中澎湖島白沙島漁翁島最も大なり。澎湖群島には樹木極めて少く、土人は牛糞を乾かして薪炭に代ふ。

澎湖島は白沙島及び漁翁島と相對して、巴の形を成し、一



大良港を抱く、これを澎湖港と云ふ。近海は風波荒く、暗礁多きを以て、此の港は最も大切なる位置にあり。澎湖島の西部に位する媽宮(馬公)は海軍の要港にして、又要塞の設けあり。

下篇 人文地理

第一章 住民

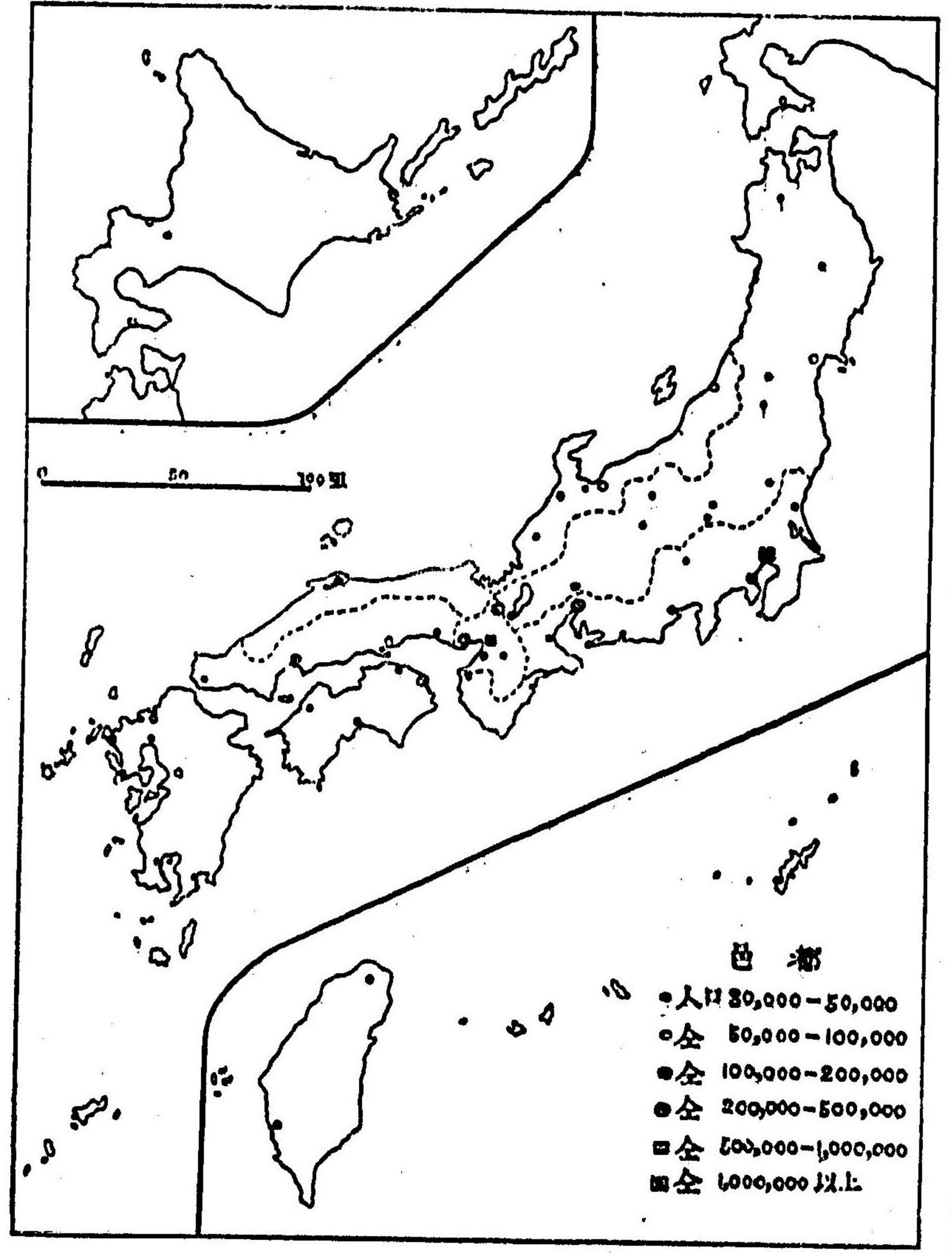
北州のアイヌ種族、
メソポタミア人の及ぶ
漢種族に就ては、
見よ。

一 種族。我が國の住民を四種族に分つ、其の最多數を占むるは大和種族なり。此の種族は列聖の愛撫を蒙り、歴代の徳澤に霑へる結果、融化して一團の民族を成し、言語、風俗、習慣を一にし、且つ巧妙の技藝に長じ、忠勇の精神に富めども、公德を欠き、小成に安んじ、忍耐に乏しき、欠點あり。

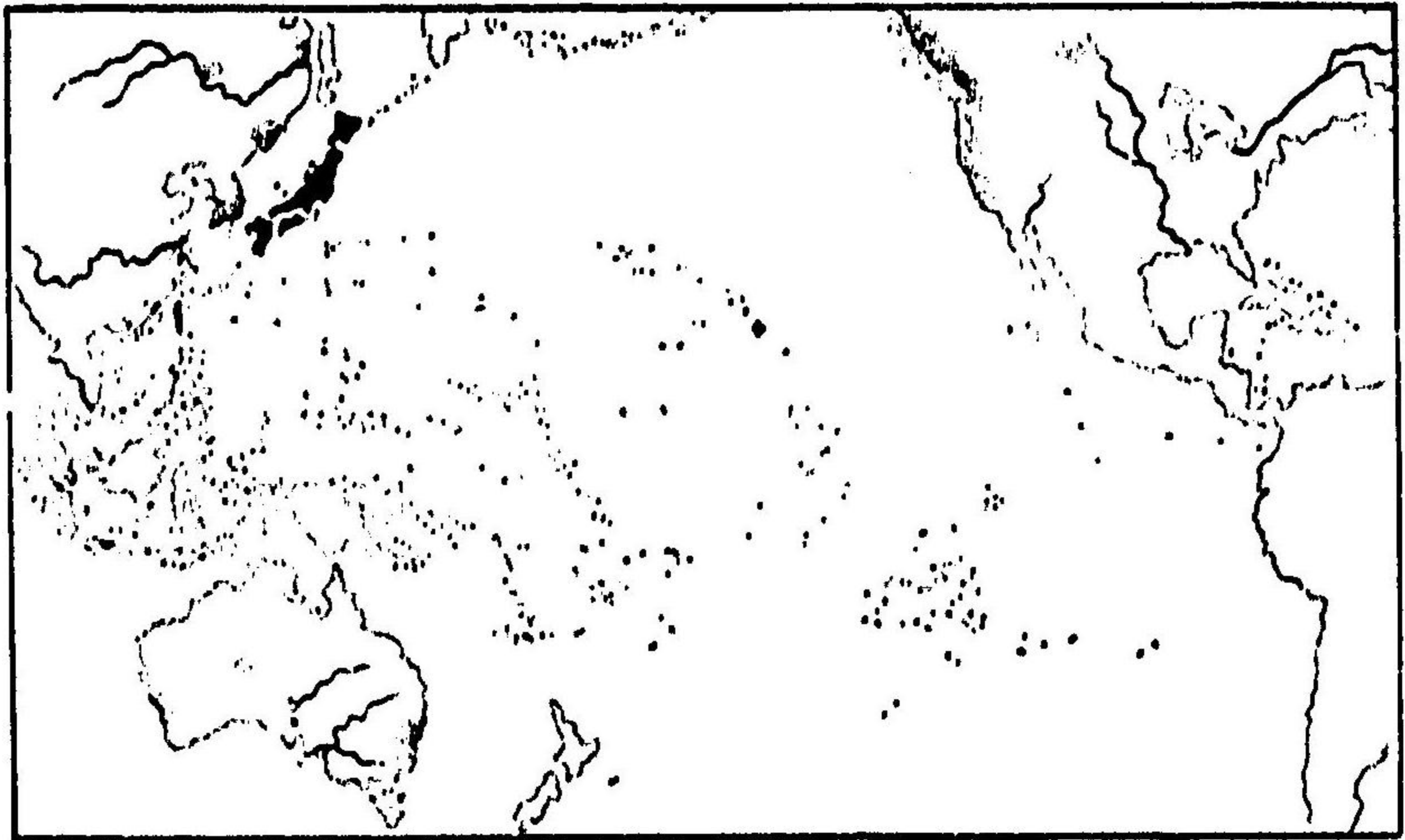
二、四族。我が國には皇族及び臣民の別あり、臣民は更らに華族、士族、平民の三族に分る。

皇族は皇室典範により定められし皇室の御親族にして、

主 要 都 府 の 分 布



日 本 人 口 の 分 布



最も疎なり、而して東山道は凡そ全國の平均に位す。又行政區劃に就て云はゞ、最も密なるは東京・大阪の二府にして、香川・神奈川・愛知・福岡の四縣これに次ぎ、最も疎なるは北海道にして、岩手・宮崎・青森・秋田の四縣これに次ぐ。人口の増加も頗ぶる盛んにして、毎年凡そ五十萬なり、故に北海道移住と海外植民とは最も奨勵すべきことな

り。

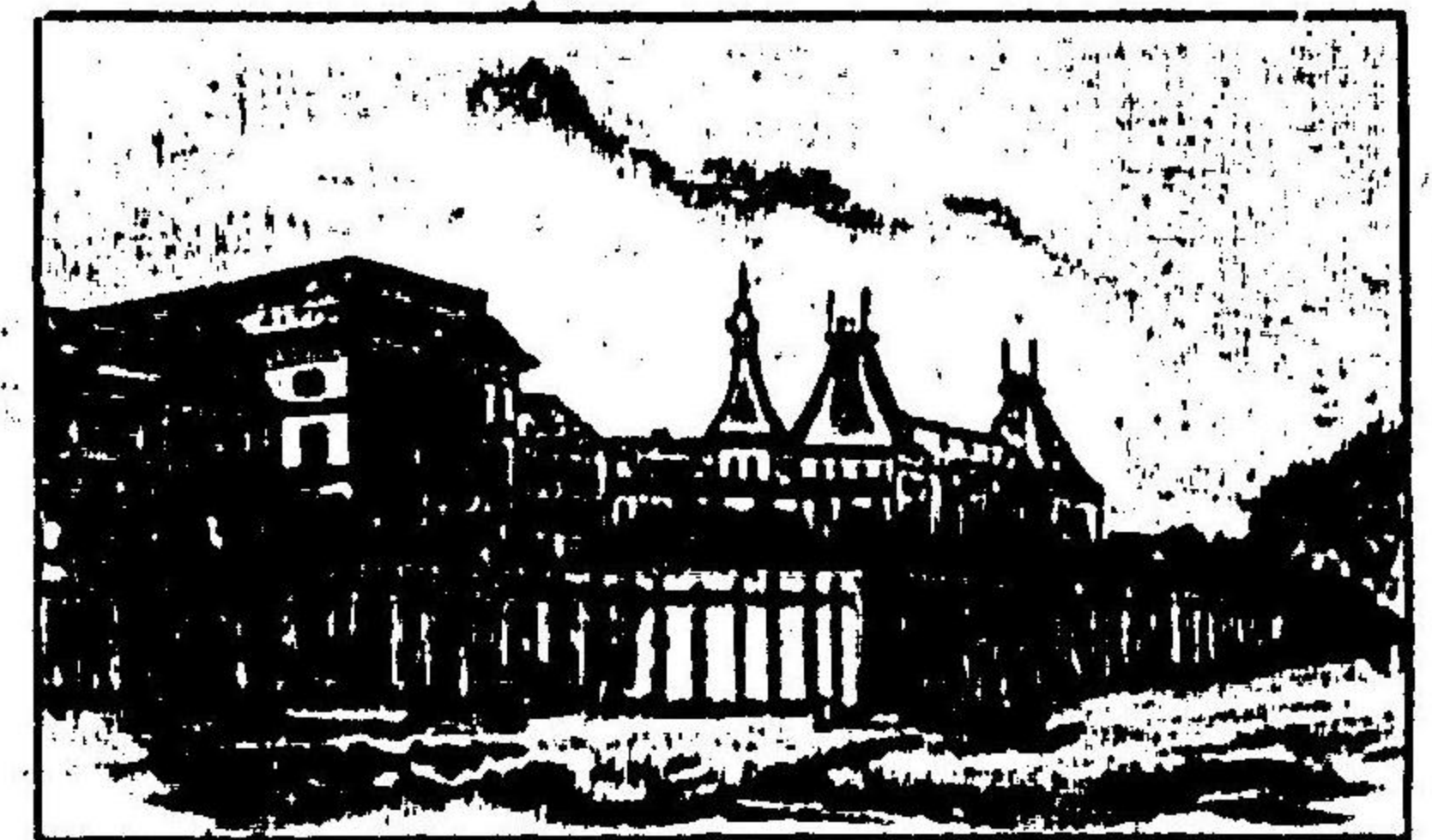
海外に在留する我が國人は、次第に多きを加へ、其の數凡そ十二萬にして、ハワヰに最も多く、韓國及び北アメリカ合衆國これに次ぐ。これ等の在留者は、能く體面を保ち、品性を慎み、苟くも日本國民の名聲を汚す所爲なき様心懸けざるべからず。

我が國に在留する外國人は、其の數未だ多からずして、僅かに一萬餘なり、其の半は清國人にして、イギリス人及び北アメリカ合衆國人これに次ぐ、而して横濱及び神戸に住するもの最多數を占む。これ等の外國人をば特にこれを優待し、其の本國との關係を一層親密にし、且つ我が國の真相を正當に紹介せしむる基を作るべし。

人口の男女別を見るに、我が國に於ては、男子の數遙かに多く、其の差凡そ五十萬ありて、イギリス國とは正に反對なり。然れども我が國の各部に就てこれを見れば、男子の數却て少き所なきに非ず。

四、教育。 日清戰役後、教育は非常の進歩を致し、就中初等教育は漸く普及し、全國小學校の數三萬に達せんとすれども、全國凡そ八百萬の學齡兒童中、尙ほ凡そ四分の一の不就學者あり。中等教育は近來非常に盛大にして、各府縣競て數多の中學校を設立せり。高等教育には東京及び京都に帝國大學あり、東京仙臺京都金澤熊本岡山鹿兒島山口に高等學校あり、千葉仙臺金澤岡山長崎に醫學專門學校あり、北海道に札幌農學校あり。

近時福岡に
醫科大學を
設くる計畫
あり。



東京府第一中學校

陸軍將校の養成には陸軍大學校、海軍大學校、陸軍士官學校、海軍兵學校等あり。華族の教育には學習院及び華族女學校あり。教員の養成には東京及び廣島に高等師範學校、東京に女子高等師範學校、北海道及び各府縣に師範學校あり。

實業教育には東京及び神戸(計畫中)に高等商業學校、東京及び大阪に高等工業學校、盛岡に高等農林學校(計畫中)、北海道及び各府縣に諸種の實業學校あり。て、近來一層の盛大を見るに至れり。女子教育も亦た近來甚だ盛んにして、北海道及び各府縣に高等女學校、所により

京都高等工業學校(計畫中)

ては女子師範學校の設けあり。

其の他公私立の各種専門學校も亦た日を追ひて増加するに至れり。又臺灣には特別なる教育制度を施行せり。



伊勢神宮

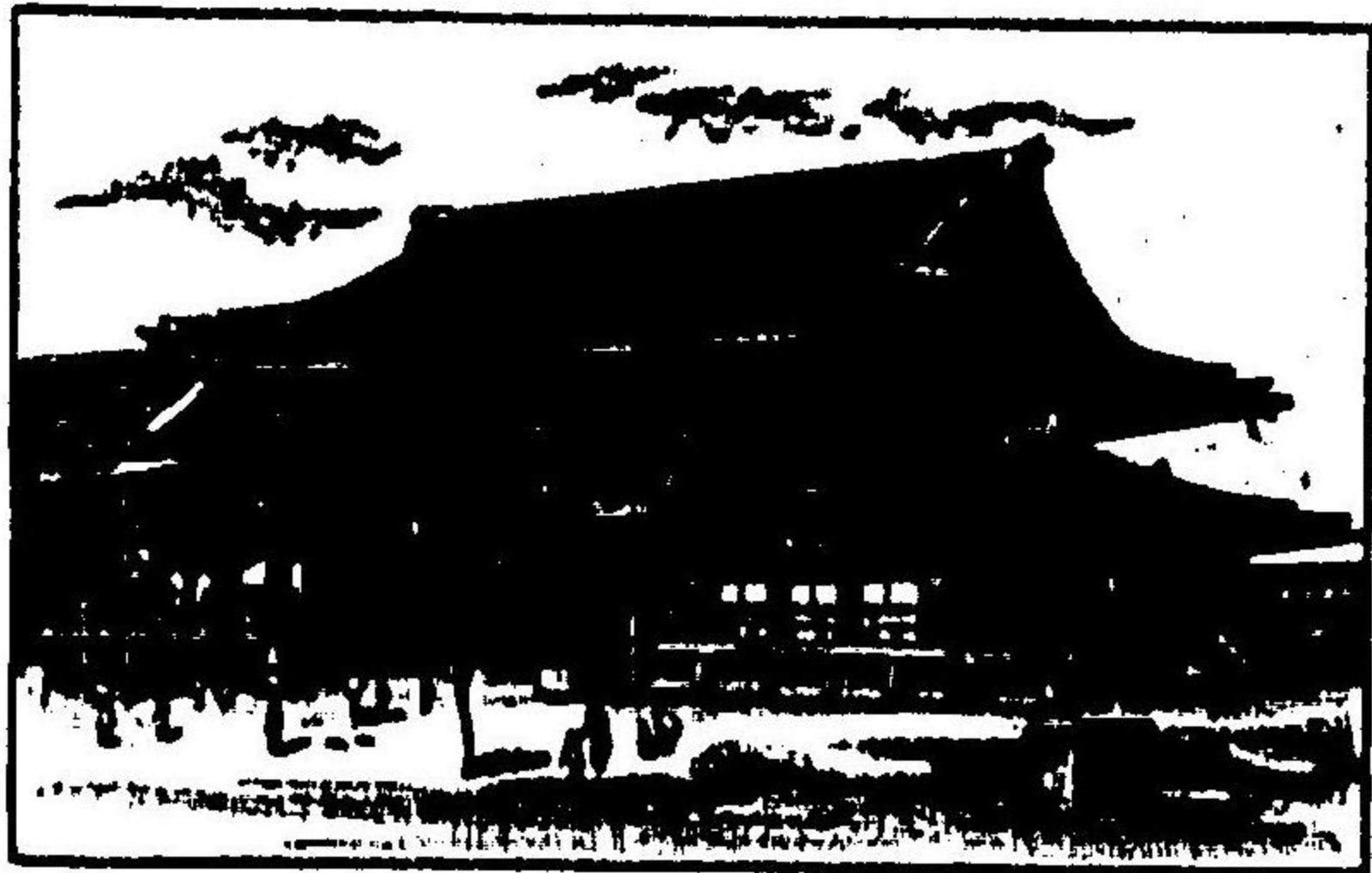
我が國の圖書館及び博物館は、これを外國に比して其の數及び規模共に甚だ小なり。唯帝國圖書館、東京、京都、奈良の三帝室博物館は稍大なり。圖書及び新聞雜誌の發行も、年々増加すれども、西洋諸國に比して其の數尙ほ遙かに少し。

五、宗教。我が國の臣民は國

家の安寧秩序を妨げず、臣民の義務に反せざる限り、に於て、信教の自由を有す。現今我が國に最も行はるゝ宗教に三あり。

其の一、神道は我が國固有の教義に基づきて起れるものにして、其の中自から數多の派に分る。

神社は皇祖皇宗の靈を奉祀し、或は我が國家に勳功忠節を致し、文武の士人を祭る。神社の社格には官幣社、國幣社等數多の別あり。而して國幣社以上は奈良縣及び京都府に最も多く、又別格官幣社の所在



京都東本願寺

地は概ね歴史上の由緒あり。

其の二、佛教は我が國に入りてより、名僧智識の輩出盛ん

なりしかば、人心に浸染せること、他の宗教の遠く及ぶ所に非ず。其の中天台・真言・浄土・臨濟・曹洞・真・日蓮等、數多の宗派に分れ、其の本山及び末寺を合して、寺院の數頗ぶる多し。

其の三、基督教は昔時我が國禁たりしものなれば、信教の自由確立せる現今に於ても、未だ盛んに行はれ



東京ニコライ堂

ざるが如し。

第二章 政治

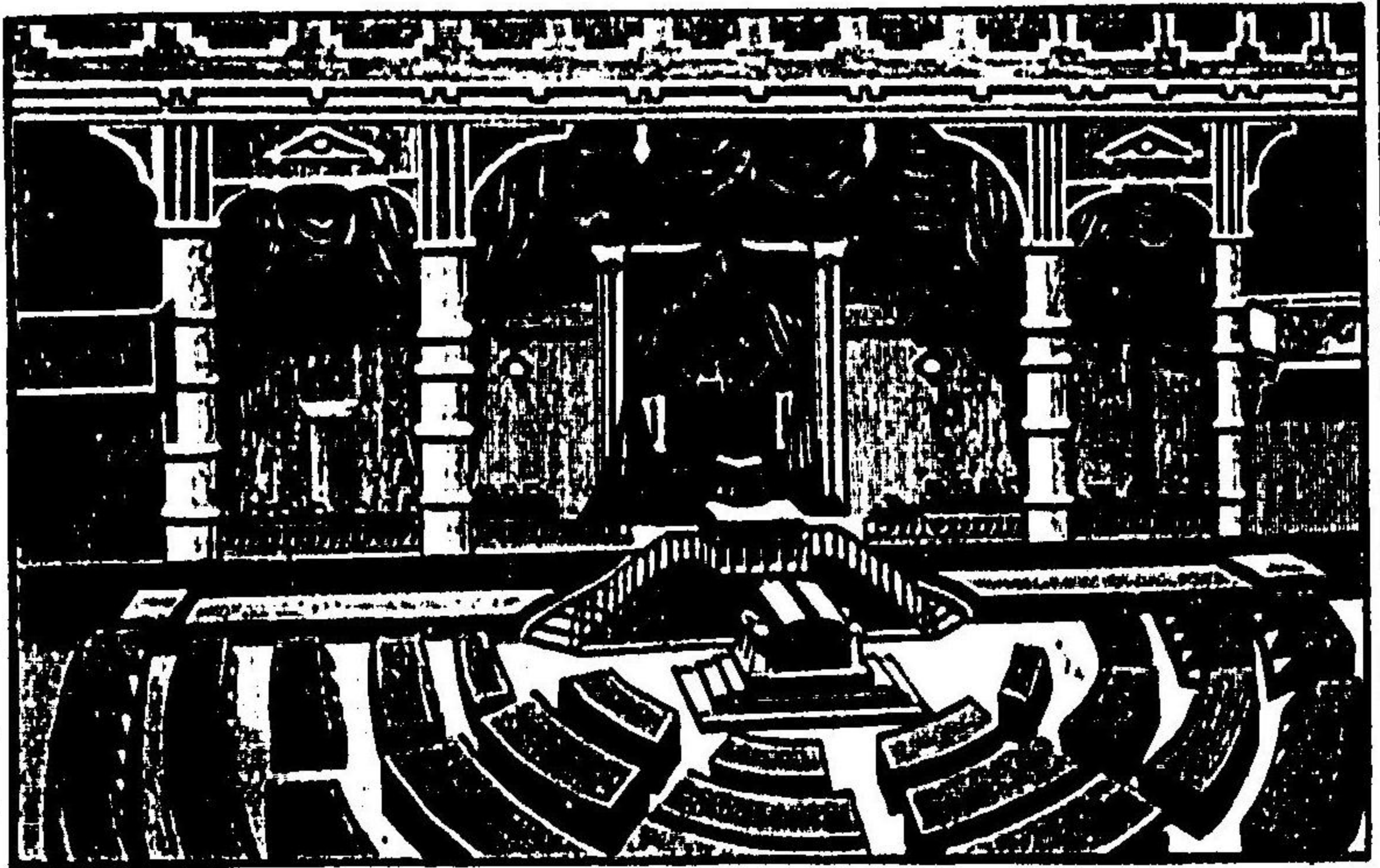
第一節 統治

六、國體及び政體。我が大日本帝國は萬世一系の天皇、これを統治し、玉ふ所にして、これ我が國體の萬國に冠たる所以なり。

天皇は國の元首にして、大權を總攬し、憲法の規定に依りてこれを行ひ、帝國議會の協賛を以て立法權を行ひ、陸海軍を統帥し、戰を宣し、和を講し、諸般の條約を締結し玉ふ。國務大臣は輔弼して百般政務の責に任じ、司法權は天皇の名に於て、法律により裁判所これを行ふ。

七、帝國議會。帝國議會は貴族院及び衆議院より成る。

貴族院議員
の数は凡そ
三百人あり
改正の法律
に議院の協
賛を得ば衆
議院議員の
数は三百七
十人あり



(帝國議會)貴族院議場

帝國議會は政府より提出せる法律案を議決し、又自ら法律案を提出議決する外、人民の請願を受理し、政府に建議し、天皇に上奏することを得。國家の歳入歳出は、毎年豫算を以て帝國議會の協賛を経ざるべからず、但し先づこれを衆議院に提出することを要す。

八、行政部。行政部は内

閣の外、外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信の九省

沖繩の郡に
は長又は島
司を置く。

あり、各省には主務の大臣ありて、内閣總理大臣これを統一す、これを中央機關とす。地方には道廳に長官、府縣に知事ありて、主務大臣の指押監督を受け、部内の政務を行ふ。道廳、府縣の區分たる支廳、區、市、郡、町、村には各其の長を置く。勅令を以て指定する所の島地には、特に島廳を置き、島司これを支配す。

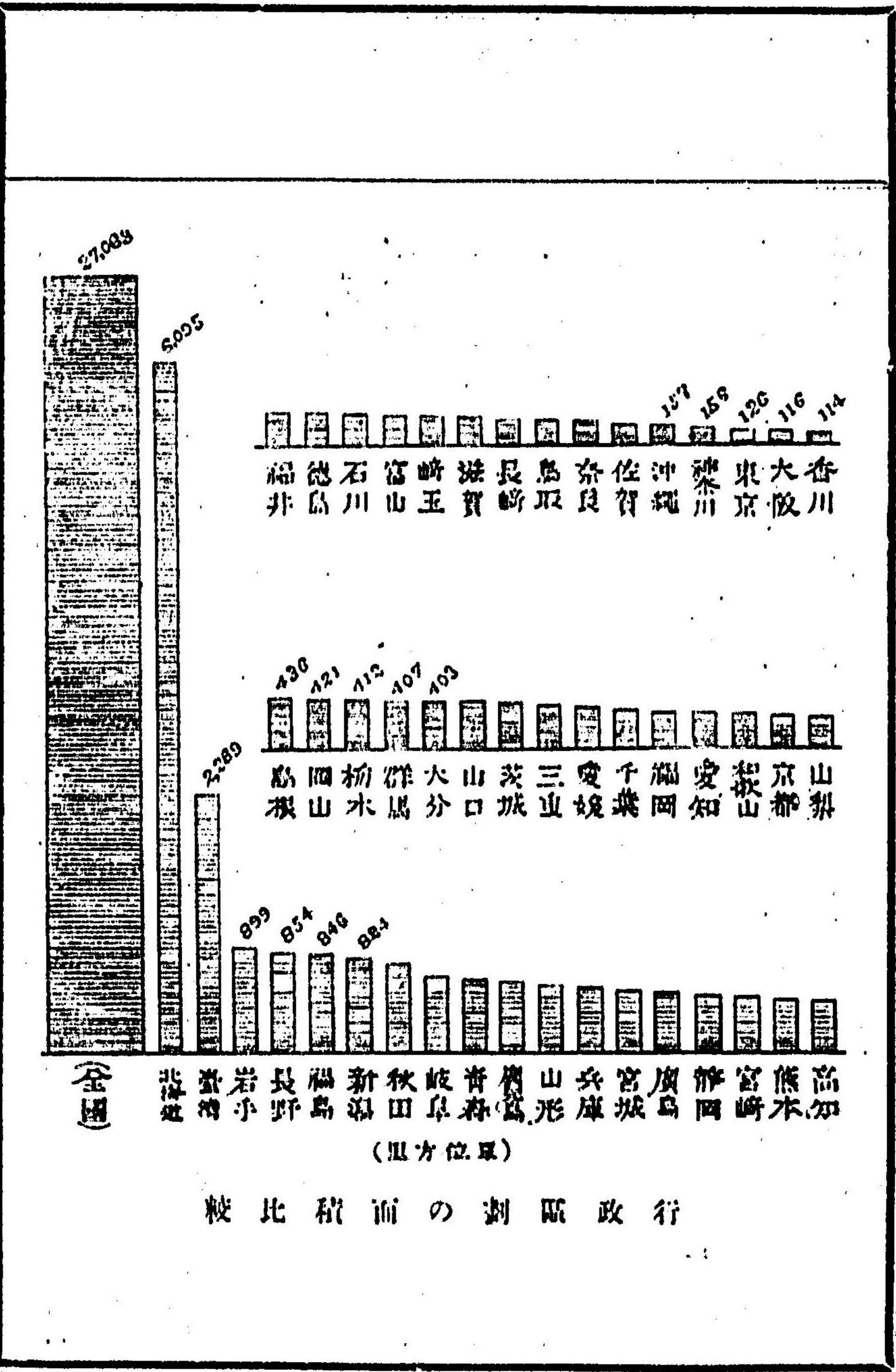
臺灣には臺灣總督ありてこれを管轄し、委任の範圍内に於て、陸海軍を統率し、内務大臣の監督を受け、諸般の政務を統理す。而して全土の區分たる廳及び辨務署に長を置き、部内の政務を行はしむ。

樞密院は天皇親臨して重要な國務を諮詢し玉ふ所にし、會計検査院は官金の收支、官有物國債に關する計算を検

査確定して、會計を監督す。行政裁判所は行政訴訟の事件を判決す。

宮内省は帝室に關する一切の事務を掌り、兼て又華族を監督す。宮内省は行政部の外なり。

九、裁判所。裁判所には四つの階級あり。最下級は區裁判所にして、全國に凡そ三百あり。其の上は地方裁判所にして、各府縣に各一つ、北海道に三つ(根室、函館、札幌)あり。又其の上は控訴院にして、東京、大阪、名古屋、廣島、長崎、仙臺、函館の七所にあり。最高級は大審院にして、東京に唯一つあるのみ。又臺灣には特別なる司法制度を施行せり、臺灣總督府法院を分て地方法院及び覆審法院とす、地方法院は臺北、臺中、臺南の三所に、覆審法院は臺北にあり。



行政區劃の面積比較

沖繩縣は區
及郡を切
ち郡と分
つ。

元帥府は軍
事上の於て
大元帥の最
高顧問とし

一〇行政區劃。普通の行政區劃は三府四十三縣北海道及び臺灣にして、其の面積は甚しく不同あり。北海道は更らに十八の支廳と、三つの區とに分れ、支廳の下に町村あり、臺灣は二十の廳に分れ、廳の下に辨務署あり。府縣は細分して市郡とし、郡は更らに細分して町村とす。

舊時の區劃によれば、我が國を畿内八道に分ち、更らにこれを八十五國に分てり、(臺灣は勿論此の外なり)。

第二節 兵制

一一兵役の種類。帝國の男子は、滿十七歳より四十歳まで、悉く兵役の義務を有す。兵役の種類を分て、常備後備補充國民の四種とし、常備兵役を分て、現役及び豫備役とし、國民兵役を分て、第一第二の二種とし、又陸軍に於ては、補充

て特元帥
の稱を賜
はりたる
はりたる
海軍大將
に列す。

歩兵一旅團
は二聯隊
聯隊は三
隊は大
四隊は

兵役を分て第一第二の二種とす。

警備隊を置きたる島嶼の壯丁は、すべてこれを警備隊に充て、其の地に於て服役せしむ、但し在營期限は一年とす。

一二陸軍。我が國を十二師管に分ち、各師管に師團を置く、此の外に近衛師團あり、即ち全國の陸軍を編制して、近衛及び十二師團とす。一師團は通常歩兵二旅團騎兵一聯隊、野戰砲兵一聯隊、工兵一大隊、輜重兵一大隊より成り、其の兵數平時は凡そ一萬人なり。師團司令部所在地は左の如し。

號	地名	號	地名	號	地名
近衛	東京	第一	東京	第二	仙臺
第三	名古屋	第四	大阪	第五	廣島

第六 熊本 第七 旭川 第八 弘前

第九 金澤 第十 姫路 第十一 丸龜(普通寺)

第十二 小倉

臺灣の守備兵には三個の混成旅團あり、以上の師團中より交代衛戍す。又東京灣、山良舞鶴、下關、函館等に要塞を設け、其の地帯には猥りに立入り、又は見取圖等を作製することを許さず。

都督部。全國を東部、中部、西部の三都督部の所管に區分す、但し各都督部の位置はすべて東京にあり、都督は所管の防禦計畫に任じ、又國防の事に參與す。

參謀本部及び教育總監部。參謀本部は國防及び用兵の事を主どり、教育總監部は陸軍全般教育の齊一進歩を規畫

す。

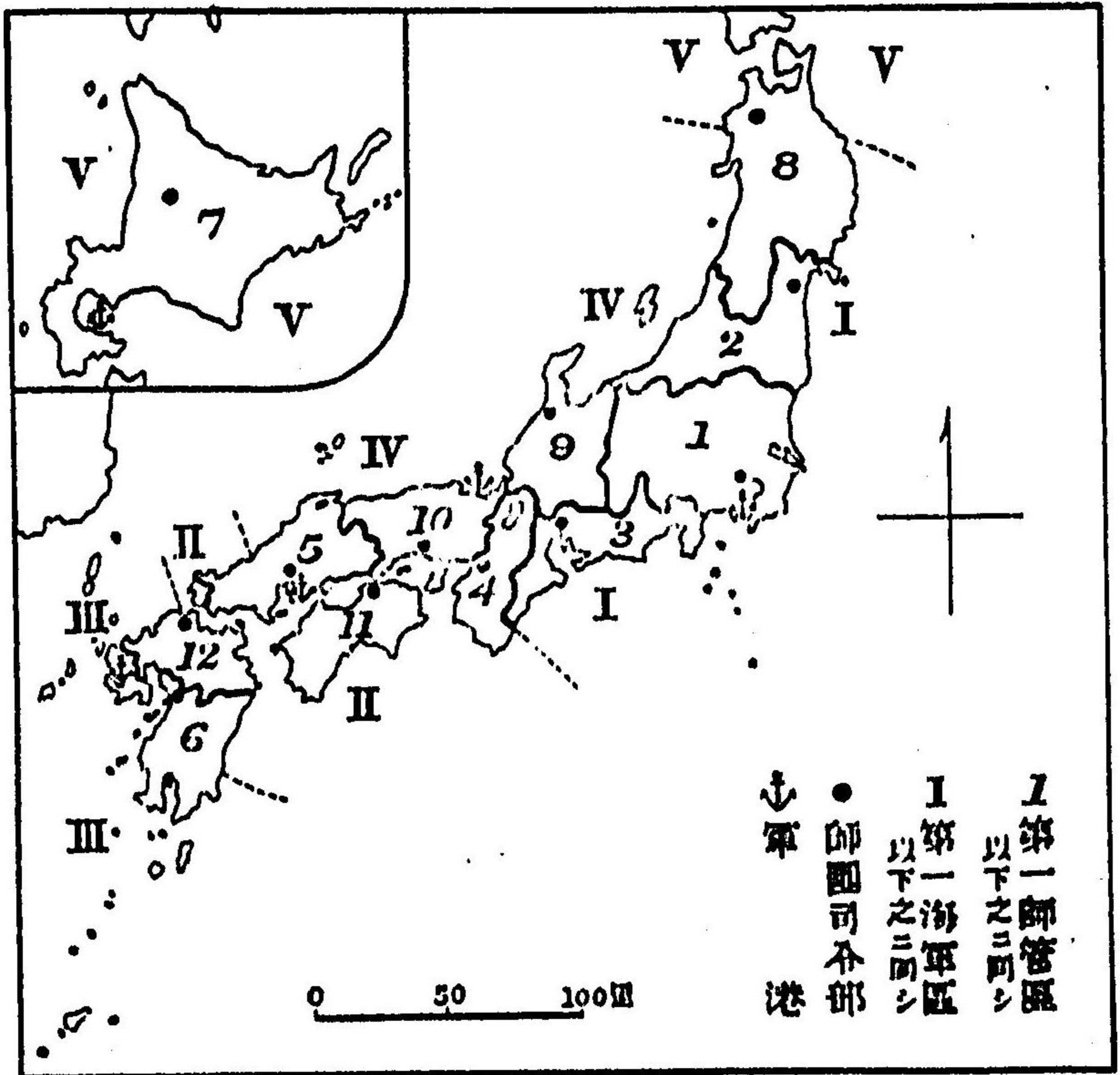
一三、海軍。海軍區軍港及び鎮守府。全國(臺灣を除く)の海岸及び海面を五海軍區に分ち、其の軍港に置く所の鎮守府をしてこれを管せしめ、鎮守府の名稱は其の軍港所在地名を冠せしむ。鎮守府の所在地は左の如し。

- | | | | |
|-----|---------|-----|----|
| 海軍區 | 軍港 | 海軍區 | 軍港 |
| 第一 | 横須賀 | 第二 | 吳 |
| 第三 | 佐世保 | 第四 | 舞鶴 |
| 第五 | 室蘭(未開廳) | | |

海軍々令部及び海軍教育本部。海軍々令部は國防及び川兵の事を主どり、海軍教育本部は教育訓練を監督す。

軍人及び艦艇の總數。海軍々人の總數は凡そ三萬軍艦

師管區及び海軍區



の數は凡そ七十隻にして、其噸數凡そ二十七萬噸、又水雷艇の數は凡そ八十隻なり。

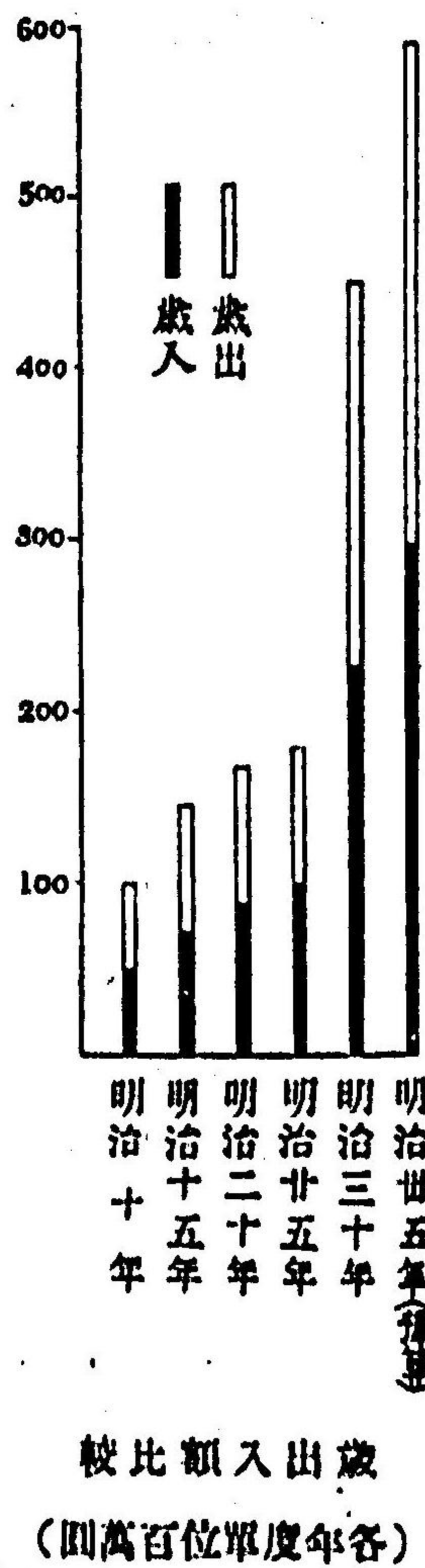
第三節

財政

一四、歳入

及び歳出。日本臣民は帝國憲法により、法

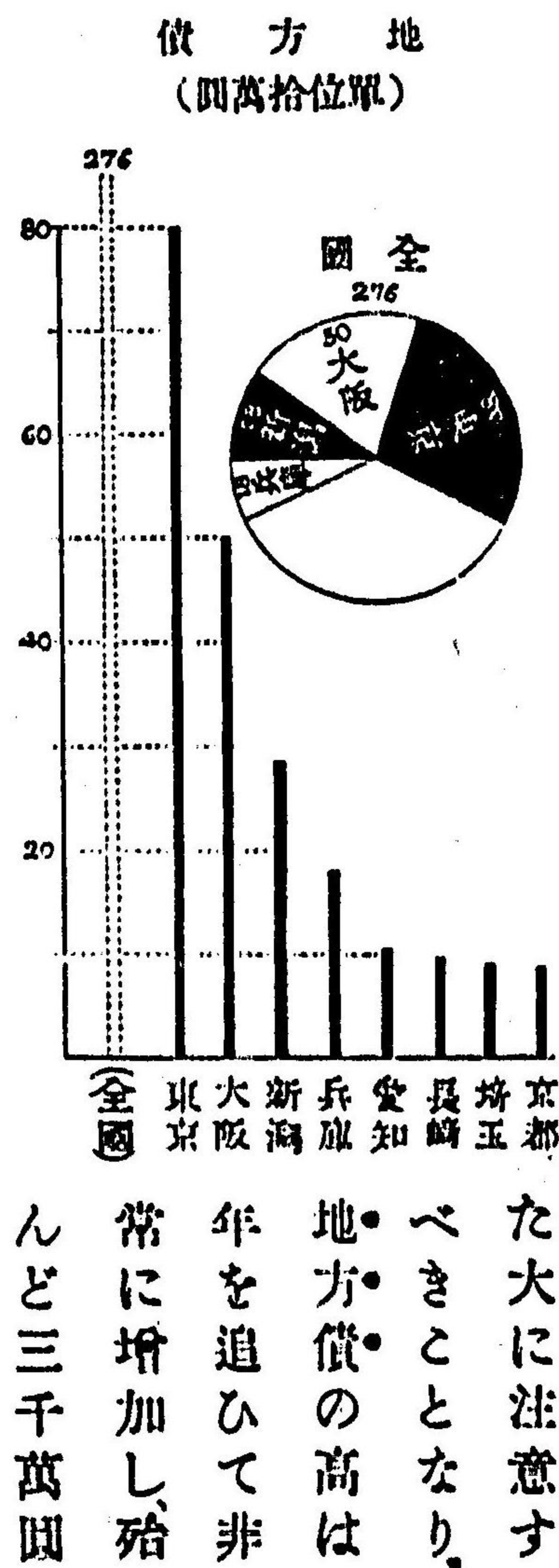
律の定むる所に従ひ、納税の義務を有す。我が國の歳出は明治二十七八年までは、凡そ一億圓なりしが其の後軍備の擴張、新事業の經營等により、一躍して殆んど二億圓となり、明治三十五年度の豫算に於ては殆んど三億圓に達し、歳入



も亦たこれに隨て膨脹し、これを増税、債金繰入及び公債募集等に仰ぐに至れり。地方費の支出は年を追ひて頻りに増加し、且つ臺灣總督府の經費は、尙ほ一般歳入より巨額の

補充を要す、故に國家財政の前途は大に注意を要せざるべからず。

一五、公債。國債の高は凡そ五億圓にして、此の中外國債は凡そ一億圓なり、これを他の文明諸國に比して未だ大なりと云ふを得ず。且つ歳出の額年を追ひ大なるを以て、國債の増加は自から免かるべからざる勢なれども、これ亦



に達し東京及び大阪二府最も多し。地方債の急劇なる増加は其の地方の資力に影響を及ぼすが故に其の弊害決して輕視すべからず。

第四節 外交

一六、我が國の條約國。

現今我が國と通商條約を結べる國はすべて二十三あり。

- アジアの部。 韓。 清。 シヤム。
- ヨーロッパの部。 イギリス。 フランス。 ドイツ。 オーストリア。 ハンガリー。 ロシア。 イタリア。 スウェーデン。 ノルウェー。 デンマーク。 オランダ。 ギリシア。

- アメリカの部。 北アメリカ合衆國。 メキシコ。 ペルー。
- 1. ブラジル。 アルジェンチン。
- アフリカの部。 コンゴ獨立國。

右の中、舊時より今に至るまで最も親密の關係あるものは、清韓兩國にして、徳川時代に於て、西洋の文明を輸入せしものはオランダなり。然れども現今關係の最も重きは、清韓の外、イギリス、ドイツ、フランス、ロシア、北アメリカ合衆國の五國とす。

第三章 産業

第一節 山林業

一七、山林の効用及び保護。 山林は氣候を調和し、水



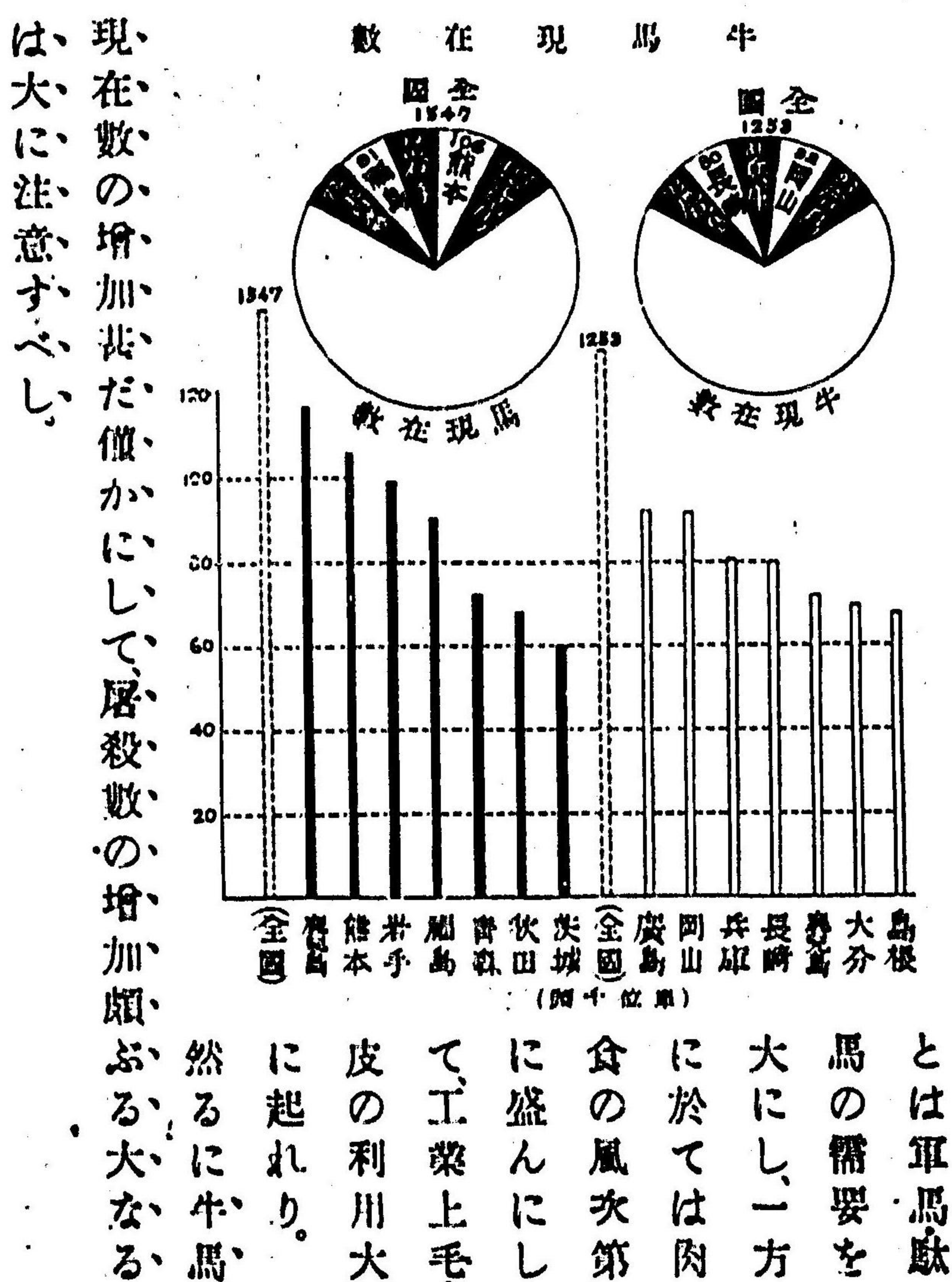
搬運木材季冬の州北

源を涵養し、國土の保安、風景の保存等に著しき關係を有し、主産物としては、木材、竹材を出だし、副産物としては、樹實、樹葉、柴草等を出だす。故に維新前に於ては、山林伐採の制極めて嚴なりしが、維新後濫伐の弊大に起れり。現今政府は我が國沖繩、北海道、臺灣を除くを十六大林區

に分ち、國有林の保管及び利用を掌らしめ、又地方に於ても林業の發達を計れり。

第二節 牧畜業

一八、我が國の牛馬。 近來軍備の擴張と、交通の發達



現在數の増加甚だ儼かにして、屠殺數の増加頗ぶる大なるは、大に注意すべし。

臺灣に於ては水牛及び豚の飼養盛んなり。

總獵は黒潮の流に製鹽の湖内盛んなり。

我が國を通じて牛は凡そ百三十萬頭、馬は凡そ百六十萬頭あり、其中、牛の産地は中國及び九州を主とし、中國は總數の三割を占む。馬の産地は奥羽及び九州を主とし、奥羽は總數の三割を占め、鹿兒島縣は牛馬を通じて殆んど二十萬頭を有す。又全國乳牛の數は僅かに二萬餘頭にして、其の七分の一は東京府にあり。

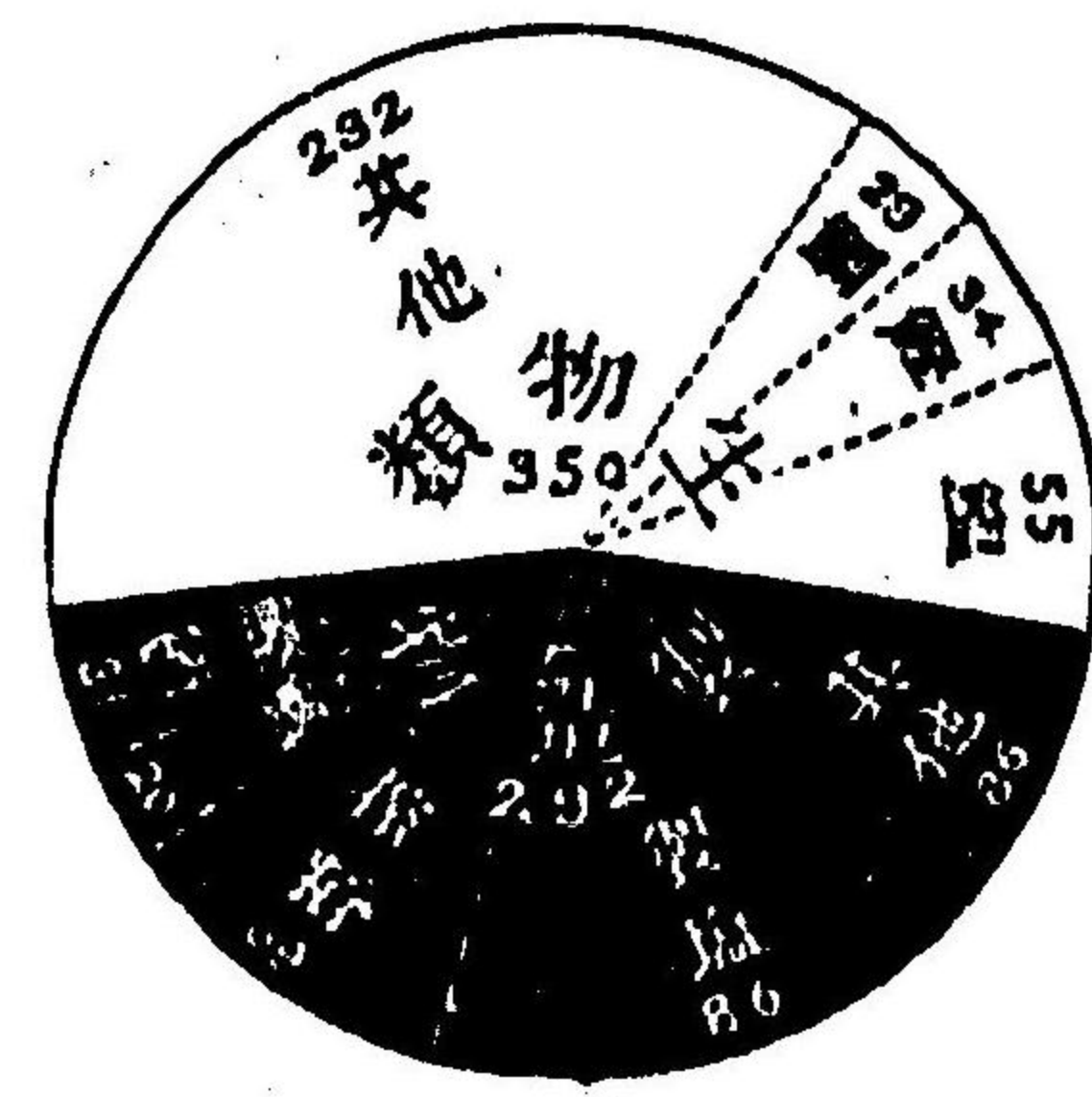
明治三十三年清國事變の經驗によれば、我が國軍馬の性質は、外國に比して著しく劣等なりと云ふ。

第三節 水産業

一九、我が國の水産。我が國の海岸及び近海は、水産の種類と分量とに富めること、世界中其の比少し。然れども其の産額尙ほ多からざるは、重もに漁業者の少きこと、漁

具の不完全なると、遠洋漁業をなさざると、外國密獵船の跋扈するに由る。

清國人は水産物を嗜好すること甚だしく、鰻鱺の如きは其の最も珍味とする所なり。斯



水産物産額種類別 (單位拾萬圓)

く我が國水産物の大需要地あれども、我が國より外國へ輸出する總額甚だ少きは、大に惜むべし。水産物の産額は北海道を第一とし、製鹽を除けば、千葉、静岡、二縣

其の次に位し、長崎、三重、山口、三縣又これに次ぐ。生物に於ては、鰻を第一とし、鰻及び鯛これに次ぎ、製造物に於ては、製鹽及び樟腦(鰻鱺)を第一とし、鰻節及び鰻これに次ぐ。



茶 製

第四節 農業

二〇、我が國の農産。

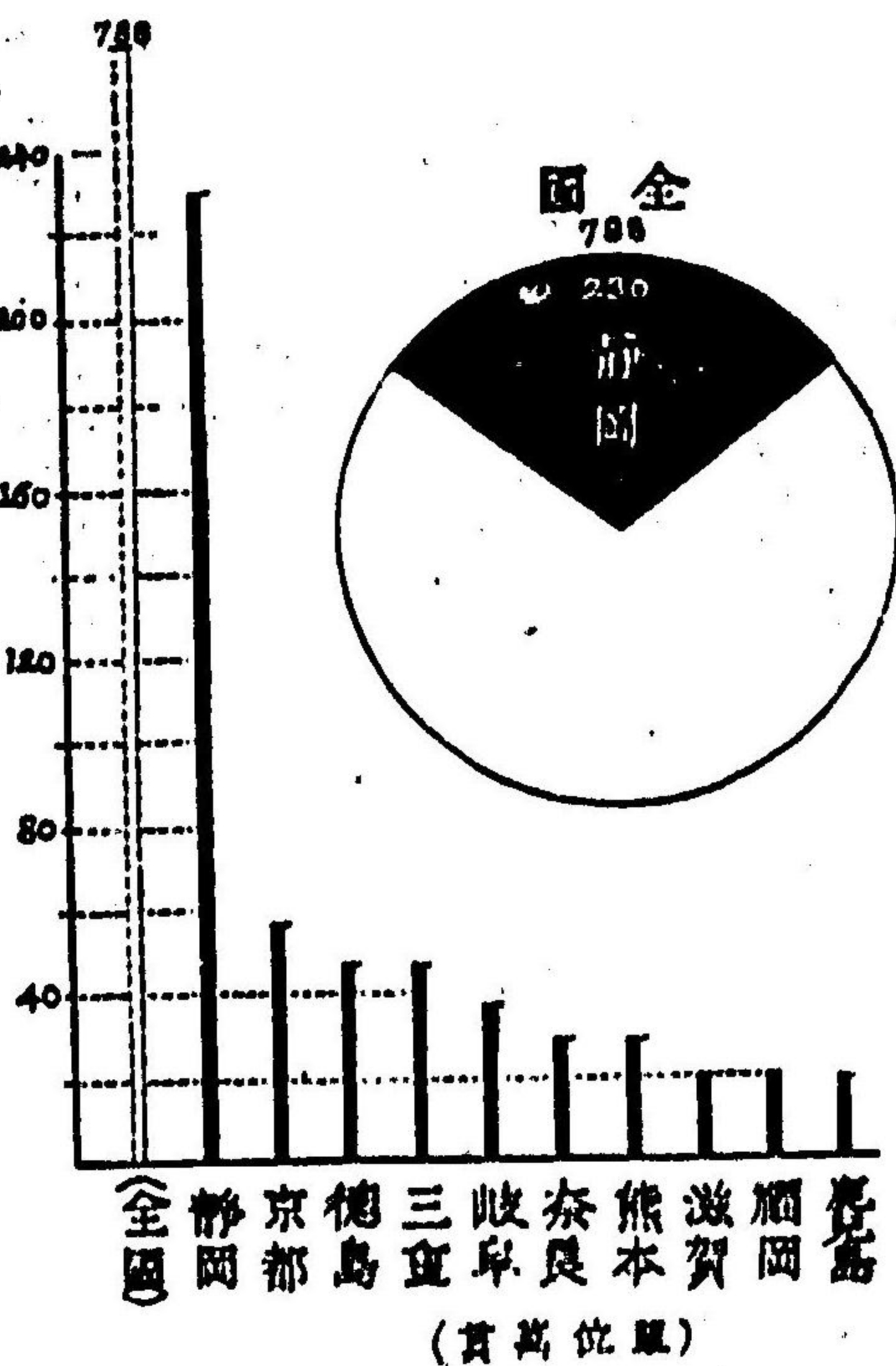
我が國古來農を以て國の本とせるに係はらず、現今は奢侈の増長、人口の増加、其他諸般の源因によりて、米の需要次第に増加し、年によりては外國米の輸入も亦た少からず。

米の收穫高は新潟縣を第一とし、兵庫、福岡、愛知等の諸縣これに次ぐ。又一

反歩に就て云ふときは、畿内及び北陸地方を第一とす。

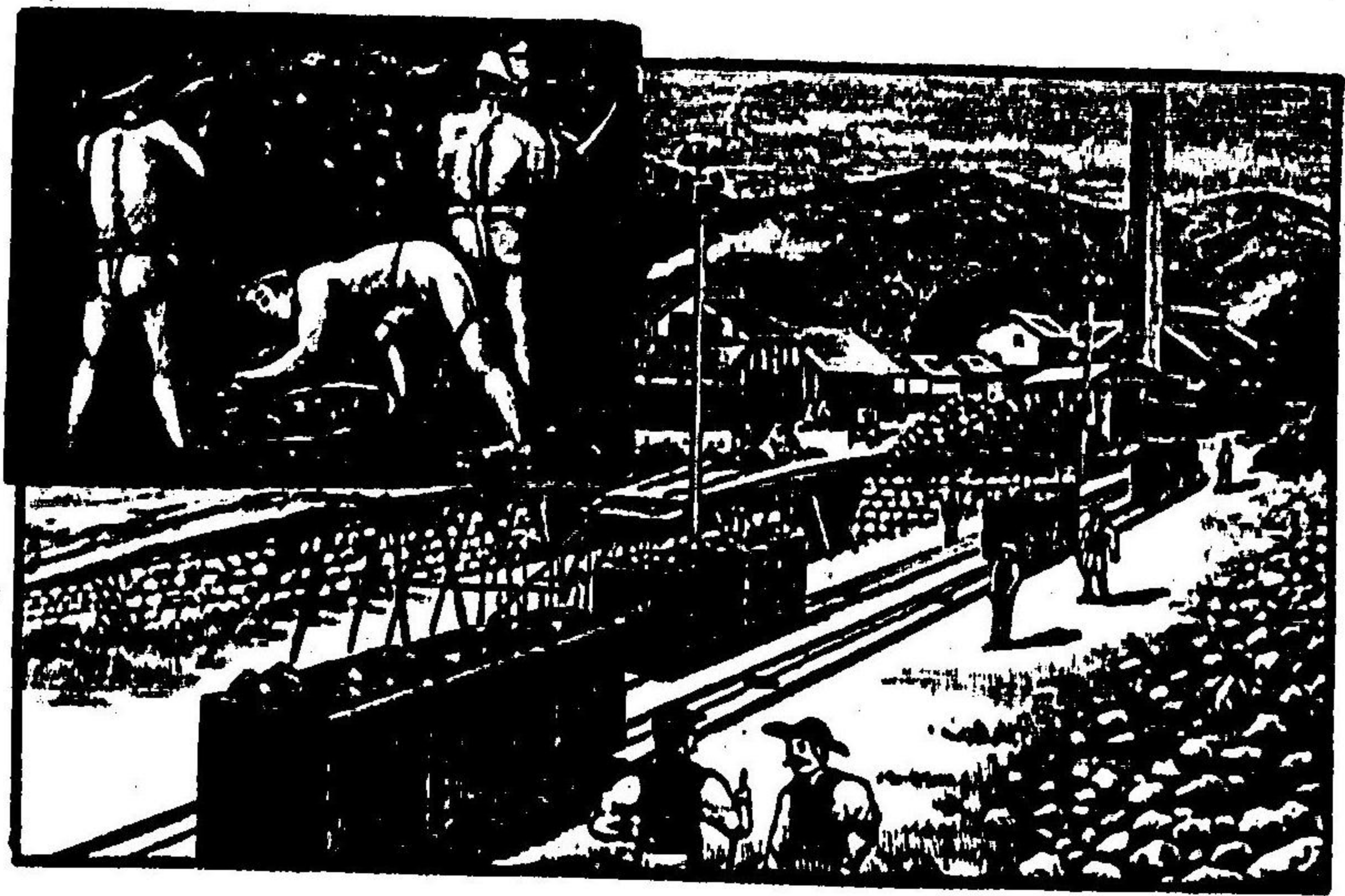
麥の收穫高は埼玉及び茨城二縣に最も多く、奥羽を通じて凡そ埼玉一縣に等し。

製 茶 産 額



は静岡縣の産多し、又烏龍茶の製造は臺灣の臺北四近に最も盛んなり。

茶畑の多きは静岡縣にして、全國の四分の一を占め、京都府及び三重縣これに次ぐ。製茶の中玉露は京都府、煎茶



三池炭山の部

第五節 鑛業

一一 我が國の鑛産

我が國鑛物の種類に就ては、上篇を見るべし、其の産額は石炭を第一とし、銅これに次ぐ。

石炭は九州北部(筑豊地方)を第一とし、北海道これに次ぎ、佐賀、長崎、福島三縣又これに次ぐ。銅は栃木縣(足尾)を第一とし、愛媛(子)及び秋田の二縣これに

次ぐ。銀は秋田、岐阜二縣を推し、金は鹿兒島及び新潟(相川)二縣を推し、鐵は岩手縣(釜石)を第一とす。

近時工業の盛大と、薪炭に代用する如き普通燃料として



の需要増加と共に、石炭の消費

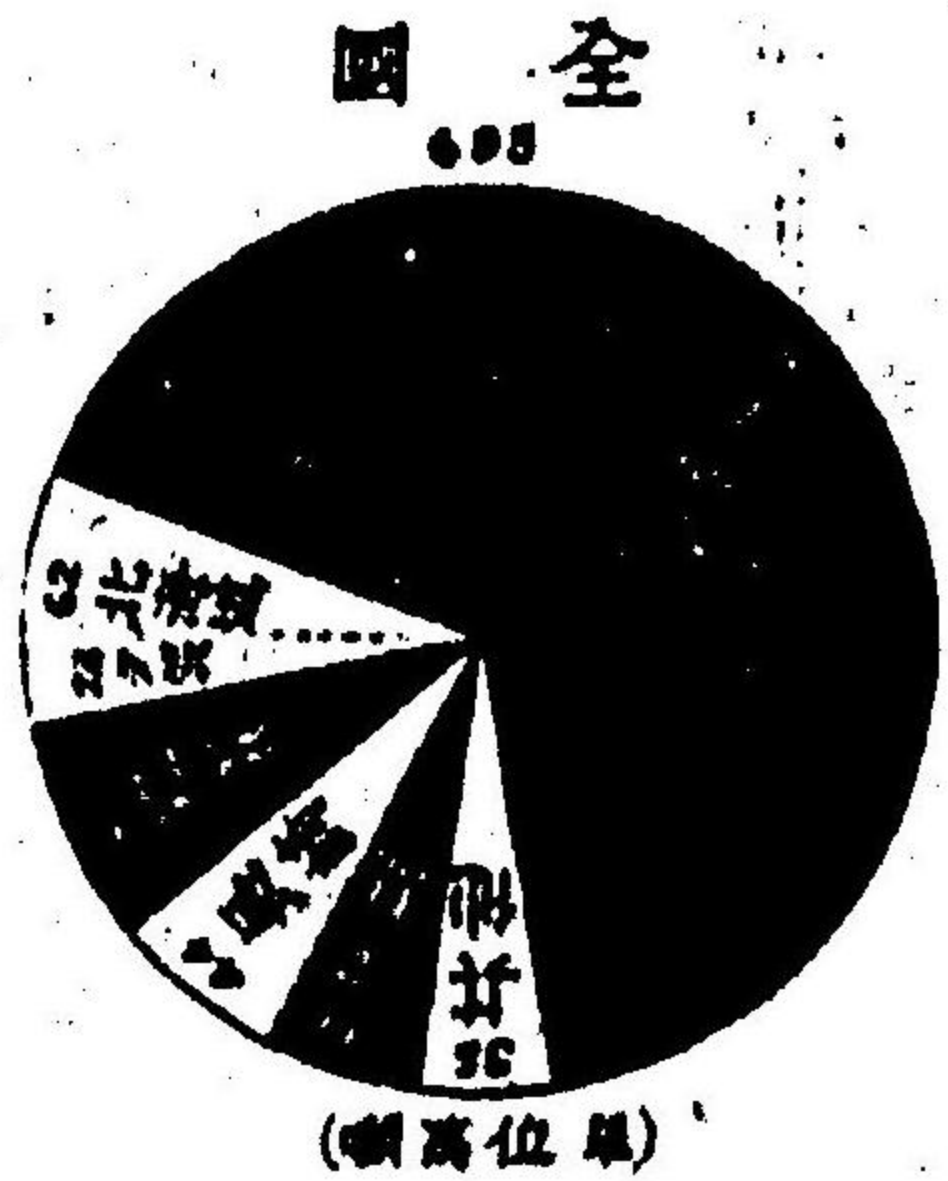
石炭は非常に増加し、海外への輸出

も亦た盛んなり。又政府は福

岡縣枝光に製鐵所を設け、製鐵

の事業を開き、廣島縣吳に製鋼

所の設立を計畫せり。



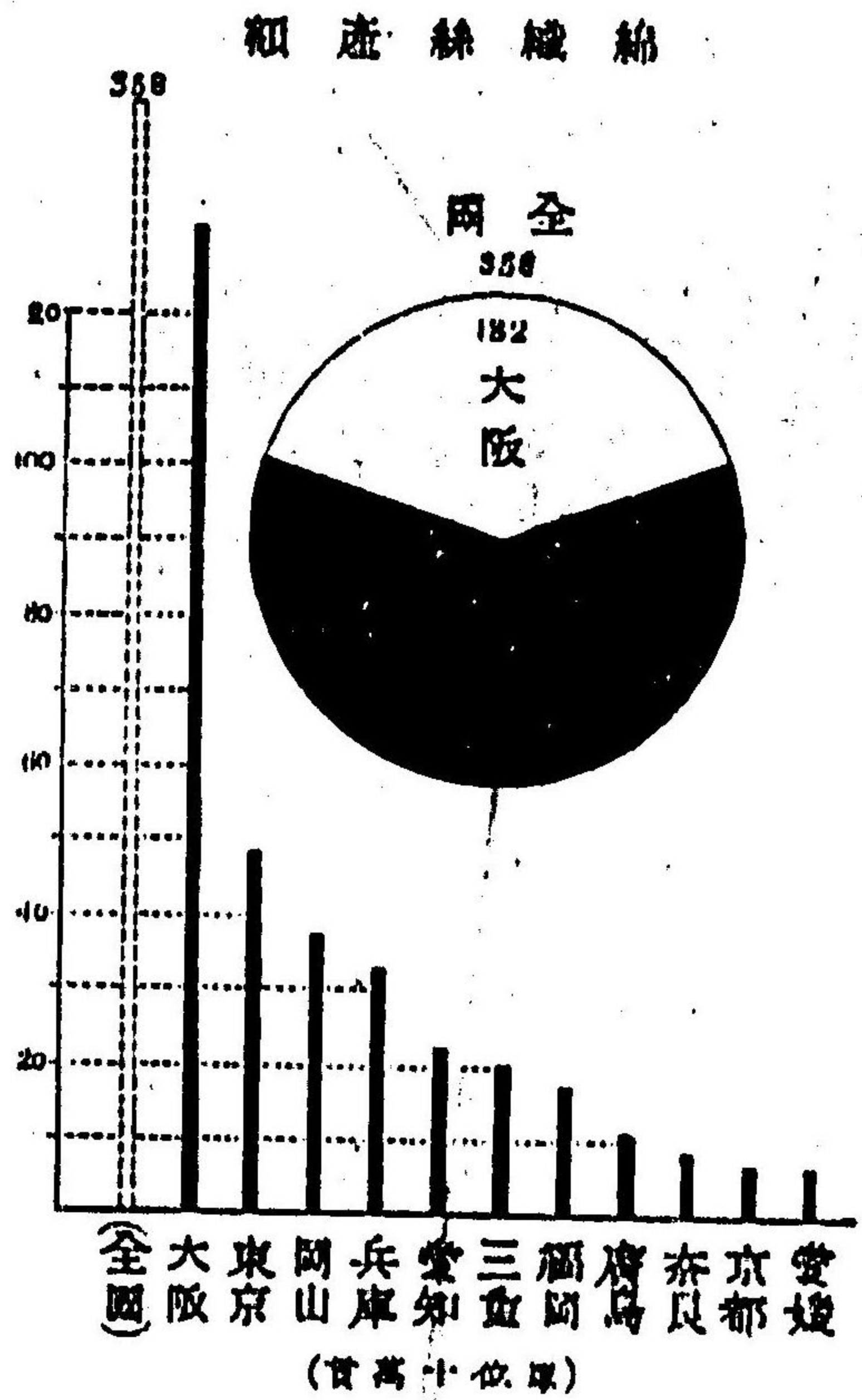
第六節 工業

一二 我が國の工業

我が國は石炭と水力とに富み、大に原動力を起し得べく、又東洋及び南洋交通の衝に位し、こ

我が國は面積大ならずして人口の増加非常

なり故に農
業のみにて
は成立する
こと能はず。



使用によりしも、維新後は機械の應用盛んに行はれ、日清戰役後特に非常なる進歩をなしたりと雖ども、工業國としては、尙ほ遙かに他の文明國の下に立てり。

工業中最も注意すべきは綿絲紡績なりとす、其の原料は

れより原料
品を採り得
べく、我が國
工業の將來
は極めて有
望なり。維
新前は主と
して人力の



印刷局

主としてこれを印度より、又一部はこれを北アメリカ合衆國及び清國より輸入し、其の製品たる綿織絲は、内國の需要に供する外、盛んに海外(主として清國)に輸出し、輸出品中第三位を占む。此の工業は大阪府に最も盛んにして、東京府

岡山、兵庫、愛知三縣これに次ぐ。

綿絲紡績と共に盛大なるは絹絲製造にして、生絲は輸出品中の第一位を占む。此の業は養蠶業の盛大なる地方に最も盛んなり。

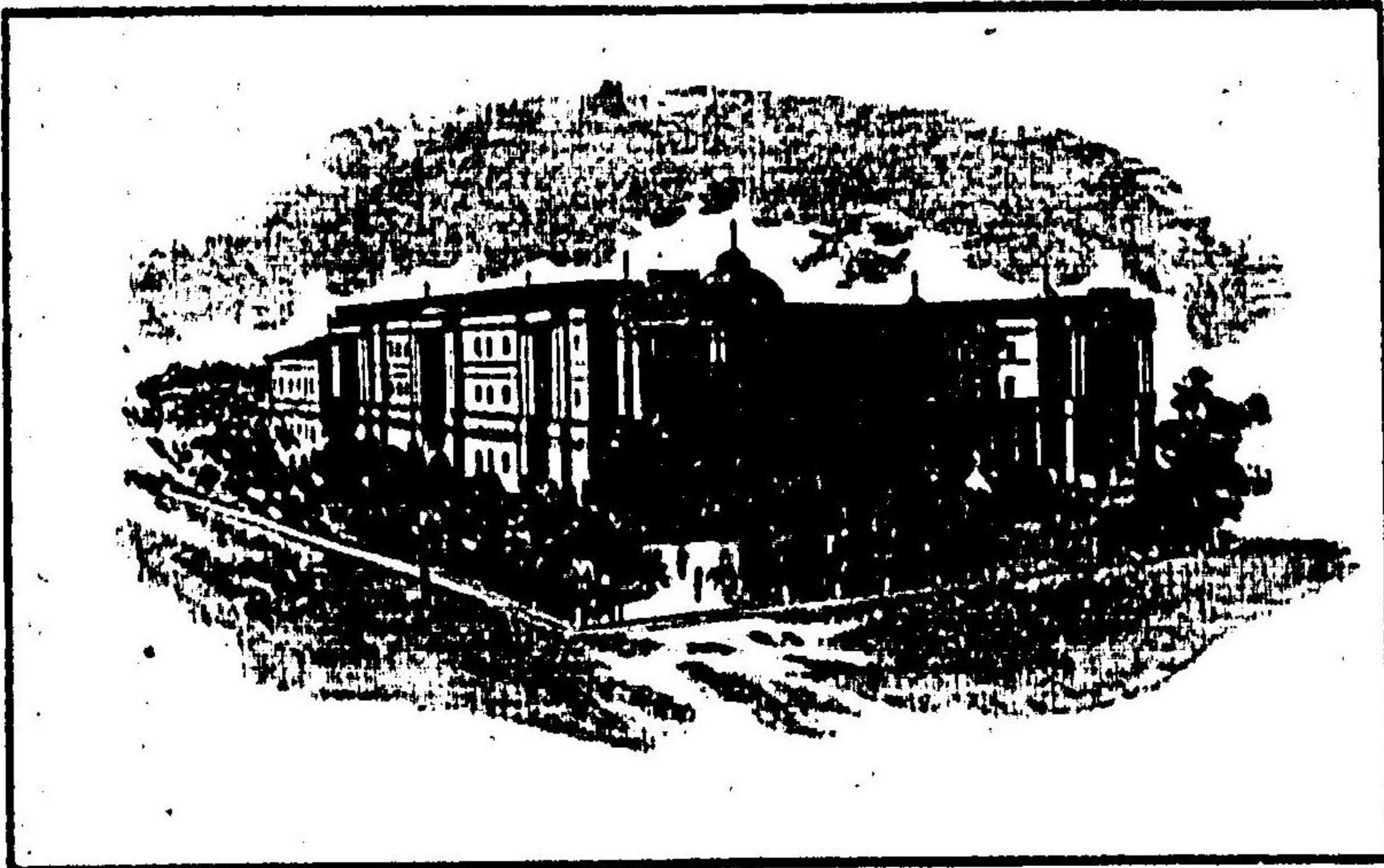
維新の初年に當りては、工業の模範を示すが爲め、政府は數多の工場を設けしが、其の後民業の發達と共に

に、紙幣印刷(印刷局)貨幣鑄造(造幣局)其他兵器火藥の製造等特別の必要あるもの、外、すべてこれを廢止し、専ら工業の獎勵と保護とを圖れり。

第七節 商業

二三、我が國の商業。我が國古來商業を輕んじ、士農工商として、商人を四民の末に置き、商人も亦た公德を缺き、卑屈に流れしが、維新後僅かに此の弊を脱し、信用制度漸次に行はれんとす。然れども商業國としては、他の文明國に比し、尙ほ遙かに劣等の位置にあり。

内國商業の大中心は、東京・大阪二市にして、名古屋・金澤・廣島・福岡諸市及び小樽區等これに次ぐ。重要なる商品は米及び酒にして、麥・茶・生絲・綿織絲等これに次ぐ。



日本銀行

金融機關としては凡そ三千の銀行あり、就中日本銀行は全國の金融を調整し、横濱正金銀行は外國貿易上の機關たり。其他日本勸業銀行及び日本興業銀行は東京市に、農工銀行は各地方に、臺灣銀行は臺北に、北海道拓殖銀行は札幌區にあり。又商業の盛んなる地方には、商業會議所及び取引所の設けあり。

政府は勸業博覽會、共進會等を開き、或は發明特許意匠及び商標登録、實業學校の増設等、大に商工業の進歩と改良とを圖れり。

二四、外國貿易。

外國貿易は漸次盛んにして、輸出入額は五億圓を超ゆるに至れり。然れども日清戰役後數年間、輸入は大に輸出に超過し、正貨は盛んに海外に流出したりき。且つ輸出入今尙ほ多くは外國商人の手に依り、外國船舶の助けを借るのみならず、輸出品の多くは生絲の如き工業原料品に非ざれば、絹布の如き奢侈品にして、工藝製作品は至て少く、輸入品と全く趣を異にするは、大に注意すべきことなりとす。

主要なる輸出品は生絲、羽二重綿織絲、石炭、銅にして、茶、

